253

292

始

ヨ3T9

ダルトン式學習の實施經驗

吉田惟孝著

東京　厚生閣刊

大正
13. 6. 6
内交

243-292

序言

一　著者は、ダルトン式學習を視察する目的で、大正十年九月歐米に渡つた。先づ英國に於て此の式の學習の實際を見學し、次に歐洲大陸に於て、自由時間割制の學習を參觀し、最後に北米に渡つて此の式の學習の發祥地をマサチユセツツ州の片田舍に訪ひ、開祖を紐育に訪づねた。歸國後、母國の同僚諸君に提出した第一報告書は（最も新しい自學の試みダルトン式教育の研究　（大正十一年十月發行）で、第二報告書は（指導案例に重を置いたダルトン式學習の實際研究　（大正十二年七年發行）であつた。後書は出版後まもなく大震災にあひ、殆んど全部を燒失した。本書は兩報告書を基にし、著者の預つて居る學校で實施して得た經驗を加へて、增補改題したものである。前述の二書を讀まれた方には、或は重複の感もあるであらうが、實施の結果に依つて、特に實際方面の改訂增補に力を用ひたから、或は御參考になる點がありはすまいかとの自負から、敢て本書を公けにする氣になつたのである。

二　ダルトンといふ名は、見慣れないかも知れぬが、其の中味は別に珍らしいものでなく、又

新しいものでもない。當り前のことを當り前にする自學補導法である。常に新奇なものを捜しまはつて、初物喰ひを得意にして居る者は、屹度やがて、弊履の如く棄てるであらう。

從來とても、自學補導を實行もし、研究もしてゐたのであるが、ダルトン式學習は、それを改良して一歩進めたものに過ぎない。寺子屋式自學は、大體、自分の力に適したものを、倦怠するまで續け得る自由なものであつたが、指導法には、別にたいした工夫もなく、諄々として講釋した位のものであつた。學級式自學は、指導はいき過ぎる位に行き屆いて居るが、四十五分か五十分の時間に縛りつけた自學である。ダルトン式學習は、此の兩者の自學の長を採り短をすてたものである。

三　寺子屋式自學の長所である、學習時間の自由を採つて、午前を自由學習時にあてゝ居る。四時間といふ長い時間を、生徒の自由に使用させて、學習の責任と能率を大ならしめて居る。かうして、時間的基礎を持つて居る學習活動に於て、時間の自由を餘りに制限した、學級式自學の短所を救はうとして居る。學級式自學の長所である、用意周到な指導を採つて、指導案を作り、なるべく能力の違つた生徒に、それ〴〵適するやうな指導に努めて居る。かうして、寺子屋式自學

の短所を救はうとしてゐる。

四　指導案は、生徒の學習の栞である。此の栞は、生徒の學習態度の熟否により、學習材料の難易により、粗くも書ければ、細くも書ける。明示も出來れば暗示も出來る、極めて伸縮性に富んだものである。そして栞から入つて栞から出るのが理想である。少くとも、教師の作製した栞に代へるに、生徒自作のを以てしようと望んで居る。栞の作製にも、獨自・相互・輔導の研究をつませて、そこにも創作的態度をとらせようと努めて居る。

五　此の式の學習の今一つの特徴は、相互學習の重視である。自らの餘つた力を、足らなくて困つて居る人のために、喜んで捧げる犧牲心の修練は其の一である。各自に研究したものを持ち寄つて、長短相補ふは其の二である。互に分擔協同して、纒まつた大きな學習を仕上げるのが其の三である。かうして、學校生活中に生きた尊い生活經驗をなさしめようとするのである。

六　何の準備もせずに、だしぬけにダルトン式學習を始めても、木に竹をついだやうで、徒に生徒を五里霧中に迷はすのみであらう。新し物喰ひは、いつも之れで失敗するのである。畠の出來てゐないところに、如何に良い種子を蒔いても生えない。生えたにしても、太く大きくは伸びな

い。ダルトン式學習は、當り前のことを當り前にする、健實な學習とはいふものゝ、當り前のことを、曲りなりにもして居らずに、直に此の學習を始めては、細心な注意と、非常な努力に待たなくては、成功は極めて覺束ないと思ふ。それで、先づ從來の學級教授に於て、自學自習を奬勵し、獨自・相互・輔導の學習に導くことは、最も大切である。かうして、自學自習の態度が、少しでも建設せられた上に、此の式の學習を施すべく工夫するのは、最も安全な仕方であると思ふ。教師も生徒も慣れないことを、直に實施するのは、餘りに冒險といはねばならぬ。死物に對する冒險は、まだ許すべきであるが、生物特に人間の子に對する冒險は、最も愼しむべきである。ダルトン式學習の大敵は、ダルトン式學習の反對者でなくて、ダルトン式學習の輕擧妄動者であることを忘れてはならぬ。

大正十三年三月

著者識

目次

第一章　誘導言　—（一）—

一　ダルトン式學習の視察　二　ダルトン式學習に興味をひいた理由
三　ダルトン式學習と知能年齢　四　ダルトン式學習の原名
五　ダルトン式學習と創案者　六　視察したダルトン式學校

第二章　ダルトン式學習の理論私見　—（七）—

一　ダルトン式學習と理論……七
二　ダルトン式學習とデモクラシー……一〇
三　デモクラシーと自我の實現……一一
四　學校生活の基調としてのデモクラシーの意義……一二
五　學習の三形式……一八

六　學習の進展と二大條件……二三
七　ダルトン式學習の特徴……二四

第三章　ダルトン式學習の方法私見

——(二八)——

一　學科の二大別と時間割……二八
二　自由學習の指導法……三二
1指導案　2個人指導　3指導教授　4ノート檢閲
5討議研究　6學習進度の記入　7優等生の指導
三　實施上の注意……五三
四　我が校に於ける實施經過……七五
1意氣の作興　2學級教授の改良　3小規模のダルトン式學習の實施
4中規模の實施　5大規模の實施
五　我が校の實施から得た經驗……八〇
1參考書の冊數　2設備費の工夫　3此の學習に對する疑點

第四章　指導案の實際

——(九二)——

一　指導案に備ふべき項目……九三
二　指導案作製上の一般注意……九九
三　國語指導案について……一〇三
四　國語指導案例集……一一一
五　歴史指導案について……一三七
六　歴史指導案例集……一四一
七　地理指導案について……一五二
八　地理指導案例集……一五九
九　數學指導案について……一七三
十　數學指導案例集……一七五
十一　理科指導案について……一九八
十二　理科指導案例集……二〇二

第五章　教師及生徒の感想　——（二一九）——
一　兒童大學々校生徒の感想……二一九
二　ストレツタム女子中學校生徒の感想……二二四
三　ストレツタム女子中學校教師の感想……二二九
第六章　ダルトン式學校の實狀　——（二三二）——
一　兒童大學々校　二三三
二　ダルトン中學校……二四三
三　ストレツタム女子中學校……二四七
四　英國ベデールス學校……二五五

——目次終——

增補改題　ダルトン式學習の實施經驗

吉田惟孝著

第一章　誘導言

一　ダルトン式學習の視察

私は大正十年の夏休みに、九十度以上の炎暑の下に汗みどろになつて、歐米教育視察の準備を纏めてゐた。愈々自學輔導學習のみを視察して來ることに大體決めたが、自學輔導學習と一口にいつても、米國のプロヂエクト法、白國のデクロリ法、以太利のモンテツソリー法、獨國の自由時間割法など頗る數が多い。そんなに澤山なものを短日月に飛脚的視察をしても、皮想的なものになるやうな氣がして、何うすればよいかと大に迷つてゐた。丁度其の時に倫敦タイムスの教育號（七月二日發行）が到着した。そしてヘレン・パーカースト嬢の寄稿にかゝるダルトン方案其の一を讀んだ。一箇年前に誰かのダルトン學校視察記を

讀んだのを想ひ起して、此の方案とデクロリ法だけを視察して來やうと定めてやつと安心した。そして彼の地に渡つてから、ダルトン式學習の視察記を縣の教育雜誌に寄せやうと思ひ、其の序言のつもりで「ダルトン方案」と題した原稿を縣の教育雜誌に投じて、九月上旬英國に向つて出帆した。

二　ダルトン式學習に興味をひいた理由

ダルトン式學習が私の興味を強くひいたのは、何も此の學習は斬新奇拔にして人目を驚かす故を以てではない。私共教育の實際にたづさわつて居る者が、多年苦しみ惱み殆んど行き詰つて居る點に對して、解決の緒を與へて呉れはすまいかと思はれたからである。今迄に色々な自學輔導法は提供せられたけれども、或る者は高遠な理想に心醉するの餘り、不完全な實際との調節を忘れ、或る者は根本の原理を疎かにして方法の末枝に走つたために、共に健實な自學輔導學習に失敗した。ダルトン式學習は理想的方法ではないが、教師や設備の不完全な我が國の實狀に施して、誤の少い最も適切な方法であると思はれたからである。

三　ダルトン式學習と知能年齢

十人十色は吾等の祖先が經驗から歸納した結論である。此の結論に基いて寺小屋教育も私塾教育も施されてゐたやうに思ふ。然るに明治維新は、歴史的に發達して來た貴重な我が國の教育を全く打ちすてゝ、歐米の學校教育法を採用して學級教授を行ふた。爾來向學心の發達につれて、生徒は校舍に溢れ、益々尨大な學級を編制して學級教授を忠實に行ふた。學級教授の心理的礎基は、同一年齢の者は同一程度の知能を有して居る者との假定の上に立てられて居るやうに思ふ。然るに實驗心理學は必ずしも然らざることを立證して居る。同一年齢でも、知能を基礎とした知能年齢に於ては、殆んど同一でないことを發見した。それで今後の教育は、自然年齢よりも寧ろ知能年齢を標準として施すのが、合理的であるといふ結論を得て居る。

我が國の教育者も經驗の結果從來の學級教授に慊き足らず、如上の新原則の上に教育を建設しやうと苦心して居る。其の結果は劣等兒の指導となり、低能兒の研究となり英才教育の唱道となり、分團的取扱兒童中心主義の教育、學習態度の改良、自學輔導法、自由教育等の叫びとなり研究となり試みとなつてあらはれた。之れ等はそれぞれ方法や着眼點に差異はあることゝ思ふが、

生徒各自の智能に適應した教育を施さうといふ點に於てはすべて一致して居るやうに思ふ。ダルトン式學習は、大膽に小心に智能適應の教育を施さうとする實際案であるともいへる。

四　ダルトン式學習の原名

ダルトン式學習の原名は「ダルトン實驗室方案」といふのである。ダルトンは北米マサチユセッツ州に在る小都邑である。此處にあるダルトン中學校（男女共學）に於て、ヘレン・パーカースト孃は一九二〇年二月（大正九年二月）に初めて大規模に此の方案の學習を試みたのである。實驗室とはすべての學習を實驗室に於ける學習の如く、生徒は自ら實驗觀察し、必要に應じて學友に相談し、教師の輔導を受けて自ら纒めてゆく學習を意味し、從來の學校教授に聯想する、死知識の詰込や堆積とは大に異つて居ることを明白にせんがために命名したものであらう。今一つは學校といふものを社會的生活氣分の漲つてゐるものとなし、社會的生活の模範的實習場たらしめて、有爲の市民たる基礎を築かうとする意味を含ませてゐるのであらう。

五　ダルトン式學習と創案者

此の學習の立案者はヘレン・パーカースト孃である。孃は北米合衆國人である。實驗室方案といふ名を思ひついたのは、一九〇八年（明治四十一年）にスウィフト氏の「成功者の心」を讀んで「……最も合理的な學習は、教師は生徒と共々に學び、其の間に生徒をして自ら研究し、自ら統整するやうに導いてゆけばよいので……さうすると教室は教育的實驗室になるであらう……」といふやうな意味の句から啓發せられたものである。一九一一年に初めて實施し、一九一三年に大體の纒まりをつけ、一九一九年に跛足の男子學校に實施して効果を認められ、一九二〇年にダルトン中學校に試み、英國の視察員の參觀を受け、英國に紹介せられて俄に歐洲に於て有名となり、實驗室方案の上にダルトンをつけて呼ぶやうになつた。現今は紐育市に兒童大學々校といふ私立學校を經營し、自分の信ずるところを何等の束縛を受けず、自由に實施し研究して今日に及んで居る。兒童大學々校といふ名は如何にも奇異に感じたので、私は同校の一女教師にきゝたゞすと、「大學生の如く自由に學習し創作せしめるといふ意味であらうと思ふ云々」との答である。孃は英國の教育雜誌に意見を發表し又親しく英國に渡つて講演指導を行ふたので、現在のところお膝元の米國よりも却て英國の教育

界に多大の反響を及ぼして居るやうに思ふ。倫敦大學教授ナン氏は、パーカースト孃の著書の序言に「……一九二一年七月にパーカースト孃は英國に渡つたとき、倫敦市立ストレツタム女子中學校長ローザー・バセツト孃は研究者のために三日間學校を公開した。ストレツタムの通路は參觀者で埋められた……」と述べて居る。

六　視察したダルトン式學校

したのは、米國ではパーカースト孃の經營して居る兒童大學々校とダルトン中學校（校長はアーネスト・ヂヤツクマン氏）、英國では此の方案を最も大規模に實施して居る倫敦市立ストレツタム女子中學校である。英國に於て男女共學で名高いハムプシーア州ビータースフィールド町にあるベデールス學校は、親しくパーカスト孃の指導を受けて此の方案を實施して居るので、同校々長バツドレー氏に乞ふて同氏の意見と經驗の結果を記錄した報告書と、學習上に使用して居るカード及び其の說明を貰つた。兒童大學々校とストレツタム女子中學校では、私の參觀した日に十數名の男女教員の參觀者があつたので、學校長から約一時間にわたつて其の校の實施狀況の說明を

聞いた。以上の參觀・報告書・學校長の說明・關係著書によつて啓發せられたことを經とし、私の預つて居る學校に實施した小さい經驗を緯として、ダルトン式の自學輔導學習を述べて見やうと思ふ。

第二章　ダルトン式學習の理論私見

一　ダルトン式學習と理論　最近は精神的事業の理論的根據として、新理想主義の哲學を當て嵌める傾向が强いやうである。教育の實際に從事してゐる者も、マールブルヒ派の哲學とかバーテン派の哲學とかを借用して、自分達のやつてゐることに權威づけねば肩幅が狹いやうになつた。後から括つ付けた理論は借物であるから、シツクリ合つて居る居らぬは別として教育實際家が多年の經驗から案出した方法を、最も進步した哲學に照らし合せて規正してゆかうとする態度は誠に結構なことゝ言はねばならぬ。理論家は理論に沒頭して實際を忘れ、實際家は實際に膠着して理論を輕んじ勝ちのものであるが、斯くては高遠な理論も空理に流れ着實な實際も行き詰るのが普通である。此の兩者を握手せしめやうとする教育實際家の努力は誠に緊要なも

ので、それ等の人々に對して深き敬意を拂ふべきであると思ふ。

自學輔導の學習は谷本富博士によつて唱導せられて以來、此の方面の研究は頓に盛となり、色々な新しい造語によつて應接に遑のないほど澤山の意見や方法が發表もせられ實施もせられた。中には自說自法を高調力說するの餘り、從來のものを一も二もなく舊式のもの時代錯誤のもの謬れるものと痛罵したために、又之れ等の隨喜者は徒に形骸を眞似て精神を忘れたために、非難攻擊の的となり癒やすべからざる創痍を蒙つて倒れたものもあつた。乍併之れ等の人々の奮鬪のために、自學輔導の學習も今日のやうに發達したのであることを想へば感謝に堪えないものがある。

ダルトン式學習といふ名は目新しいものであるが、其の中味は別に珍らしいものでない。何十年來我が國の識者が唱導してゐた、自學輔導學習の一方法に過ぎないのである。廻り遠い理論よりも手つ取り早い實際を尊ぶ亞米利加に生れたもので、深遠な哲學から割り出された學習法ではないやうである。故に其の理論的根據も未だ確立して居らぬと言つてよい。寧ろ實際が先づ生れて

來て、今後生長するに從つて其の中から原理が生れ出るのであらうと考へられる。創設者のヘレン・パーカースト孃も、深い哲理を極めて此の方案を工夫したものでないらしい。デモクラシーの濃厚な空氣に浸つて育つてきた孃のことであるから、此の亞米利加の傳統精神は何時の間にか心の奥底に育まれてゐて、學校教育もデモクラシーの精神に滿ち之れを養ひ之れを助けるものでなければならぬといふ信念は、人一倍强く持つてゐたに相違ない。孃は此の信念から從來の學習を眺めて、何となく物足りなく感じた其の感じが、ダルトン實驗室方案を建設せしめたのであらう。それで此の方案に理論的根據を與へやうとするには、デモクラシーの精神、即ち自由と平等の意義を明かにする方が最も捷徑であると思ふ。

私は教育の實働に從事して居る教育勞働者である。自由平等の哲理を口にし、筆にするのは、柄にもないことであるから、なるべく避けたい。かやうなことは、斯の道の專門家に聽いて、自分の納得出來る點だけを採つて、以て教育の實際の生長に利用してゆけばよい。私が次に述べることは私の常識から割り出した一家言であつて、カントの哲學から得たのでもなく、又新カント

派の哲學を借用したものでもない。故に自分勝手の用語例も少からずあることであらう。

二　ダルトン式學習とデモクラシー

學校生活は即ち社會生活であらねばならぬといふことを強く主張して居る。思ふに現代社會生活の基調はデモクラシーである。國際聯盟も國際的生活を權力關係（オートクラシー）から脱して、デモクラシーの精神の上に改造しやうとする企に外ならない。あらゆる社會生活をデモクラシーの精神の上に打ち建てやうとするのは、大戰後に於ける最も著しい現象である。教育界は如何に保守者の——自らは健實といふ美名の下に安住して居るが——巣窟とは云へ、如上の大潮流の圏外に押し除けられて、獨り桃園の夢を貪つて居る時ではない。學校生活もデモクラシーの精神に基けるもの、此の精神の漲れるもの、此の精神を涵養し得るものであらねばならぬ。然るに從來の學校生活の基調は、何れかといへばオートクラシーに近い。此の專制時代の精神が根强く蔓つてゐて容易に拔けない。そして此の精神を教師の威嚴とか團體的訓練とかいふ美しい名で言ひあらはして居る。教師の威嚴も團體的訓練も極めて大切なものであるが、其れに含ませて居る意味と方法には、兩者

の間に少からぬ隔りがあるやうに思ふ。自然に頭の下がる先生と、恐ろしくてビクつく先生とは天地の差がある。嚴格な命令と細密な監督を以て一絲紊れざる坐作進退をなすのと、自ら作つた規則或は與へられた規則に喜んで服從し進んで守り、複雜の中に統一あるのとは霄壤の違ひがある。此のやうに兩者の內容は異つてゐても、それをあらはす形式は教師の威嚴又は團隊的訓練の一つしかない。形式は固定性を有し內容は社會生活と共に進展する。ダルトン式學習はデモクラシーの基調に立つといつても、教師の威嚴を無視するのでもなく又團體的訓練を破壞するのでもない。新しい意味に於て改造しやうとするのに過ぎない。

三　デモクラシーと自我の實現

デモクラシーは自由と平等を高調する。此の基調に立つ教育は要するに自我の實現を期する。自我には個性と通性がある。個性の發展によつて社會生活を複雜にし、通性の發展によつて社會生活を統一する。複雜の中に統一ある社會に生活することによつて始めて自我の實現を完了し得る。個性のみに偏すれば已れあるを知つて他あるを知らず自他相食む野獸生活に墮し、統一のみに偏すれば固定硬化して型にはまりドングリの

背戻べとなり進歩を阻害し退化する。生活を複雜ならしめる個性は自由の境遇を與へられることによつて發展し、生活に統一あらしめる通性の發展は平等の境遇を與へられることによつて發展する。自由なれば自らの目的に從ひ自らの方法によつて實驗・觀察・思考・統整するが故になすことに責任を負ひ、其の經驗は眞に消化し個性は遺憾なく發展し生活に進歩あらしめる。平等なれば自他を敬愛し互に協調して生活に秩序あらしめる。進歩と秩序、複雜と統一は要するに自我の二方面である個性と通性に基き、個性と通性は渾一融和して自我となつて居る。此の二方面は人によつて其の傾きに强弱はあるが孤立したものではない。

ダルトン式學習に於ては、學校生活を改造して生徒は自ら活動して個性を助長し、自ら協調し通性を進展し得るに最も都合よき境遇をつくることに努めて居る。換言すれば、學校生活に於ては生徒は生活實驗者であつて教師は輔導者である。輔導者としては常に生徒の生活實驗を觀察し生徒の長短所を明かにし彼等の質疑に對して適切な輔導を與へねばならぬ。

四　學校生活基調としてのデモクラシーの意義

デモクラシーの道德

的主調は敬愛である。敬とは自他の人格を尊敬することであつて、お互に本務を遺憾なく盡すことを意味して居る。愛とは同情相愛であつて、自他融合の狀態である。敬の究竟は愛であることは、吾々が人格者を敬する度が嵩じて、師父の如く愛するやうになるのをみても明かである。故に敬と愛は相即のもので、敬は差別、愛は平等の觀方に過ぎない。

敬愛を以て自己に對すれば、自らの本務を自ら進んで盡すことになるから、自立の德は成り立つ。他人に對すれば、少くとも他人が本務を盡すのを妨げず、出來ることなら助力することになるから、協同の德は成り立つ。父母長上に對すれば、喜んで其の教へに從ふことになるから、從順の德は成り立つ。自立・協同・從順はデモクラシーの三大德である。此の德を備へて居ることは良生徒・良市民・良國民・良人間として缺くべからざる資格である。故に此の德を育成する教育は、眞の市民教育であり、國民教育であり、又人間教育である。ダルトン式學習は、斯のやうな教育を施さうとするものであると思ふ。

發動・工夫・努力はデモクラシーの三大心的作用である。發動は理想追求に伴ふ積極的意志とも

いふべく、工夫は理想實現に伴ふ想像思考の作用が主であつて、努力は理想追求に伴ふ消極的意志ともいふべきものである。此三者の活動にからみついて、相互作用をなして居るものは、滿足不滿足の感情である。滿足不滿足は、活動の結果から見たものであつて、理想追求の活動其のものから見れば、愉快の感情が伴ふて居るのみである。成功の滿足も大切ではあるが、それよりも活動の快味は更に尊いものである。

或人或日カーネーギー翁に、「あなたは今では、數億弗の大財產家で、押しもおされぬ世界の百萬長者である。さぞ愉快なことでせう」「いや〳〵數億弗は愉快の箱です、今は其の箱を如何にして處分したらよからうかと、心配して居る始末です。數億弗を儲ける毎日の活動の愉快が羨ましくてならぬ」。

「金持と灰吹は、溜まれば溜まるほど汚い」といはれるのは、翁の所謂箱に目がくらんで、箱の根本である活動の快味を忘れるからではあるまいか。教育に於ても、學習の結果に重きを置き過ぎると、入學試驗準備風の教育に流れ、如何に多くを知つて居るかの量を重んじ、學習はます〳〵注入となり、受動となり模倣となる。之れに反して、學習の過程に今少し重きを置けば、如何に多くを知り得るかの質をも重んじ學習は自學輔導となり、發動、工夫、努力的にならざるを得ないのである。

ダルトン式學習の創始者であるパーカースト嬢が、其著に述べて居る學習の原則ともいふべきものは大體次のやうな趣旨のものである。……大ザツパな言ひ方であるが、舊時の學校は修養教化の上に立ち、現時の學校は生活經驗の上に打ち立てられて居る。ダルトン實驗室方案は、之れに依つて、新舊兩方の目的を調和達成しやうとするのである。修養教化といつても、それは廣い人生經驗の一形相に過ぎない。故に正しい人生經驗の修練によつて、修養教化を體得し得るのである。ダルトン案は學校生活を、社會生活の模式的經驗場たらしめて、尊い人生經驗を修練せしめやうとする案である。而して、社會生活に於て最も重きを置いて居る一要件は、各個人をして、天賦の良素質を遺憾なく發揮せしめるために。自由を許すことである。眞の自由は、固より我儘勝手ではないが、さればといつて、鑄型的模範を意味するものではない。此の兩者とは全く異つたものである。何となれば、此の兩者は共に不自由極まるものである。自分の好きなことを好きなやうになす生徒は、一見自由のやうではあるが、彼は私慾や惡習癖に酷き使はれて居る奴隷である。奴隷的生活に自由のある筈がない。斯のやうな我儘勝手的自由者は、社會生活の適者ではない。舊時の學校の得意とする、鑄型的模——似非訓練——は、自己一流の頑固型に嵌めて敲いて押し出した人形を目的とするのであるから、自由のないことは說明するまでもない。眞の自由は公共善のために、進んで他と協力し、意識的に社會奉仕をなし得る、極めて共同性に富んだ强い責任感を濃厚に含んで居る自由である。ダルトン案では、學校生活の一大仕事である學習を、自由と協力の二大原則に從ふてなさしめることによつて、右述べたやうな自由人をつくらうとするのである。

第一自由の原則　學習能率を高めやうとするには、自分の心身の狀態に、最適當した學科と材料を選び心ゆくばかり、ミッシリと學習し、淡き疲勞を感するまで繼續すればよい。こんなことは、私共の經驗を省察して見ても、餘りに明白なことである。試にシト〳〵と降る春雨の日曜日を、讀書で寞らさうと定めたとせよ。昨晩散歩の序に、書店で求めて來た、新刊書の通讀にとりかゝつたとせよ。長たらしい序言に厭氣がさしたが、我慢して讀んでゆくうちに、一頁は一頁と面白くなり、夢中になつて讀み耽つて居るとき、友の訪れにあふて中止したとせよ。友の去つたあとで、前のあとを讀み續けやうとしても、腰を折られたやうで、暫くは油は乘つて來ない。否、とうとう乘らずにやめることが多い。興趣の湧いたときは心の活動の頂點に達したときで、學習能率の最も大なる時である。此の好機を逸しては學習能率の高まらう筈がない。ダルトン式學習の創設者は夙にこゝに氣づき學習時間の使用と學習學科の選定に、自由の餘地を大きくし、從來の時間劃的學習が、一時間内の自由を許して居たのを、擴張して一ヶ月にした。斯うして各生徒をして、淡き疲勞を覺えるまでゆつくりと學習を繼續せしめ、學習能率の高上をはかるやうにした。之れは、最近實驗心理學の研究結果に合する合理的な方法である。學習の終始を金屬のベルから心身のベルに移したのは、バーカースト嬢の一大貢獻である。

第二協同の原則　デューイー博士が、「民主主義と教育」中に述べて居ることは、協同の原則の精神を最も能くあらはして居る。……民主主義的教育の目的は本人の直屬して居る團體生活に於て、單に知識方面の分擔者をつくるのではない。一個人でも、一經濟的團體でも、他を度外視しては、何事も成し能はざること

を知らしめるのが目的である。協力同心して團體の進歩發展をはかることは、即ち個人の發展である所以を知らしめるのが目的である。公共善のために、自己犧牲をなして自己實現をなす個人をつくるのが目的である。すべて團體をして、確乎たる相互生活をなさしめるやうにするのが目的である。之れを要するに民主主義の目的は、特質のある協同人をつくるのが目的である。從來の學習は、個人本位であつて、自分さへ能く學習して、良い成績をとれば、優等生となり、特待生となり得るので、級のために、一擧手一投足の勞も惜しみ、友の困難を見ること、路傍人の如く冷淡であつても、それは優等生となるに、大した問題とはならないのである。此のやうな孤獨的學習であるから、試驗前には、かくれて猛勉强しながら、してゐない振りを見せて、友の勉學心を弛め知つてゐることも、知らない眞似して、友の困難に助力しない、利己的個人をつくるやうになるのである。ダルトン式學習では、學習即訓練であつて、學校生活即社會生活である。學習に於て、自力でなし得ることは、人をあてにせぬ自立人をつくると共に、朋友互に切磋琢磨してゆく協同人をつくる學習である。從來の學習は一時間毎に課程が定められて、學級學習をしたのであるから、一見協同精神は、濃厚に養はれるやうであるが、教師の意のまゝに、操人形のやうに藝當して居る者は、其の場限りの協同は出來ても、發動的精神から起つたものでもなく、又責任感から湧いて出たものでもないから、永續性を持つて居る眞の協同ではない。眞の協同は自由と責任の感から生れてくるものであらねばならぬ。

從來の學習では、各教師は自分の擔任學級だけの世話をして居れば、それでもよい組織（學級擔任制）

であつたが、ダルトン式學習に依ると、一人の教師が、澤山の兒童に接し、各教師が協同して兒童の教養に當らればならぬ組織であるから、學級に籠城し孤立してゐる教師が、學校に開放せられ協同するやうになつて來たので、兒童の協同と共に、教師の協同を進めるやうになつた。之れを要するに、學校は學習所であつて、又人生の經驗所である。社會生活の一斷面相である。社會生活の模範的實習場である。自立と協同は相提携して、渾一生活を經驗する道場である。

五　學習の三形式

學校生活を社會生活の模範的實習場たらしめるには、學校生活の殆んど全部を占めて居る、學習の改善に依つてなすべきである。換言すれば學習をデモクラシーの精神に基いてなさしめればよい。即ち前述した道德を含み、心理に從ふた學習を建設することによつてなし得られる。學習は流動發展してゆく一つの過程であるけれども、之れが特質を明らかにするために、大體三つに分けて考へることが出來る。獨自學習、相互學習、及び輔導學習之れである。此の三者は實際に於ては、相錯綜して進行するものである。

（一）獨自學習とは、與へられた――或は自ら選擇した――材料を、自己の過去の經驗の結果を基として、解し味ふ學習である。　獨自學習の眼目は「經驗の結果を基」とするといふ點であ

る。先づ自分の現在有して居る讀書力、數學力に依つて文章を推讀推解し、問題を推理證明すべく努め、自力でなし得ることは何處までも之れを自力でなし、濫に辭書や他人に依賴しないといふ精神の上に立つ學習である。

（二）相互學習とは獨自學習によつて得た結果を持ち寄つて學友互に切磋琢磨する學習である。

相互學習の要點は、「結果を持ち寄る」といふことである。結果を持ち寄らざる學習は時間を空費するのみならず、優等生の意見を其の儘受け容れるといふ依賴的學習・受動的態度に傾き易い。發動的學習の流行しかけた時は、學級は二・三の優等生の活動舞臺で他の數十人は、觀客であり、傍聽者であつた。斯のやうな學習は、こゝにいふ相互學習でないことは勿論である。如何に貧弱であつても、自己の力に依つて得た結果ならば、それは其の生徒にとつては、自己力作の結晶であつて、此の上もない尊い愛着の深いものである。斯のやうな結晶の持主であつてこそ、始めて他人の意見を眞劍に聽き、採るべきは採り、捨てるべきは捨て、そして、自分の力作の結晶をます〳〵光りあらしめ得るのである。相互學習に於ける切磋琢磨は、お互に結果を持ち寄ることによつて、成し得るものであることを忘れてはならぬ。

相互學習の今一つの形式は、一つの學習事項を分擔して研究する仕方である。例へば國語ならば、意味をとるもの二人、辭書（なるべく異つた辭典）を引く者二人、合せて四人二組で、分擔協力して研究する。字引を引く役は、誠につまらぬけれども、協同事業をなすには、椽の下の力持を甘んじて爲す者がなくては、役の振り當に不平が絶えないので、共同一致は困難である。誰しも花形役をつとめたいのは人情であるが、そこを忍んで、出來るなら喜んで、人のいやがる役目をひき受け、共同一致を圓滿にし、團體の發展のために、自己犠牲をする訓練を、學校生活中に於てなすことは最も大切である。但し相互學習に於ける分擔は、とりかへてするので、固定して居るものではない。

（三）輔導學習とは、上述の學習によつて得た結果について、教師の輔導を受け、更に精錬してゆく學習である。　結果は之れを三つに分けて考へ得る。分つたと思ふこと、疑はしいと思ふこと、全く分らぬこと、之れである。後の二つは輔導を受ける第一であるがこれを第二として、前者について輔導を受けることもある。何れにしても、なるべく自分の考へを述べて、輔導を受けるのがよろしい。前述した學習から出て來た質問ならば、當然自分の意見や感じを交へた、質

問となつてあらはれる筈である。考へた質問、深みのある質問、價値のある質問は、斯うした學習から生れて來る。駄問の連發は、學習の態度が出來あがらない證據である。

輔導の仕方は、見人說法的であらねばならぬ。一から十まで親切に說明する教授を喜ぶのは、從來の學習に囚はれた生徒である。特に女生徒は嚙んで含めるやうに、反覆丁寧に說明する教授を喜ぶ風が强い。されど如上の學習態度が出來あがつてくると、所謂親切丁寧な教授を嫌ひ、一隅をあげて三隅を考へさせるやうな教授を好むやうになる。自分の力でつくりあげたものは、假令吐き出すやうな貧いものであつても、人からの貰ひものではない、自分の溫い血の流れて居るものである、價値を感ぜずには居られない。それは自力でつくりあげるまでの努力、其のものに言ひ知れぬ尊さを味ひ得たからである。發動・創作・努力の心的活動は、以上の何れの學習にも通じて居るものである。

獨自學習によつて自立の德を、相互學習によつて協同の德を、輔導學習によつて從順の德を修練し得る。自力でなし得ることを人に依賴せず、自らなすことが習慣になれば、自立の德が出來

上り、此の德によつて獨自學習が完全になし得るのである。人の意見を虛心怛懷に聽き容れ、自說の缺陷を率直に訂正し得る雅量を有し、言葉尻を捉へ、あげ足をとつて痛快を叫ぶを卑劣と感じ、お互に人格を敬愛することが、習慣になれば、協同の德が出來上り、此の德によつて相互學習が完全になし得るのである。師を敬愛することによつて、師の輔導は本當に心身に着き感謝に滿ち、從順の德が出來あがる。從順ならざるものは、輔導し能はざるが故に、此の德によつて輔導學習は完全になし得るのである。斯のやうに學習と道德は相互作用をなすものである。ダルトン式學習に於て、相互學習を尊び、協同の精神を重んずるのも、之れがためではあるまいか。

獨自・相互・輔導といふやうな學習の徑路は、獨り學校生活に限られて居る特殊性のものではない。社會生活に於ても、之れに類したものがある。假令ば、百姓が稻作をなすにしても、與へられた田に本年はどのやうにして稻作をしやうかと、稻作に關する自己の過去の經驗の結果を基礎として考へ、隣人の誰彼の經驗をきいて參考に供し、更に村の老農或は農業技手の指導を受けて、稻作に着手するのが普通である。之れ等は、少くとも心ある農夫のなすべき手續である。勿論いつも此三つの手續を經て着手するものとは限らない。或者は自分の過去の經驗のみに依り、或者は隣人の經驗を參考とするに止まることのあるのは

言ふまでもない。

六 學習の進展と二大條件

デモクラシーの基調に立つ、學校生活の發達を滑かにし、學習の進展を完うするには、生徒相當に意志活動の自由を許すこと、强健なる身體に待たねばならぬ。自由と强健は、デモクラシーの生活を進行せしめる心身上の二大條件である。自由のないところには責任感起らず、發動的態度生れず、創作の餘地なく努力の快味を體驗することは望まれない。從つて學習は受動的に模倣的に、無氣力になつてゆく。生徒相當に自由活動を許すとは、無制限の自由を許さぬといふ意味である。意志の修練弱く、知見の發達少く、情緒の激烈なる少青年に、無制限の自由は、往々彼等をして私慾の奴隷とならしめ、惡習慣、惡品性を形成せしめる危險がある。自由を許す範圍は、生徒の修養の程度によつて定まるべきものである。之れ生徒相當に自由活動を許す所以である。私の最も恐れて居る點は、生徒の私慾を抑へることに汲々たる消極的教育である。私は寧ろ善に向つて突進する、意氣の充實した生活を鼓舞激勵し、生徒自ら進んで私慾を抑へてゆく積極的教育を高く强く叫びたい。私共は自由を尊重するけれど

も、其の自由はいふまでもなく倫理的自由であつて、心理的自由ではない。

少青年は、暫くもヂッとして居れぬのが本性である。笑ひたい、騒ぎたい、活動したいのである。自己を遊技に沒入し、讀書に埋沒したいのである。自己のすべてを事物に投げ出して、無心の境地に遊ぶといふ自己投出生活は、彼等の健全な生活である。動中靜あり靜中動ありとか、無念無想とか、自己凝視とかは彼等の得意な生活場面ではない。彼等に相當な自由を許し、思ふ存分に學び、遊び、無心の境地にあらしめるのは、彼等の心理や生理に適當した學習であつて又修養である。自らの罪をしみ〴〵と味ひ、我は罪の子であると煩悶焦慮し、或は釋迦にゆき、或は基督にゆき。迷いに迷ふたドン底から、一縷の光明に接せしめるといつたやうな修養は、自己投出生活の發達段階にある、彼等の學習の根柢としては、不適當である。若し强ひて之れをなさうとすれば、之れ少青年生活を、大人生活の型に盛らうとする企で、小さい聖人をつくる不自然に陷ゐる。斯のやうな教育は握飯教育ともいふべきものである。全體としての形は調つてゐても、一粒一粒の飯は壓し潰されて居る。師範教育は潑溂を缺き、女子教育は生氣を失ふてゐるのは小さい聖人をつくるために大きい聖人に伸びてゆく芽を摘みとるためではあるまいか。

七　ダルトン式學習の特徴

上述のやうな趣旨のもとに教育を施さうとするダル

トン式學習は、從來の教育に種々な改革を加へて居る。其の中で最も新しいと思はれるのは、從來のやうな時間割を撤廢したことである。これは生徒に自由の境遇を與へ、興味を持つて學習せしめんがためである。實に自由學習はダルトン式學習の一大特徴である。從來の教授書には、時間割を編製する上に、種々な注意を列擧して居るが、學習に變化を與へて生徒に倦怠を催さしめないのが中心注意のやうである。換言すれば、興味をもつて學習せしめやうとするのである。「好きこそものゝ上手なれ」といふのは、今日の心理學が「興味のないところに努力はない」と教へてくれるものと同じ意味である。學習に興味があれば、疲勞少くして多大の結果を獲得し得るから學習經濟の原則に合して居る。然らば、從來の時間割的學習は、果して此の原則に合して居るであらうか。一時間毎に轉々と學科を變更する學習の仕方は、興味の起りかけた頃、新しい學科に移つてゆかねばならぬこともあり、又興味が既に醒めてしまつても續けねばならぬこともあり、初めから興味の起らないのに學習を强ひられることもありはすまいか。從來の時間割的學習は、一見變化があつて興味がありさうに考へられるが、其の實は反對のことが多いと思ふ。

ベルがなる〳〵、悲しいベルがなる。嬉び遊びし子等の顏は曇る。重い足をひきずりうなだれゆく。か

うして教室の闘はすりへらされる。

興味のない學習を續けさせるために、教授術といふものが工夫される。管理とか賞罰とか稱する方法が案出せられる。教師の威嚴?とかいふものも必要になる。あらゆる新奇な方法を考へ出して生徒をダレさせないやうに努める。之れに成功すれば、批評教授の選手となり得る。かうして教授はます〳〵技巧の末に走つていく。

どの教授法書を見ても、發問教式の大切なことを說いて居る。教授の巧拙は、發問法の如何によつて定まるとまで力說して居るのもある。ダルトン式學習では、寧ろ質問教式を高調する。發問教式は、教師中心の教授となり、質問教式は、生徒中心の學習となる傾きをもつて居る。從來の質問教式では「分らないことはありませんか」と一般生徒に催促する。そして一生徒の思ひつきの質問を他の數十人にきかせる。若し他生が同一の質問を繰り返すと、「ボンヤリして居るから同じことを又きくのです」とたしなめる。此のやうな催促的聽聞的•質問教式は、眞の質問教式ではない。眞の質問教式は、必要に迫られて教師或は同僚の指導を求める質問でなくてはならぬ。

必要は知識の母であるといふ金言は、質問教式の格言である。故に同一の質問であつても、質問者の學習過程や能力などによつて指導的解答は異つてくる。甲生には此の點を今一度考へて御覽乙生には何處から何處までを熟讀して御覽。丙生にはそれは斯く斯くであるといふやうに、見人說法的指導となるのが當然である。此のやうな質問は、自由學習からドシドシ生れてくる。又、たゞ置きや宵越しの質問は氣が拔けて居るが、自由學習から起る質問は、ハチ切れさうに必要感が滿ちて居る。必要感の滿ちてゐる質問でなくては、教師の指導がピシリと來ない。

從來の時間割を撤廢して、自由學習をなさしめるといふことは、生徒を勝手放題に遊ばすといふことではない。生徒をして自分に適した時間割を作製せしめて、發動的に學習せしめやうとするのである。前にも述べた如く、生徒には學科に得手不得手あり、心的活動に遲速深淺あり、或る學科に氣乘りのするときとしない時とある。此のやうに千種萬態の者であるから、一定の時間に一定の學科を一樣に學習せしめる仕方は、不合理であることは明らかである。從來の教育では殆んど上述のことにお構ひなく、國語の時間ならば、「讀本を出して、何ページを開いて、今日は

第何課ですね、皆さんどんなことが書いてあるか、能く讀んで御覽」といつたやうな調子で、教師は机間巡視と稱して机の間をコトンコトンと散歩するのが常である。之れは餘りに生徒の欲求を無視するやり方であると心づいた教師は、「今日は支那の地理を習ひませう。何んなことが習ひたいか」と生徒の欲求をきいてみる。更に思ひ切つて、「今の時間に何を習ひたいか」と大きく出る。そして大抵の場合は、一人か二人の出しや張り兒の言をとりあげ、それを全生徒の欲求と見做して教授を進めてゆく、此の仕方は、一見生徒の欲求に從ふ自由學習のやうであるが、其の實は一・二の生徒の思ひつきの欲求を全生徒に强ひた、似非自由學習で、眞のものではない。ダルトン式學習では、生徒は自分の心身の狀態を考へ、自分に最も適した時間割をたてゝ學習するのであるから、內部的欲求に基く學習となり、發動的創作的にならざるを得ない。

第三章　ダルトン式學習の方法私見

一　學科の二大別と時間割

自由學習を主とする學科と學級學習を主とする學科の二つに分ける。前者に屬する學科は、主として心力を練磨し、日常生活に必須なる知能を得させ、目からの學習に適したものであつて、國語・數學・地理・歷史・理科と圖畫・手工・裁縫・家事は其の主なものである。後者に屬する學科は、主として體力を練磨し、社會的意識を涵養し、情意を陶冶し、耳からの學習に適したものであつて、體操及運動・旅行及遠足・唱歌及歌劇・修身及訓話は、其の主なものである。斯のやうに學習の仕方によつて學科を二大別したけれども、之れは主とする學習といふ見方からであつて、全然之れに限るといふ窮屈なものではない。嚴密にいへば教材の性質によつて、自由學習にすべきか、學級學習にすべきかを定むべきものであつて、學科によつてなすべきものではない。

自由學習を主とする學科の學習時間割は、生徒各自が各自に最もよく適するやうに作成する。學級學習を主とする學科の學習時間割は、從來の如く學校が作成して生徒に示す。西洋では午前は自由學習で、午後は學級學習であるのが普通である。そして一週の學習日は五日であつて、土曜日と日曜日は休業であるのが多い。「二日も休むとは多すぎはしませんか、日本では一日しか休みません」との問ひに、「否、休みは一日しかない。日曜日は精神教育を受ける日で、教會といふ學校に出席せねばならぬ」との答を得た。

従來のやうな時間割的學習は、如何なる學理的根據の上に立てられたものかは明らかでないが今日の進歩した實驗心理學の教へるところに依ると不合理な學習である。仕事の能率は曲線的に昇降するものであることは、獨り實驗心理學の證明するところでなく、吾々の日常の經驗を内省しても容易にうなづかれる明らかなことである。讀書にしても、稻刈にしても、初めの間は進みはのろいが、だん〳〵早くなり、最も迅速正確な時は、所謂油の乘つた時で、仕事の質量は最も大である。それからは漸次進みは遲くなり、不正確の度は增して來る。それで仕事の能率を最も大ならしめるには少くとも能率曲線が頂點に達して下降し始める頃、即ち淡き疲勞を覺えるときまで仕事を繼續せねばならぬ。而して仕事繼續の適當な時間は、人により材料により時によつて一樣でない。國語に得意な者は、數時間繼續的に學習しても疲勞しないが、不得意な者は一時間を出でずして疲勞するのが普通である。されど國語と一口にいつても、散文あり、韻文あり文法あり作文ありで、形式上及び内容上千種萬態である。假りに文を知的文と情的文に二大別したとしても、前者に得意な者は必ずしも後者に秀でた者ではない。故に同一人にしても知的文は疲勞速かであるが、情的文は容易に疲勞しない事もある。情的文を好む人でも、其の時の心身の狀態

や外界の事情に依つて直に疲勞する時もある。此のやうな不定不揃なものであるにも關らず、總ての生徒は四十五分間或は五十分間で、學習曲線の頂點に達し到るものと假定して、一樣にベルによつて學習を切つてゆく、從來の時間割的學習の不合理である事は、明白な事實である。然るに數時間連續して居る自由學習を許すときは、生徒各自が自分の學習曲線が下降し始め、疲勞を感ずるときに、隨意に、或は休息し、或は學科を轉換することが出來るから、厭きてきて頭が働かないのに、無理に學習を續けたり、やうやく油が乘つてきたのに、中途でやめて、他の學科に移らねばならぬといふ無理がないので、從つて學習能率も高くなる。

自由學習主張者は、從來のやうな時間割的學習を、第一に「スプーン教授」と評して居る。西洋人が赤ん坊を育てるに、ミルクをスプーンで一匙づゝ掬つて飲ませる。丁度それの如く國語も一匙、體操も一匙といつたやうに、四十五分か五十分間づつ學習せしめる。幼兒ならば、それで滿足するだらうが、自學自習力の出來て居る少青年は、一匙あて飲ませられてはたまつたものでない。一コツプをグツと一息に飲み干したいのである。第二に「劣等生泣かせ優等生遊ばせの教

授」と評して居る。能力の異つた生徒に、同一時間に同一程度の材料を教授するから、優等生は早く出來あがつて遊び、劣等生は痛馬を鞭つが如くにせき立てられる。此のやうな不揃ひの者を同一歩調で歩かせやうとするから、管理法とか教授術とかいふものが工夫せられ、飴細工のやうな教授に墮してくる。そして經驗家とか老練家とかいふ所謂教育の達人は、一學期を出でずして優劣生を揃へるために、巧妙に優等生を遊ばせ劣等生を泣かする、教育的悲劇を演じて得意になつて居る。

二　自由學習の指導法

成人の考へ方や感じ方や習慣や作法に、キチン〳〵と叩き込んでゆく從來の教育を硬教育と信じて居る人達は、自由學習の名をきくと直に放任放縱と誤解し、軟教育と罵倒する。硬軟とは誠によく命名したものである。干渉教育は生徒を大人の型にはめる教育であるから、生徒の頭腦は硬化し、獨創力を枯らす。自由教育は生徒各自の型――それは日に月に伸びてゆく彈力性に富んだ型――に自律的にはまつてゆく教育であるから、生徒の頭腦は軟らかく若草のやうにスク〳〵と伸びてゆく。枯らす教育はラクで、伸ばす教育は世話がやけるが如く、自由學習は周到な注意と緻密な方案のもとに行はねばならぬので、手數のかゝること

と夥しい。指導の方法は大體次の如くである。

1　指導案

教師中心の教育では、教授日案を作製して教授に資するが如く、生徒中心の學習では、指導月案を作製して生徒に示し、彼等の學習の栞となさしめる。教案は教師中心の教授に流れ易いが、指導案は生徒中心の學習となる差異がある。指導案の作製は、正確適切でないと、狂つた羅計盤によつて航海するが如く、彼等の學習の進行を破壞し、月末までに彼岸に安着することは出來ない。それで、指導案の作製は、最も教師の勞力を要するもので、之れさへ正確適切に出來て居たならば、教師は半ば成功したものといつてよい。指導案は教科書の目次である。生徒は此の目次に從つて各自の力相應な本文を書き綴るのである。教科書は、著者が種々の參考資料をあさり、著者の力によつて簡約したものである。教師は著者のあさつた參考資料を再びあさつて生徒に物知り顔に講演したのが從來の教授である。指導案による自由學習は、從來やつてゐた教師と生徒の仕事を交換したのである。

指導案作製上注意すべき點は、(一) 教授要目配當案を立てること。　指導案の材料は要目配當

案からとつてくるのである。それで要目の配當が適切でないと、學習事項の輕重を誤り、前後の聯絡を缺く憂ひがある。要目は最も精選して學期と月に配當する。そして學期は學期で、月は月でなるべく纒りのつくやうに配當した方がよい。

(二)最下程度を要求すること。　之れだけは此の學年の生徒としては、常識として是非知つて居らねばならぬといふ、最低程度を要求するのである。生徒は與へられた期間――一ヶ月、四週間――に幾つもの學科を學習し終つて、其の結果をそれ〳〵の指導教師に、提出せねばならぬから、勢ひ劣等生が月末までに成し遂げられる位の程度を要求することになつて來る。言ふまでもなく、甚だしい劣等生は例外である。

(三)學習態度の確否、心身發達の程度、學習材料の難易に應じて粗密の程度を斟酌すること。

理想からいへば、學習の題材や要目の選定は、生徒自ら之れをなすべきであるが、其の科の全體に通じて居ない者は、適切な要目の選定は困難である。それで、程度の低い生徒ほど、教師が要目を詳しく示して、學習の栞となす必要がある。

(四)少くとも二つの程度に分けること。　全生徒が完成の義務と責任を負ふて居る最低度と、

最低度を完成して餘力ある者が、隨意に學習を廣め深めてゆく高程度の二つに分けて立案する。最低度を定める標準は、劣等生が相當の努力をなせば、定日までに仕上げ得る程度を以てする。高程度は普通生以上の者が、同一教材を廣く深く研究し得るやうに立案する。西洋では高・中・低の三つに分けて指導案を書いて居るのが多いが、實際やつて見ると上述のやうに二つに分けて書いた方が却て便利なことが多い。こゝに注意すべきことは、優等生は高程度をすべて終了せねばならぬものでない。優等生にも力の相違があるから、各自の力相應に高程度の量と質を大きく深くしてゆけばよい。

(五)指導案に是非記載せねばならぬ事項は、(1)學習の題材、(2)學習の要目、(3)學習の參考資料の三項である。　例へば

地理指導案　自何月何日 至何月何日　第何年級

○題　材　九州　(七時)

○要　目

1　自然地理（二時）　A氏著X書何頁ヨリ　何頁マデ參照

2　人文地理（四時）　B氏著Y書何頁ヨリ　何頁マデ參照

3　北九州と南九州との差異（一時）　X書何頁ヨリ何頁マデ、Y書何頁ヨリ何頁マデ參照

○備　考　學習室の標本棚第何函何架と、何々博物館第何室第何函を參考すること。

學習の結果は、なるべく地圖、統計圖表にて表はすこと。

○研究題　農業地としての熊本縣の將來如何、　何月何日(何曜日)何時何室にて開會。

○指導教授　何月何日(何曜日)第何時何室にて行ふ。

指導案に關する詳細の注意は指導案の實際のところで述べる。

2　個人指導

此の式の學習は個人指導を最も適切になし得る特徴を持つて居る。學級教授では、甲を指導する間は、乙・丙・丁のすべては、仕方なく傍聽して居るか、或はボンヤリ遊んで居るのが普通である。それを防ぐには、其の都度適當の課業を與へねばならぬ面倒がある。されどダルトン式學習では、各個人は銘々の課業を熱心に學習して居るから、個人指導は何等の面倒もなく有効に適切に施し得る。

指導の方法は、生徒の質問に應じてなすのが本體であるが、生徒の中には、進んで質問しない性質の者もあるから、教師は豫定を立てゝ毎時間指導するやうに工夫し、一ケ月八時間中に、少くとも全生徒に二回以上行きわたらすべく努力する。質問を持つてくる者には。それ〳〵適切に指導するが、教師から喚んでなす指導は、「何處までしましたか、こゝはどのやうに纏めましたか」といふやうに、要點々々をきいて見る。優秀生は能くまとまつて居ることが多いので、一分間もかゝらずに指導出來る。時には進度表をみて同じ程に進んで居る同じ能力の者を喚び集めて小團指導をなすこともあるから、一時間に二十人位は優に指導し得るので、一箇月中に二回以上もゆきわたる。特殊の生徒は三回も四回も指導し得るから、學級教授に比べて、指導回數は多く從つて學習能率も高くなるわけである。此の式の學習は獨自學習が本位となるから、優劣の度に從つて學習の深さが異つてくる。斯のやうな深さの異つて居る者の學習を確實にするには、個人指導に重きを置くべきは當然である。獨自學習をなさしめて學習の質量に相違ある者を指導するに學級的一齊指導を本體となす者もあるが、之れは不得策であると思ふ。矢張個人(小團)指導を本體となし學級的一齊指導を副とすべきである。經驗に依れば學級的一齊指導をなせば、二・三の優

等生の活躍に終はるか、又は優等生は分り切つたことを聽かされ、劣等生は分り兼ねることを傍聽し、半數の普通生のみが有益に感ずるやうになり勝ちである。

3　指導教授

各科にわたり月一回行ふのが、普通であるが、此學習に慣れない間は半月に一回行ふこともある。餘り度々行ふと從來の時間割的學習と甲乙がないやうになることを忘れてはならぬ。此教授の主目的は、其の月に學習したことを整理するのである。詳言すれば、學習材料の主眼點を明らかにし、既習材料との連絡を確實にし、兼ねて學習方法や、ノート表現の巧拙を指導するのが主要目的である。指導教授の實際は學級全體の相互學習である。先づ生徒は學習した結果を發表して學友の批評を求め、互に意見を交換し、最後に教師の指導を求め、各自のノートを自己訂正するのが普通である。教師は月末に、生徒のノートの要所々々を檢閲して採點した際に、全生徒の注意を喚起しておくべきものあらば、此の時にする。若し學習の結果は上出來で、別に指導をなす必要を認めない時は、此の時間を自由學習時にあてる。個人指導を十分に行ふて指導教授を不必要ならしめるやうに努力すべきである。此の教授の生れて來た理由は、自由學習の結果を整理するためではあるが、今一つは、ノート訂正の煩を避けんがためである。教

師は、全生徒の學習の結果を、一々檢閲訂正するのは理想的であるが、斯のやうなことは到底時間と勞力の許さないことであるのみでなく、自らのなした仕事の不備を、自ら訂正增補することは、此の學習の精神上誠に望ましいことである。

4　ノート檢閲

ノートは彼等の研究の結晶である。其の成績は彼等の能力と努力の相乘である。彼等にとつては、何物にも換へることの出來ない貴重な教科書であり又參考書である。彼等がノートに對して非常な愛着を感じて居るのも尤もである。「愈々研究が終了してノートが出來あがると、嬉しくてたまらぬ。何度も開いて見る。何度も眺めて見る。何のために開くのか何のために眺めるのか、自分にもわからない。たゞ何となく開いたり、見たり、讀んだりしたいからするので、何のためといふためはない云々」と感想を漏らした一生徒がある。之れは彼等全體の偽らざる聲であらう。

「彼等の熱心と努力に對して、何うしてもノートを檢閲せずには居れない」とは、之れ亦熱烈な教師の偽らざる聲である。されど教師の勞力と時間には限りがある。月末に集まつてくる二百乃至五百冊のノートに一々丁寧に目を通して居ては、教材を調査する暇もなく、睡眠する時間もな

い。されど檢閲しないと氣が咎めるし、身體之れ谷まるといつたやうな有樣は、我が校に於ける現狀である。それでノートの指導に關しては、大體次ぎの方針を立てゝ居る。

(一) 個人指導を十分にして、誤りのないノートを書かせる。

(二) 指導教授をよくして、自分で訂正增補せしめるやうにする。

(三) 能力の近い生徒同志に相互訂正せしめる。訂正の方法は大體次ぎの如く定める。

(1) 誤つて居る箇處は訂正する。

(2) 疑はしいと思ふ箇處に下線を引いておく。

(3) 觀た所感を最後に書いて署名しておく。

此の方法によると、彼等は友のノートを觀て、自分の研究の不足や誤謬を發見したり、訂正又は下線を引くには少からず考へるので、再び參考書を見、或は教師にきゝ正すので、知識を確實にする利益を得るから、教師の勞力を無益に助けるものでない。友達相互の力によつてお互に伸びてゆくことになるが故に一舉兩得の方法である。

(四) 指導案にノートの書きあらはし方を注意しておく。

(五) 一段落片ついて、他の學科に移つてゆくたびに提出せしめる。一度に澤山集まらず、檢閲の分量も少いから、比較的やすゝと檢閲が出來る。

(六) 隅から隅までを檢閲する餘裕がなければ、要點だけを見る。すべての要點を漏らさず見る暇がなければ、要點中の要點だけを見る。生徒は折角研究したものを先生が丁寧に見ないと、張合ひが抜けはすまいかと氣づかはれる。此のやうな心配は慥かにあるけれども、それは學習態度の出來ない初歩の間である。學習態度が出來てくると共に、先生に見て貰ふことに滿足を感ずるよりも、自己の努力の結晶であるといふことに無限の喜びを感ずるやうになつてくるのである。教師は出來得る限り檢閲を丁寧にすると共に、生徒を後の態度に誘導すべく努めねばならぬ。

5 討議研究

自由學習した材料に關係ある適切な時事問題——一般的のものも特殊的なものも——あらば、指導案の最後に掲げて置く。前に例示した「農業地としての熊本縣の將來如何」といふやうな問題は、熊本縣人のみに關する特殊的時事問題である。著者が英國に於て、ダルトン式教育を實施して居る學校を參觀した時は、題材は華府會議であつて、其の時の討議問題は、「軍備制限は可能なりや」であつた。此のやうな問題は一般的のものである。討議の

狀態を述べると、可能論者と不可能論者は左右に着席し、指導教師司會のもとに討論して居た。彼等は長年月の間、憲法政治の下に育てられた國民ほどあつて、其の論爭は誠に正々堂々たるもので、道理のために戰ひ、感情のために爭はぬ。若し自說の誤に氣付いたならば、率直に改め、論敵に感謝する、指導教授には、全生徒は出席の義務を負ふて居るが、討議研究は隨意である。其の理由をきゝ質すと、「意見のないものは出席の資格はない。討議研究は相互學習の一種である。相互學習は、お互に意見を持ち寄つてこそ有効になし得るのである。自ら努力を惜んで意見をまとめず、他人の意見を只聽きしやうとする態度は、眞面目を缺いて居る。私共の學習は、即ち道德であつて、眞劍なものである云々」。常に懶けて居て意見のなき者、或は力弱くして意見を纒める餘裕のない者は、必要あらば、教師は之れに出席を命じ、後者は志望によつて特に出席を許すことがある。併し之れ等は傍聽席に着き、發言の權を持つて居ない。

學習事項を、更に深め、博め、確かにする助けとなし、兼ねて口と耳の練習に資する討論的學習は、日常の學習に即したものであるから、內容の充實した討論會になり得る。討議の形式に重きを置いて、內容を忽にした、從來の模擬議會のやうに、意見發表の時間よりも贊否の數を調べる

時間が多いといふやうな滑稽はない。次に自己の發表した意見を、根本的に覆へされると、自說の不備を自識しつゝも、男らしく訂正もせず、何とかかんとか屁理屈を述べて、一時を糊塗しやうとしたり、或は對手の擧足をとつて、痛快事としたがる、盲目的感情的態度の討論は、遺憾ながら我が同胞に多い。之れ神聖なる帝國議會を、動物園のやうであると評せられる所以ではあるまいか。此のやうな非立憲的態度を改めて、正しい立憲的態度を訓練してゆくために、上述の如き學習に即した討論的研究を加へることは、特に我が國民性の陶冶上大切な教育であると思ふ。

6　學習進度の記入

學習した度毎に毎回記入して、一は教師の指導に便し、一は自己及び學友の進度を見て、獨自と相互の學習に資するのである。進度表には、教師用、生徒用の二種ある。すべて線圖（グフラ）で書きあらはす。記入に慣れない間は、十分練習して置く必要がある。少くとも最初の間は、各生徒の記入を監督指導する方がよい。

（一）教師用進度表　各科教室に貼りつけておく。生徒は毎回學習を終へて他の學科に移る度毎に記入する。學習の分量や、其記入の仕方に疑あるときは、教師に相談させる。特殊の必要ある生徒には、教師の承認を得て後に記入させてもよい。此の表の價値は、(1) 教師は常に各生徒

（教師用）地理科進度表（自 9月3日 至 9月29日）（學年）二乙（教師）吉田

番號	氏名 ＼ 項目 ＼ 週時	一		二		三		四		所要時數計
		1 九州地勢氣候	2 交通	3 都會	4	5 産物	6	7 整理	8 指導案	
1	吉田雪枝		•2	•3	～～	～～•1		•1.5	—•2	9.5
2										
3										
4										
5										
46										
47										
48										
49										
50										

の進度を檢べて、月末までに完成し得るやうに指導し注意し、又小團指導や個人指導の便に供する。(2)生徒は他生の進度を見て、自らを警しめる。(3)自分と同じ位の進度の友を知り得るから相互學習の友を求めるに便である。

記入の實際は、表にある吉田雪枝のやうである。之れは地理の進度表であるとすれば、量の一欄は三十分の學習分量であるから、第一回に一時三十分間、第二回に二時間、第三回(正課時外)に一時間、第四回に二時間、第五回に一時間半の分量を學習して全體を終了した。第五回目の日は九月二十一日(月)であつたとすれば、合計八時間分量の地理を規定の仕上日(九月二十九日)よりも、八日間早く仕上げたことになる。此の餘つた日數は、他の遲れて居る學科の學習にあてるか或は自分の好きなものゝ研究にあてるか、或は中又は高の程度の地理を學習するかは、剩餘日數を如何に利用するかの、學校の定めに從ふのである。(此の表も次の表も、熊本縣立第一高等女學校に用ひて居る表である。)

(二)生徒用進度表　生徒は常に携帶して居る。教師用進度表に記入したとき、同時に之れにも記入する。此進度表は各科の教室に貼りつけてある教師用進度表の、自分のものだけを集めて

（生徒用）

各科進度表（自 9月3日 至 9月29日）

第二學年乙組　吉田學校（氏名）

週時 / 學科	一 1	一 2	二 3	二 4	三 5	三 6	四 7	四 8	所要時數	完成 月 日	餘暇や日科したなに何費か
國語										月 日	
歴史										月 日	
地理		2		3	1		1.5	2	9.5	9月21日	
數學										月 日	
理科										月 日	
時間割 曜日									（合計）		
時間割 正課時 豫定											
時間割 正課時 學習											
時間割 放課時											

一覽表にしたものである。此の表の價値は、教師（學級擔任）は、週の始めに檢べて、月末までにすべての學科を完成し得るやうに注意し指導するに供する。生徒は、毎日自分の進度の遲速を調べて、各科に配當する時間、即ち自習時間割を適切に編制し、或は改めて各科の學習を、豫定の期日までに完成すべく努める。

（記入例）

各科進度表（自 9月3日 至 9月29日）第三學年乙組（氏名）鈴之内一子

週 / 學科 / 單時	一 1	一 2	二 3	二 4	三 5	三 6	四 7	四 8	所要時數	完成月日	教學
國語		2	1		3		2	1.5			
歷史			3						10.5	9月13日	
地理									10.	9月25日	
數學	2	1	1	2		2	1	1		月日	
理科	1	1		3					13.	9月12日	
曜日	月	木	月	木	月	木	月	木（指導）	11.	9月23日	教學やし日をにたが何貫か
時間 正課時	國語 2	數學 2	國語 2	數學 1.5	歷史 3	理科 1	理科 2	歷史 2	合計 29	四四、五	
時間 豫定學習	數學 2	國語 3	數學 2	理科 2	理科 3	歷史 1	歷史 2	理科 2			
放課時	國1 數1.5	數1.5 國2	國1 數1.5	數1.5 理科1	歷1 理1.	歷3 理1.	理1. 歷1.	歷1. 理1.	15.5		

（記入例の説明）

之れは第三學年乙組生徒の進度表の記入を例示したものである。本校の第三學年では後に示してあるやうに、國語・地歷・數學・理科の四科目を毎週各々二時間あてダルトン式の自學輔導學習に任してある。そして一週八時間を月曜日と木曜日の午前に纏めて學習するやうにしてある。

(1) 豫定　月始めに指導案を貰ふと、先づ一ヶ月四週八時間分の豫定時間割を立てる。鈴之内一子は國語と數學を片づけてから理科と歷史を學習するつもりと見える。

(2) 學習　實際に學習した時間と、豫定を變更した學科目を記入する。假令ば、第一週の月曜日の午前には、國語と數學を豫定通り二時間あて學習し、第二週の木曜日には、數學は豫定通り二時間學習したけれども、理科は國語に變更して一時間半學習して居る、不足の半時間は、疲れて休息したのか、又、臨時に何か他のことに費やしたのであらう。

(3) 放課時　放課後に學校又は家庭で學習した學科目と時間を記入する。假令ば、第一週中に國語は一時間、數學は一時間と二時間の二回を、放課後に學校又は家庭で學習したのである。

(4) 國語　一例として國語の進度のつけ方を説明して見る。下欄の學習と放課時欄の記入と對

照すれば直に了解出來ることゝ思ふ。即ち黑の直線は正課時に、波線は放課時に學習した分量で肩書の數字は學習に費やした時間である。

(5) 所要時數　各科の學習と正課時及び放課時に費やした學習時の合計である。各科の學習時の合計と正課時及び放課時の學習時の合計は、何れも四四、五時になるのである。此の統計によつて、各科の要求に起り易い學習負擔の過大過小の弊を救ふことが出來る。

(6) 完成月日　生徒の能力の優劣によつて完成期日に遲速が生じて來る。定日よりも早く完成した者は、餘つた時間を特殊學習に用ひることになつて居る。それを監督指導するために完成月日を記入せしめる必要がある。

(7) 餘日を何學科に費やしたか　すべての學科の義務學習を完成して餘日があるなら、各自の好める學科又は困難な學科の學習を複習するとか、又は得手な學科の特殊學習をすることに定めてある。之れは進度表に記入しない。

西洋では以上二種の進度表の外に、個人或は學級の平均一日の學習分量をあらはす表や、其の他色々の表が工夫されて居るけれども、表はなるべく數を少くし、出來るだけ簡明な方がよい。

表毎に記入の樣式や方法の異つて居ることは、なるべく避けた方がよい。餘りに複雜な表を設けると、記入に誤りを來し、表の効果を減殺する。我が國人は一般に統計的研究に興味を持たず、從つて記入を面倒がる癖がある。それで、表に習熟するまでは、出來得る限り簡單なものによつて練習する方がよい。そして記入した數量を適當な圖表などに表示して、表の効果と必要をさとらせるやうに工夫することは大切な教育である。

7　優等生の指導

指導案で全體に要求することは、甚しい劣等生でない以上は、すべての者が、規定の期日までに、出來あがる最下限度であることは、既に述べておいた通りである。それで優等生は、一ケ月四週間で結了してよいものを、二週間乃至三週間位で仕上げるのが普通である。此のやうな優等生の處置は、如何にすれば最もよいかといふ研究は、自由學習の實際問題として大切なものである。之れが方法には、大體三つあると思ふ。

(一)　ズン〳〵先に進ましめるのが其の一である。　本人の勉強次第、實力次第で四ケ年で學習すべきものを二ケ年で仕上げてもよい。丁度大學で普通に行ふて居るやうに、學習し終へた學科から試驗を受けて、一學科づゝ卒業してゆくといふ遣方になつてくる。大學のやうに、講義本位の教育とか又は附屬のやうに生徒數も少く、教師も粒揃ひならば之れでもやれぬことはないが、自學輔導本位の教育では、殆んど個人々々に指導案を作製し、個人々々に指導せねばならぬことになる。一人の學科教師が、五組も六組も受け持ち、一人で二・三百人も指導せねばならぬ現在の制度では、到底出來ない相談である。

(二)　同一材料を深く研究せしめるのが其二である。　優劣生とも學科の進度、即ち學習の範

圍は同一であつて、指導の深淺を異にする仕方である。此のやり方は教師の指導には極めて便利であるが、生徒は得意な學科にも不得意な學科にも、同樣に力を用ひねばならぬので、學力平均教育としてはよろしいが、得意を伸ばすといふ個性適應教育としては不十分である。

(三)　早く出來上つたならば、其の餘つた時間に、各自の得意を伸ばさせるのが其の三である。

假令ば國語を得意とする生徒ならば、國語教師の指導を受けて、枕草紙を研究する。斯のやうにすると、生徒の中には、枕草紙にかけては全校生徒中自分の右に出づる者なし、といふやうな者が續々出て來る。あらゆる學科は、常識として少くとも最低限度だけを修得し、其の上に自分の得意なものを持つて居るといふことは、現今の社會生活に適する仕方であるのみでなく、自分もすてた者ではないといふ念が湧き、自敬の精神起り、生活に生氣を帶びて來る。此生氣は、其の人を生かしてゆく貴重なものである。從來の學力平均教育は、此の大切な生氣を殺して居たのではあるまいか。西洋では、大摂第二の方法を採つて居るが、私は第三の方法が、より多く此の學習の精神に、合して居ると思ふて居る。

三　實施上の注意

從來の教授に習熟した者に、急に勝手の違つた學習をなさしめ

るのであるから、最初の間は何から着手してよいか、落ちつきを失ひ、ボーツとして居る。兎もすると、慣れた方が氣樂なので後戻りしたがる。特に保守性に富んで居る女生徒は然うである。此の難關は、最初から豫期して切り拔けるやうに、細心の注意を拂はねばならぬ。之れにも增しての難關は、從來の方法を固く信じて動かない教師である。それで此の式の學習を實施するに當つては、此の學習の原理に贊同し、受持學科に適切な方案を立て、自信と熱誠を以て遂行を完うする覺悟を有することである。初めから此の學習法を疑ひ、試みに實施して其の缺點を拾ひ集め從來の方法の優れることを證據立てやうとするが如きは、眞劍な態度を缺いたやり方であつて、教育上最も愼しむべきことである。

此の教育を始めるに當つては、教師の理解を求めることは第一であるが、第二には生徒に能く理解せしめ、彼等をして進んでなさうとする態度に至らしめねばならぬ。遭遇すべき困難と、之れを切り開いてゆく方法も、豫め知らしめて置かねばならぬ。試行錯誤法により、禪坊主流に教育してゆくのも、痛快な方法ではあるが、百人中一人でも物になればよいといふ教育ならいざ知らず、百人は百人とも、各々伸ばされるだけ伸ばさうとする眞宗流の教育では、獨り立ちの出來

るまでは、親切にしかも有効に誘掖輔導した方がよい。此の意味に於て、自由學習態度が大體出來あがるまでは、時間割の立て方や、參考資料の使ひ方や、進度表のつけ方及び利用の仕方や、學習の結果のあらはし方などに至るまで、適切に個別的指導をなすことは大切である。次にやゝ詳しく實施上の注意を述べて見る。

（一）熱と信を持つて居る教師からやらせる。　學習は知識の切實でない。教師と生徒の人格的交渉によつて人が人になる又人を人にする精神的事業である。故に此の式の學習に熱と信のない教師にやらせると、大抵は失敗である。それで先づ、熱と信を持ち、進んで研究して見やうといふ教師から始めさせて、漸次其の他の教師に熱と信を得させるやうに努めねばならぬ。努めても反應を呈せぬ教師は、他に適當な方法をとるより仕方がない。

（二）生徒に自力の自覺と自信を得させる。　自學輔導學習に導くには、先づ生徒を發動的態度になさねばならぬ。發動的態度になすには、大體二つの方面から這入つてゆく。一つは外部的に意氣を振作してゆくことである。之れには、彼等は日に〳〵スク〳〵と伸びてゆく若芽の持ち主で努力の如何によつては、何處まで伸びるか測られない未來を持つて居る者であることを、古今

東西の實例によつて話すもよし、又此のやうな意味を歌つた唱歌によつて鼓舞するのもよい。斯うして外部的に意氣を振作して、「何となくヂツとして居れぬ。何かやつて見たくてたまらぬ」といふ氣持を懐かしめる。此の氣持は發動的氣分ともいふべきものであつて、發動的態度の入口である。しかも大切な入口である。氣持とか氣分とかは、萬事を成してゆく上に度外視してはならぬものであるが、其の儘にして置いては永續きしない。之れが永續をはからうとするには、內部的に自力の自覺と自信を得させねばならぬ。此の自信は「自分も努力すれば大抵のことは成し得る」といふ體驗から生れて來る。此の體驗を得させるには、體操運動から這入つてもよし、國語・算術から這入つてもよい。要は其の學校の事情に依るのである。

(三) 從來の學級教授に、此の式の學習を加味する。　長い間、固定した時間割的學習に慣らされて來たのであるから、急に時間割を廢して、自由學習をなさしめるよりも、從來の儘にして置いて、自由學習に最も都合のよい教科中の教材について、指導案を與へて、學習せしめて見る。初めはなるべく、一時限內に仕上げ得る分量を選び、次には二時限續きの時間割にして、其間に仕上げ得るやうにする。參考資料の都合さへつけば、學校內の學習と、家庭の學習とを連關

させて試みてもよい。兎に角、指導案に從つて、自力で學習することの仕方に慣れ、自學の快味を感ぜしめるやうに、努力と注意を拂ふことが何より大切である。指導案は學習法を會得させて漸次生徒に作らせるやうに指導する。

(四) 此の學習の精神を會得せしめること。　之れは、自由學習を始める時にも又始めた時にも、必要に應じて時々說き聞かせる方がよい。

(1) 此の式の學習は自分の力で出來ることは先づ自分でする。　斯うすることによつて本當に力が伸びるのである。自分で考へれば出來ることを、怠けて考へもせずに、他人から敎へて貰へば、ラクはラクであるが、また試驗に、今習つた事が出ると點數もよいであらうが、自分の力の伸び方は少い。よしや考へて出來なかつたにしても、考へただけ自分の力が伸びたのである。ラクして習つた人よりも、行末は大きく伸びるに相違ない。それで自分の力で出來さうなことは人を當てにせず、ゆつくりしつかり考へて見る。さうすると、今は出來なくても、いつかは人一倍出來るやうになるから、一度も見たことのない問題にブツかつても、考へつけることも出來るので、結局成績も進んでくる。一時の成績ばかりに目がくらんでゐると、他人から一時に澤山習

つて詰め込みたくなるが、永遠の成績をあげやうとすれば、自分で出來ることは自分でして、自分の力を伸ばし太らすことに目ざめてくる。一時の結果よりも、遠大の結果に到達し得る過程に注意するのが、ダルトン式の學習の特徴の一つである。相互學習も輔導學習も、誠に大切なものであるが、自分の力で出來ることを自分でなし遂げた上で、友と打ち合せたり、不審を正したりするのでなくては効果が少い。

(2) 責任を重んずる學習である。　自由學習を許されて居るのであるから、勉學しやうが遊ばうが、又どの學科を勉强しやうが自由である。此の自由は、我儘勝手な振舞をするための自由ではなくて、皆さんが皆さんの學習を、遺憾なく成し遂げるための自由である。故に自由の裏には與へられた學習を月末までに無理をせずに仕上げるといふ責任のある自由である。無理をせずにといふ意味は、月初めに油を賣つて居て、月末に徹夜して仕上げるやうなことをしないのである。毎日の努力が積り重なつて、何時の間にか月末までに出來あがつて居るといふやうな學習の仕方をいふのである。

(3) 以上は自分の學習に對する責任であるが、友達の學習に對しては、少くともそれを妨げぬ

といふ義務がある。　學習室の出入、座席の離着、相互學習などの時には、出來るだけ注意して、喧騒を避ける。參考資料を徒に獨占したり、後仕末を忽にして友の學習に迷惑をかけるやうなことは、斷じて避けねばならぬ。

(五) 指導案について注意すること。　簡單な指導案は、學習室に掲示して、生徒各自に要點を寫させてよいが、筆記に多くの時間を要するものは、謄寫して渡すのが普通である。指導案に從つて學習に取りかゝる前に於て、指導案に對する質疑時間を與へ、一點の疑點もないやうにした後に、取りかゝるやうにせしめる。教師から、生徒一般の注意を喚起しておく必要あることは、此の時にする。殊に理科實驗に伴ふ危險は、指導案にも大きく書きあらはすと共に、指導案の疑義をきく時に、斯くすれば斯く々々の危險が伴ふと云ふことを、實物を示して、注意を强めておくことは、最も大切である。危險の伴ひ易い實驗は時を定めて、教師指導のもとに行ふやうにせねばならぬ。

（六）進度表の記入の仕方に注意すること。　進度表の目的を明確に說き、指導案と對照して、進度の記入を具體的に說明する。記入に慣れない間は、記入するとき敎師に相談させるのもよい。

（七）自由學習時の經濟的使用に工夫すること。　此の學習に慣れない間は、學習室に入つて、暫くはボカンとして居る者もあれば、あれを見たり之れを見たり、讀んで見たり、書いて見たりして、暗中模索をして居る者もある。之れは自由學習の時間割を定めて居らぬ者に多い。それで其の日の時間割は、少くとも登校するまでに、定めて置くことに固く決めさせておかねばならぬ。學習室に入ると、躊躇なく豫定した時間割に從ふて、サツサと學習に着手する習慣をつける。豫定通り學習して見て、何うしてもいけなかつたならば、其の時の心身の狀態と、參考書や指導敎師などのことを考へて、適當に變更を加へればよい。

次に注意することは、一つの學習から、他の學習への移り目である。此移り目に、愚圖々々して居るのを屢々見受ける。大體は、豫定時間割の通りに、運んでゆけばよいのであるが、色々の關係で、豫定を變更すべく餘儀なくせられることもある。かゝる場合は、なるべく速に決定する習

慣は、仕事をする上に大切であることを注意する。次に、常に自分の進度表に注意して、月末までに完成するやうに、各科の學習に時間を適當に配當することである。

（八）ノート記入を有效にすること。　何うしたものか、我が國の生徒は、切りにノートをとりたがる。調べたことを片つ端からひき寫しする。ご丁寧なのになると、下書して淸書までする。まるで、ペン書習字を練習して居るのではないかと思はれる。『ノートで採點する、別に試驗をせぬ』と言つたので、何んでも美しく澤山書くと、點數がよいものと感違ひしたのかも知れぬ。それで、ノートの書き方について、注意して置く必要がある。(1)　ノートの第一目的は、學習した要點を纒めることにあるので、纒めた結果の備忘は第二である。備忘のためにノートを書くなら他人のを寫した方がよい。何となれば、結果だけ知ればよいのなら、すべての者が多大の時間をかけて調べるのは、勞力の不經濟である。分擔して調べて、お互の結果を寫しあへばよい。(2)斯のやうに要點をまとめるのが第一目的であるから、簡潔明瞭に書きあらはす工夫をせねばならぬ。書くことによつて要點が更に確實になるのであるから、書く方法に最も注意と工夫を凝らす必要がある。それで、なるべく文章を避けて、圖表・概括表・項目法・地圖・繪畫等であらはすこと

に工夫すればよい。(3) 不明や疑問のあることは、一字一句も書いてはならぬ。ノートは量の多いのを尊ぶのではない。質の良いのを尊ぶのである。(4) 指導案には、ノートに書くべき事項と、其の書きあらはし方を指導し工夫せしめることも大切である。

學習に慣れない間は、兎角參考書を引き寫しする傾がある。劣等生に於て特に此の傾が強い。優等生も時には其のまゝ引き寫して居るが、之れは參考書の文章に興味を感じたとか、新聞や雜誌のやうな保存期限の短いものに限られて居る。單なる引き寫しの弊を矯めるには、上述の注意を喚起すると共に、個人指導を多くして要點をきいて見る。月末試驗にも要點に重きを置いた問題を選定するやうに注意して、單なる引き寫しは學習効果の少いことに氣づかせる。又、時々ノート展覽會を開きお互に啓發せしめる。

(九) 質問帖つくること。　一學級の自由學習時には必ず一人の指導教師は出て居る。假へば、西洋では、大抵午前三時間は、すべて自由學習時にあてゝある。此の時間に數學・歴史・理科・國語・地理・外國語の六科目を學習する。それで、各時間には、之れ等の學習擔任教師の誰かが、かならず、指導に出て居る。今假りに、月曜日の第一時第二時（九時から十時二十分まで）は、

國語教師の指導時とすれば、此の時に國語學習室で、國語を學習して居れば、直に質問も出來るが、國語學習室は一杯で入れなかつたり、又は自分の豫定時間割は、數學になつて居ると、指導教師の出て居ない學習室で、數學を學習せねばならぬ。其の時に起つた疑問は、之れを何かに書きつけて置かないと、忘れてしまつて、其の科の指導教師に、質問せずに終はることはあり勝ちである。自由學習の根底をなす、獨自學習から得た疑問を、無解決の儘に葬ることは、此の學習を不徹底にする原因の一つであるから、出來るだけ避けねばならぬ。質問帖は、別冊としてつくらなくてもよい。各科のノートの上欄か、或は最後の幾ページかを之れに充てる。そして、疑問を忘れぬやうに記して置く。

(一〇) 學習姿勢を正しくすること。　自由學習は、目で學習することが多いので、自然、讀書の時間が長くなる。又筆記の時間も短くない。それで、常に正しい姿勢をとつて居らないと早く疲勞するのみでなく、身體を傷めることが多い。我が國の學生は、おしなべて學習姿勢のわるいのは、疊の上に坐はつて、舊式の低い机で勉學したり、机なしで手仕事したりするところから、馴致されたものかも知れぬ。それに、學校體育は、體操運動に一任するといふ、誤つた分科

的思想に囚はれて居るからであらう。今後は、今少し各科擔任教師は、學習中の體育衛生に敏感でなくては、國民體格の將來が氣遣はれる。殊に自由學習的傾向の强くなる現在に於ては、一層の注意を拂はねばならぬと思ふ。

（一一）教師觀を改訂すること。　此の式の學習を奬勵すると、生徒の質問はます〳〵深刻となり、實力の弱い教師は、一々的確な指導を與へ難くなる。適切な指導を受けることが出來ないと、生徒は質問する勇氣を挫き、學習の興味を減殺する。甚しきに至ると、教師の交換を希望するやうになる。斯うなつては、學習道德を破壞する結果になるから、局に當る者は、細心の注意を拂ひ、事を未然に防がねばならぬ。一鄕の君子人が、衆望を一身に擔ふて、私塾教育を行ふた昔日の師弟の關係は、何とかして永遠に保存したいものである、然るに時代の變遷と共に、師に一鄕の君子人は甚だ少くなり、所謂優遇によつて轉々する游牧の徒は、漸次其の數を增し、師弟道の衰頽は、其の極に達しやうとして居る。今日の如く修養の度に於て、大なる差のない師弟の關係を、强ひて昔日の如く保たうとするには、僞善と束縛を以て一時を胡麻化すやうになり、師弟道はます〳〵墮落に導かれる。然らば此の難關を何うして切り開いてゆけばよいか、それに

は制度の改善、教師の自覺など數へあげれば澤山あるであらうが、次には主として、生徒に關しての考へを述べて見やう。先づ生徒に今日の教師は、昔日の教師の如く、何んでも彼でも知つて居る者でないことを承知させねばならぬ。昔のやうに學問の分科少く、學習書も狹く限られて居た時代は、生徒の質問も答へ易いものであつたが、今日のやうに、學問の研究はます〳〵微細の點に入り、分科は愈々多くなり、一人の力では一分科にも通ずることは出來ない。之れ生徒の質問のすべてに、滿足な指導を與へ難い理由である。國語一科目にしても、講讀あり、作文あり、文法あり、中古文あり、現代文あり、散文あり、韻文ありで、若し國語教師の中に、之れ等のすべてに通達した人があつたとすれば、それは稀に見る非凡人であるか、さもなくば、淺く廣くて何一つ十分に知らない、平凡人かであることを承知させておきたい。

印刷術の進歩した今日、各科の研究物は盛に刊行せられ、容易に手に入れ得るから、之れ等の先生の門を根氣よく叩き、自ら指導を受けて、指導教師の不足を補ふ覺悟があつて欲しい。一にも二にも指導教師に依賴するのは、學習としての價値の少いものであることを承知させておきたい。

受け得た指導に感謝せず、受け得なかつた指導に不平を言ふのは、誠に愚知らずな仕打ではあ

るまいか。斯のやうな態度を採るときは、指導教師は無くなるから、自殺的仕方であることを承知させて置きたい。

（一二）教師は學識上の特徴を持つて居ること。　學力に關して教師に望むことは、一つでもよいから何か深く研究したものがあつて欲しい。假へば、文法にかけては、代數にかけては、支那問題にかけては、同僚教師中大摂の者には、譲らぬといふ得意のものがあつて欲しい。受持學科に關しては、一通りのことは心得て居らねばならぬが、其の中で何か一つ秀でたものがないと、自らの實力に自信がないから、つけ込まれ易いのである。人間としての優劣は別として、教へる學科については、何か一つでも優秀なところがあれば、生徒は其の點に關して、教師に學識上の尊敬をつないで居るので、一つや二つの質問に滿足な指導を得られなくても、不平をいふことは少いものである。

（一三）個人指導を適切有効になすべく努めること。　自由學習は、學級教授のやうに、生徒が教師に接觸する時間は少いから、教師の人格的感化を受け難いとの非難は、或る程度までは當つて居る。それで、此の缺點を救ひ、此の非難を免れるには、なるべく、個人指導や、小團指導

の機會を、多くするやうに努めねばならぬ。若し、個人指導がよく行き屆いたならば、學級教授よりも、却て强い人格的感化が行はれる。何となれば、學級教授は、數十人の生徒に、一時に接するのであるから、感化も數十分の一といふ薄いものとなるが、自由學習に於ける個人指導は、見人說法的の指導であるから、心核に觸れることが多い。著者の經驗に徵しても、自分の衷心から湧いた疑問を持つて、直接に教師に指導を受けたときは、最もよく教師の人格に接したやうな感じがしたことを、今もなほ記憶して居る。

西洋の學校を參觀したときは、生徒は學習室に出て居る教師に、次から次へと質問に來る。時としては、五人十人と列をなして居ることもある。そんなときは、ボンヤリと自分の番を待つて居る者はない。傍の黑板に順々に名を記して、自席に戻つて學習を續けて居るのが普通である。教師は一人の指導を終へると、黑板に書いてある順に小聲で呼ぶ。然るに、我が國の生徒、特に中等程度の生徒は、默つて居ると、殆んど質問に來ない。指導教師は、門前雀羅を張るといつたやうな有樣である。何故に質問をせぬかと質して見ると、質問にゆくと時間がかゝつて、學習の進度が却ておくれるといふ者あり、寒中は寒いので、立つたり坐つたりするのがツイ憶劫になる

からと言ふ者あり、先生に聞きにいつても、滿足な指導を受け得ることが少いからと言ふ者がある。まだ他に原因もあらうが、兎に角、西洋人に比して質問が少いやうに思ふ。それで教師は、個人的に、或は小團的によんで指導することも大切である。小學校兒童なら、『質問する人はエラクなる』とでも言つて、煽てあげようものなら、吾も吾もと押し合ひへし合ひして、やつて來るのであらうが、中等學校の生徒になると、そんな煽てに乘らないから、適切な方法を案出して質問をさせるやうに工夫する必要がある。同一の指導を、何度も同樣に、繰返さねばならぬやうなものは、指導案に書いて置くか、指導案を渡すときに說明して置くか、又は小團的に指導するがよい。但し同一箇處の質問でも、生徒の力相應になすべきものは、なるべく個人的か小團的に指導する。

（一四）生徒の學習感想を聞いて參考に供すること。　教師本位の從來の學級教授に於ける研究教授の批評ならば、參觀した教師にきけば澤山であるが、生徒本位の自由學習では、生徒の學習感想を聞いて、學習指導者の參考に供するのが當然である。其のきゝ方には色々あるであらうが生徒に教師の指導振の短所を剔抉して、痛快を感ずるやうな、不眞面目の態度を持たせてはならぬ。

何處までも、自分達の學習を向上せしめやうとする、眞劍な心持から出發するやうに導かねばならぬ。問の形は、一般的に、『各科學習の感想を述べよ』といふやうなのもあり、又具體的に、『今迄學習した指導案中、最も學習に都合よかつたものはどれか、其の理由も述べよ』といふやうなのもある。斯くして得た感想のうち、教師の反省すべきものは之れを採り、生徒の誤つた考は之れを正さねばならぬ。

（一五）どの學年から始めたらよいか。　西洋では、大抵尋常科第四學年から、本式に始めて居る。之は、先方の國語は、比較的易いからである。尋常科第三學年を修了すれば、普通の文章は、大抵讀めるだけの力がついて居る。西洋の讀本は、四の卷になると、急に六ケしくなつて居るのを見ても察せられる。十二歳位の兒童は、沙翁の作品を讀んで居る。沙翁の作品といへば我が國の源氏物語位のものである。我が國語は、形式が非常に困難なので、尋常科を卒業しても一寸した新聞の記事さへロクに讀めぬ。內容はそんなに六かしくはないが、文字語句が困難なので、了解出來ぬのである。我が國の小學校で、此の式の學習を始めるにしても、尋常科第五學年の終り頃からでなくては、完全に出來ないことゝ思ふ。元來此の學習は、中等學校から起つたも

のといつて、差支ないものであるが、現今は小學校にも適用して居る。兎に角、內容は兒童の理解力に相當のものなら、解し得る程度の形式で書きあらはした書物がドシ〳〵出版されなくては本式に始めるわけにはゆかないと思ふ。斯のやうな參考書は、我が國にはまだ多く發行されて居ないが、一般民衆の讀書力は、近來俄に向上して來たので、漸次行文が平易で、趣味に富んだ適當な參考書が得られ易くなる。小學校に於ても教師用風の書き振りのものを、もつと面白く書いたものや、補充讀み物の發刊が、だん〳〵多くなるので、適當な參考書が得られるやうになつて來る。若し急に手頃な參考書を手に入れることが困難であるなら、以上の如きものや、受驗準備書や八科表解のやうなものを參考して、教師が作製した方がよい。小學校では、國定教科書を基本として、學習せしめねばならぬから、そんなに澤山の參考書を取り揃へる必要はない。中等學校でも、參考書の種類が多すぎると、知識が散漫になる嫌ひがあるから、主要な參考書を數少く定めた方がよい。

（一六）學科と其の時間はどれ位が適當か。　自由學習を實施するには、最初から澤山の學科をなさしめるよりも、學習に慣れるまでは、最も自學自習に都合のよい學科を、二つか三つを

選んで始める方がよいと思ふ。假へば、最初の年は、上級學年（中學ならば第三學年か第四學年、高等女學校ならば第三學年）に、毎週二回位實施して教師も生徒も經驗を積んだ方がよい。斯うして自信を得たならば、漸次全學年に及ぼすやうにする。それにしても、低學年は毎週一回か二回、上學年は二回か三回位の小規模で實施した方が、安全であると思ふ。そして各科の時間も、文部省規程の時間をすべて配當せずに、五時間あるものなら、二時間か三時間を自學自習にして、あとの時間は、從來のやうに學級學習にしておく方がよいと思ふ。自學自習にあてる各科の時間は、何れも同一にした方がよい。國語を四時、地理を一時といふやうに、其の差が餘りに大であると、國語の時間をさいて、地理にまわす傾きがある。文部省が配當した時數が、一時か二時といふ學科は、一ヶ年を半ヶ年に短縮して、他の學科と同一時數にした方がよい。我が校の大正十二年度に於ける、各學年各學科の自學自習時の配當は左表の通りである。

	國語	數學	歷史	地理	理科	計
第一學年	3	二	3	二	四	四
第二學年	3	二		3	二	四

第三學年	5二	3二	2二	3二	八
第四學年	5二	3二	2二	3二	八

（備　考）

1　肩書の數字は、縣規定の其の科の毎週教授時數を示す。

2　一・二年は、一週午前一回、三・四年は二回に分けて自由學習をなさしめる。

3　歴史と地理は半箇年交替に行ふ。

4　すべてを自由學習にしなかつたのは、學級學習の長所で自由學習の短所を補ひたいからである。

（一七）學習室の設備はどうすればよいか。　各科學習室は、各科の圖書室であり、標本室であり、又實習室であつて欲しい。將來の學校は、今日のやうな教壇や教卓はとり去られて、圖書館、博物館、機械館、實驗實習室を綜合した教育博物館となるであらう。それは兎に角、私共は此の理想を念頭に置いて、出來るだけ設備を工夫してゆけばよい。現在のところでは、學習室に場所の許す限り、其の科の參考資料を置くやうに工夫を凝らし、机及腰掛と卓子及椅子を備へつ

ける。前者は獨自學習に、後者は相互學習に主として用ひる。机と腰掛は從來のもので差支ない。卓子は、六尺平方大のもの四個を、學習室の四隅に配置して置く。斯のやうに獨自學習と相互學習を同一室で行ふと、八釜しくて獨自學習は妨げられて出來ないやうに思はれるが、慣れるとそんな心配は少い。それに社會の實際は此の通りである。窓前の子供のさわぎ聲や、工場の機械の騒音の聞える眞中に於て、學習したり、仕事したりするのが普通である。各科學習室に、教師は一定の時間出席して、學習の指導をなすのであるが、往々入り切らない程に多くの生徒が集まつて來る。それで、之れ等を緩和するために、共同の學習室を設けて置く必要がある。普通は講堂のやうな會集室をそれにあてゝ居る。何れの學習室にも時計を備へて置く。

（一八）參考資料の蒐集と其の排列。　參考資料、殊に指導案に指示したものは、出來るだけ豐富に、又參考し易いやうに排列しておかねばならぬ。常用參考書や、基本的標本などは、同種のものをなるべく數多く備へつけて、參考研究するときに、數の不足から來る、時間の空費を避けるやうにする。之れ等の蒐集には、少からぬ費用を要するので、いつも經費の點で折角の思ひ立ちを中止する人も少くない。之れは誠に惜しいことである。何とか工夫すれば、全く出來ないこと

もあるまい。一例をあげると、此の學習では、教科書を用ひずにすることもあるから、從來のやうに教科書のために一人平均十五圓を費す必要はなくなる。それで、其の半額だけでも學校に納めさせて、參考書を買ふことも出來る。教科書を持たせるにしても、學校で買へば、生徒數の半分備へて置けば澤山である。他の半分の代價で、參考書を求めることも出來る。

其の他、學校後援會を設けてもよし、校地内の空地に茶を栽培してもよし、運動會・學藝會を開いて寄附金を募つてもよし、生徒及び父母から廢物を貰つてバザーを開いてもよし、要は土地と學校の事情を考へて考案すると、四百や五百の金を集めるに、そんなに困難なことはないと思ふ。熱心の熱は何物をも辭かさずには置かぬものである。『意志の存するところに道は開ける』とは味ふべき金言である。

私の將來の理想は、規定の學科課程の學習は、學校の正課時と放課時（日の長短により午後は四時か五時頃まで、但し此の間は學習・運動・歸宅は隨意）になさしめて、學習用具は、すべて學校に置かしめ、手振りで通學せしめる。家庭に歸へると思ふ存分、或は體育に努め、或は家事の手傳をなさしめる。斯うすると、背水の陣を布くやうな形になるから、學校内の學習も、もつと眞面

目になり、身體の發育も、もつと増進して來て、結局優良な國民となるに相違ないと信じて居る。

（一九）我が國の現行制度と實施。　最も疑問とせられて居る點は、時間數である。現行法では、一週間單位で、各科に時間が配當してある。ダルトン式では、一箇月單位である。それで一週間單位のものを、四週間（一ヶ月）單位にするのが、違法か何うかといふ疑問である。私共は決して違法でないと思ふて居る。何となれば、今假りに文部省の規定は、國語四時、數學三時、理科三時、地理及歴史三時とすれば、之れ等五科目の毎週教授時數は十三時である。故に毎週の學級教授時と、自由學習時を合せて十三時として置けば、何等違法でないと思ふ。勿論學習の實際に於ては、各生徒は必ずしも十三時を文部省の規定通り各科に配當しない。配當しなくても、所定の期間に所定の材料を學習し終へるのであるから、立法の情神に何等違反して居らぬと思ふ。

四　我が校に於ける實施經過

私がダルトン式學習に氣づいたのは大正十年の夏であつたと思ふ。之れは面白い方法だと思つたから、縣教育雜誌に要領を紹介するつもりで序言めいたものを載せて、九月初旬に母國を立つた。兎に角、不在中を自學輔導學習の準備期としたいと思つて、大體の案を立てゝ行つた。首席の妹尾君は職員と共に、私の案以上に行き屆いた

準備をして置いてくれた。左に其の梗概を述べて見る。

1 意氣の作興

消極的な控へ目勝な、惡いことをするだけの勇氣もないかはりに、教師の指圖がなければ善いことも得しない女生徒では、到底自學に導くことは出來ないと思つたので、盛んに意氣の作興に努めた。採つた方法の主なるものは、

(一) 繁瑣な消極的生徒心得を弛めて、彼等の自敬心を喚起すべく努める。

(二) 大に運動を奬勵して身體の自由活動を大にすべく努める。

(三) 彼等は小學校の優秀生であつたから、やればやり得る素質を持つて居ることの自覺を喚びさますべく努める。

(四) 『伸びてゆく』の唱歌を殆んど毎日の朝會に歌はせて、自分の內に伸びてゆく或物を持つて居るやうに感じさすべく努める。

先づ上述の如き外部的方法を以て意氣の作興につとめ、次に內部的方法を併用した。

(一) 作文眼を開く指導をしたところ、和歌や詩や劇は作れぬものと思つて居た者が、どしどし作れるやうになつた。一ケ月を出でずして全校七百の生徒は一人ものこらず歌をつくり詩をつく

るやうになつた。各級とも每週一回約五百頁(原稿用紙)の文集を出す。斯うして彼等は『私もやればやり得る』といふ自己の能力を自覺し、それに自信を持つやうになつた。

(二) 徒步を奬勵し、適當な方法を指導したところ、十三里を突破する者八七・三パーセントの多數にのぼつた。五里はとても步けぬと思ひ切つて居た者が、一躍十三里を步いたので、自分ながら自分の徒步力に驚いて居る。斯うして彼等は『私もやればやり得る』といふ自己の徒步力、忍耐力を自覺し、それに自信を持つやうになつた。

自力の自覺と自信は發動的態度の源泉である。そして自學の根本である。女子で相當にやり得る能力・體力を持ちながら、社會も學校も控え目〳〵で萎縮させて居るのである。そして女子は能力の低いもの體力の弱い者と、人も言ひ自らも思ふて居るのである。此の萎縮的精神を先づ以て打破しなくては、自學自習學習は到底望まれないので、上述の如き方法を採つたのである。

2 學級教授の改良

自學輔導學習をなさしめる。即ち豫習によつて獨自學習をなさしめ、其の結果を發表せしめて、學級單位の相互學習をなさしめ、教師は之れを輔導整理するといふやうな形で學習を進める。次ぎには一時間單位の指導案を與へて豫習せしめ、學習時間には

各自思ひ〳〵に相互學習をなさしめ、教師の輔導を受けさせ、最後の十五分（一時限の約三分の一）を整理教授にあてる。其の次ぎには、二・三時間又は四・五時間を（數日にわたる）單位として指導案を與へ、學習時間及科外時に獨自・相互・輔導學習をなさしめ、其の結果をノートに記載せしめ、最後の一時間又は半時間を整理教授にあてる。學習時間中に於ける個人指導を十分にして整理教授の時間をなるべく、短縮すべく努める。

上述の如く大體三段階にわけて一時間單位の學習をなさしめる（數日にわたる數時間をまとめて一單位となしても、其の學習は從來の時間割に從ふてなすから一時間單位といつてよい）。此の三段の方法は、大體は學習態度の熟否によつて階段的に進んでゆくのであるが、教材の如何により三つの方法をとり交ぜるから互に交錯して進んでゆくのが普通である。

如上の學習をなす間に學習法の指導に少からぬ注意を拂ふ。豫習の仕方や、學習要目の選定や、參考資料の使ひ方などに關して、常に指導を怠つてはならぬ。指導案も最初は詳細に書いて與へるが、次ぎには學習要目も參考資料も半ば與へ、殘りの半ばは彼等に工夫せしめる。工夫したものは發表せしめて學級的相互學習をなし、教師之れを指導するのが常である。最後には教材だけを

與へて他は全く生徒の工夫にまかせる。換言すれば彼等は自分で自分の學習の栞（教師から言へば指導案）を作製して學習に當らしめる。勿論、學習の栞も學習の結果も指導を忽にしない。

3 小規模のダルトン式學習の實施

以上はダルトン式學習の準備學習といつてよい。之れに費やした期間は一學年と二學期間である。之れだけの準備によつて自學の習慣が略ぼ出來あがつたから、第三學年だけに國語・地歴・理科の三學目をダルトン式により、時間を四時間續きにして毎週二回となし、其の間に三科目を學習せしめた。斯うしてダルトン式學習の長短所を實地によつて研究すること一學期間。

4 中規模の實施

全學年に學科數を少くして實施する。即ち前に掲げた表（七一頁參照）の通りに現在は實施して居る。此の實施期間は一學年間の豫定であるけれども、實施の結果、更に愼重に研究すべき事項があれば、一ケ年を延ばすつもりである。

5 大規模の實施

以上の經驗によつて、此の式の學習から起る缺陥と其の對策が明かになれば、愈々大規模に實施する計劃を立てゝ居る。大規模の實施とは、ダルトン式學習で自學し得る學科すべてを全校に實施する意味である。

五 我が校の實施から得た經驗

實施してから日尚ほ淺いので、貧弱な經驗しか持たないが、此の式の學習を實施する上に、多少參考となりはすまいかと思はれる點を二・三あげて見る。

1 參考書の冊數

ダルトン式學習にゆだねてある學科の數が多ければ多いほど、參考書の冊數は少くてよい。冊數を定める大體の標準は、學科數で一度に學習する生徒數を除して得た商である。假へば第三學年の一組の生徒數は四十五名で、甲・乙・丙の三組ある。甲は月と木、乙は火と金、丙は水と土といふやうに自由學習の時間割を各組がブッからぬやうに作製して置くと第三學年は一度に一組四十五名だけしか自由學習をして居らない。そして自由學習の學科は國語數學・地歴・理科の四科目であるから。參考書の冊數は $45 \div 4 = 11\frac{1}{4}$ 約拾二冊を備へて置けばよい勘定になる。之れは一組の生徒が各科に平均に分れて學習した場合であるが、こんなことは稀にあることで、普通は不平均に分れて學習して居る。それで標準數よりも多少增しておく方がよい。一度に學習する生徒數の三分の一ほど備へておけば大抵よいやうである。若し生徒數の半數も備へておいていつも不足勝ちであるとすれば、それは其の學科の要求程度が、困難過るの

であると思つて、大體誤りはない。但し教科書代用のものは、少くとも三分の二位は、備へておかねばならぬ。

以上は常用參考書の冊數を述べたのである。常用參考書とは、指導案に示してある最低限度即ち全生徒が完成の義務を負ふて居る教材を學習するときに常用する參考書の謂である。餘裕者が義務材料を更に廣く深く研究するときの特用參考書は一冊か二冊でよい、四・五冊もあれば澤山である。常用參考書は種類を少くして冊數を多くし、特用參考書は種類を多くして冊數を少くする方針で備へつける。

2 設備費の工夫

教師本位の學級教授なら、黑板と白墨さへあれば大抵のことは出來得るが、生徒本位の學習になれば、參考書、標本、器具、器械を相當に備へねばならぬ。其の中でも差し當り必要なものは、各科の常用參考書と辭書・字典類である。理科の生徒用實驗器械の如きは、同種のものを生徒數の五分の一も備へて置けば、殆んど一人で一個を使用し得るやうになるので、學級教授の設備よりも却て少くてよい。それは兎に角、貧弱な豫算では到底間に合はぬのが一般の狀態である。豫算の增加を當にしてゐては、百年河清を待つが如しである。それ

で何うしても學校でつくるやうに工夫せねばならぬ。生徒と教師は中心となり、卒業生と父母の協力を得たならば、決して不可能事ではないと思ふ。私の預つて居る學校で企てゝ居ることは、

（一）學校内に同窓會の名義で購買部を設け、生徒の使用する物品は殆んど取揃へてある。購賣部は仕入れ方に骨折りさへすれば、少からぬ純益のあがるものである。之れだけ一つ旨くゆけば、他の企てはすべて廢してもよいと思ふて居る。

（二）バザー開催。　之れは女子の中等學校であるから比較的やり易いのであるが、男子の中等學校でも、小學校でも工夫さへすれば相當な成績をあげることは出來ると思ふ。バザーは單に金儲けの効果にとどまるものでない。それよりもモット大きな社會的訓練ともいふべき効果を收め得るものである。バザーには生徒製作品、卒業生製作品、卒業生・教師及び父母の寄附廢物品、委托販賣品、食堂の五部を設ける。生徒製作品の材料品は校友會から買つて渡す。食堂は來客のためにスシ、汁粉、ライスカレー、珈琲、菓子の註文に應じ、生徒手製のものを供し給仕もする。之れも相當な收益があるのみでなく家事作法の生きた實習である。

（三）卒業生の母校後援會。　一口拾錢の講のやうなものをつくり、有志者に加入口數を申

し込ましめて集金して居る。之れは成績は餘りよくない。卒業生は一町内や一地方にかたまつて居らぬから集金に不便である。加入者は僅かな金であるが、送金の面倒があるので思つて居ながら送らぬといふやうになり易い。

此の外に企てようと思つて居るものは、教科書代の$\frac{2}{3}$を學校におさめさせて其の代の$\frac{1}{3}$は教科書に、殘りの$\frac{1}{3}$は參考資料にふり向けることである。同學年が三組あるから教科書は$\frac{1}{3}$だけ買ふて學校に備へておけばよい。地理のやうな毎年新しくなるものは、此の方が却て經濟でよい。父母の負擔も最初の年は教科書代の$\frac{1}{3}$を輕減し、次年度からそれ以上の輕減になるわけである。教科書を共用するから消毒に注意せねばならぬ。

3　此の學習に對する疑點

（一）知識は纏まらぬ憂ひはないか。　(1) 義務的學習の要求が過重であると、普通生以下は纏まり難い。　小學校のやうに學級受持であれば、要求過重の心配は少いが、中等學校のやうに學科受持であると、教師は自分の受持學科を能く學習させようとの熱心、わるくいへば慾張から此の弊に陷ぬり易い。之れは最負（ひハま）の引き倒しで、却て其の學科を嫌ひ、いや〳〵ながら仕方なしに學

習するといふ受動的態度を馴致する。之れを防ぐために各科に費やした學習時間の統計をするやうに進度表を工夫して居る。

(2) 參考書が多すぎると纏まりにくい。　それで常用參考書は一種に限つて居る。多くても二種以上を用ひることを避けて居る。但し特用參考書は優秀生を伸ばすためのものであるから、なるべく數多く備へ、數多く參考するやうに指導して居る。

(3) 個人指導が行き渡らぬと纏まりにくい。　此の學習は、個人指導に一大特徴を持つて居るので最も適切に數多く個人指導が出來るけれども、生徒は教師が居なくても、熱心に學習して居るから、不熱心な教師は僅かな故障のために缺勤したり、學習室に出なかつたりする。學級教授ならば教師が出ないと生徒が八釜しく騒ぐので隣室の妨げとなり、又、補缺教授をするので同僚に迷惑をかけるから、如何に不熱心な教師でも遠慮するが、此の式の學習では、左樣な遠慮はいらないから、ツイ怠心忽心が萌し易い。不熱心な教師には特に此の學習をやらせることは禁物である。

(二) 學級訓練の機會少く協同心は薄弱とならぬか。　殆んど學級を解體して個人的學習を主とするから、協同心は薄弱となるやうに思はれるが、從來の學級教授に比べると却て協同心が強

大になる。協同心はお互に責任を重んじお互の義務を尊び、お互の長短を相補ふことによつて強くなるのである。此の學習はお互に責任を重んじて學習し、お互に義務を尊んで、他人の學習の妨げとなることを慎み、相互學習によつて相互扶助をなす機會は非常に多い道德的空氣の濃厚な學習である。協同心は、學級として一齊教授を受けることによつて強く養はれるものでなく、自由を與へられることによつて持ち來す、道德的雰圍氣に浸ることによつて始めて能く養はれるものである。

(三) 自分の嫌ひな學科を勉强しないといふ我が儘者にならぬか。　此の式の學習では、一ケ月單位で自由に學習し得る組織であるから、此の心配のあるのは尤もと思はれるが、併し此の學習は最も責任を重んずる學習である。一ケ月の義務的教材は責任を以て完成に努力して居る學習であるから、嫌ひな學科を勉强しない我が儘者になる心配は斷じてない。從來の學級學習では、好きな學科も嫌ひな學科も、同一水準線に揃へようとしたから、無理が生じて來たので、却て豫習復習を命じてもして來ず、作文を課しても定日までに提出せぬ我が儘者が出たのではあるまいか。

(四) 教師の人格的感化は少くならぬか。　學級教授に比し教師の說話をきく機會は少い。

それで舌端火を吐くとか、聲涙共に下るとかいつたやうな、教師の人格の熱火に燃やされる熱情ある教育を受けることは少いので、發憤興起、自奮自勵、悔恨精進をなす機會は少くないかと疑ふ者もある。人格の熱火は朝から晩まで燃え續けに燃えるものではない。折に觸れ機に臨んで燃えるものである。故に若し點火すべき必要があるならば、指導教授や學級學習（各科ともすべてを自習學習にしてない）の時など機會はいくらでもある。學級として與へられた熱よりも、個人的接觸によつて與へられた一言半句は、或は頂門の一針となり、或は肺肝を突く懷劍たることが多い。そして一般的に與へられた感激よりも永續性を持つて居る。道德的感激は辯舌の内にのみ得られるのではない。却て個人的接觸による一言半句或は無言の内に偉大なる感激を與へられることが多い。又拙劣な教師の說話よりも、力强い名文や聖人君子の片言のうちに見出すことも少くない。

（五）　相互學習の時は優等生は劣等生にきかれて困らぬか。　此の式の學習は興に乘じて學習し淡き疲勞を覺えるまで繼續し得るから能率を高め得る一大特徵を持つて居るが、優等生は斷へず劣等生にきかれて、此の特長を破りはすまいかといふ疑は尤もである。されど實際に徵するに相互學習の友は、大體に於て能力の似寄つた者同志ですする傾きがある。劣等生はよほど困らなけれ

ば優秀生に習ひにゆかぬ。優等生がセツ〳〵と學習して居るのを度々妨げる事を非常に氣兼ねして居る。時々『何うぞ教へて下さい』と賴んで居る者を見る事がある。斯樣な場合は、自分の餘力を喜んで捧げて居るのを見て感激に打たれることがある。斯くして學習の間に貴重な社會的訓練が行はれるのである。

以上の外に、優等生は義務的學習を早くすまして遊びはせぬか。怠けて居て友のノートを引き寫しする者はないか。參考書を其の儘引寫しはせぬか。ノートの誤りを其の儘記憶しはしないか等の疑問はあるが、全くないとは斷言出來ぬけれども、之れ等は學習態度が出來るに從ふて漸次少くなり根絶してゆくものであることを經驗して居る。又此のやうなことは學級教授にもあることである。ダルトン式學習も人間の考へたものであるから多少の缺點は免れない。

（六）　不安の念を以て學習しないか。　之れは初學年の生徒に多い現象である。特に數學に於て甚しくあらはれる。自分の式と答に對して一々教師から正否の判決を得ないと安心出來ぬのである。甚しいのになると自分のした計算が正しくて、教師にして貰つた計算が違つて居るのに何れが正しいかと問ひに來たとき、『どれが正しいと思ひますか』に對して、『之れは先生がなされた

計算であるから正しいと思ひますが」といふやうに答へた生徒もある。自分の仕事に對して甚しく信用を持たぬやうに思はれるが、之れは小學校に於て一々檢答して貰つた習慣から來たものである。何れにしても不安を懷いて學習をなさしめることは、疲勞も增し能率も低くなるばかりでなく、何となく其の學科が出來ないやうな氣がして、學科に興味を失ひ、進んで學習する勇氣を挫く憂ひがあるから恐ろしいことである。此の不安の氣分を除くには、口で能く說き聞かせたり、個人指導を多くしたり、月末に式と答を謄寫して渡したりする。斯うして漸次學習態度をつくり、自信のある仕事をして、自分の仕事に自信を持つように導いてゆく。

（七）　口と耳の練習は不足勝ちにならぬか。　國語は特に聽方、話方を忽にしてはならぬので、指導案に此處は小團をつくつて讀方、聽方、話方、獨演等の練習をなせと注意を喚起して置いても、面倒臭いからツィしない勝ちになり易い。甚しい例を擧げると、北米合衆國の都邑セント・ルイスをセントル・イスと切つて居る。錢取る椅子に結合したわけでもあるまいが。東洋史などには隨分讀みにくい固有名詞が出てくるので、「こんな字の人が、こんな字の處で、こんな字の人と戰つて勝ちました」といつたやうな滑稽な缺陷も起つてくる。之れを防ぐために、指導案に特に注意

もするが、各科の學習時間をすべて自由學習にせず、學級を形作つて復習、布衍、話方、聽方等の練習をするやうにしてある。

（八）　進度表の記入を忘らないか。　此の記入が正確でないと、相互學習の友を見つけるにも、個人指導をするにも、各科の要求過重を防ぐにも、不便で仕方がない、結局學習を圓滑に進行せしめ難いから、機會ある毎に記入を勸めて居るけれども、矢張忘れ勝ちになる。前にも述べたやうに、邦人は統計的研究に興味を持たせるやうな教育に缺けて居る點から考へても、記入を正確にする習慣を築きあげねばならぬ。此の習慣をつけるために、毎週一回、教師用進度表は學科擔任教師、生徒用進度表は學級擔任教師が檢閲するやうにして居る。そして統計の結果を圖表などにあらはして彼等の注意を喚起し、教師の參考に供するやうに努める。

（九）　學級學習に自學の態度は及んでくるか。　從來は教師が休んだり、遲刻したりすると、ワン〳〵騷いでゐたものであるが、此の式の學習に慣れてくるに從つて、騷ぎが少くなり、自分迚で仕事をつくつて學級學習を進めて居る。學習の仕方を會得すれば、教師が居なくても獨自と相互の學習は出來るからである。ただ輔導學習が出來ないから〆括りのつかない學習に流れる憂へ

はある。教師が缺勤或は出張したときは、從來は必ず補缺教授をしたものであるが、今日では補缺の掲示をすると、『私共は獨りで學習致しますから、補缺せずにおいて下さい』と請求されることは屢々である。

（一〇）勉學しすぎる傾きがないか。　之れには二つの原因がある。義務學習の分量と程度が過大であるために、普通生以下の者は定日までに完成し難いので、正課時外に多大の時間をかける。此の原因から來る過度の勉學は、好んでする勉學でないから疲勞も甚しく、學習を嫌惡するやうになるので、最も警戒すべきものである。之れに反して義務學習の質量は、劣等生でも相當の努力をすれば定日までに完成し得て、猶ほいくらかの餘裕が出來る程度のものであると、義務を完ふして責任を果したといふ喜びは、彼等を驅つて特殊學習に突進せしめ、優中劣共に勉學しすぎる傾きがある。此の原因からくる過度の勉學は、興趣に乘じてのものであるから、外見ほどに疲勞の大きいものではない。されど全く無害のものでもないから、其の儘に打ちすてゝ置いてはならぬ。之れを防ぐためには、本人と父母に個人的注意を與えると共に一方に於て大に運動を奬勵する必要がある。本校では一時限の學習を四十五分となし、十分の休憩を加へて五十五分で結了する

ことにして居る。斯うすると一週三十時限に於て百五十分を餘す計算となる。此の餘つた時間を一週三回放課後の運動にあてゝ居る。又二時限の終には一齋に其の場で五分間體育を行ふて居る。

（一一）教師は過勞しないか。　力の弱い教師と非常に熱心な教師は過勞する傾きがある。力の弱い教師は、有効適切な指導案を立てようとするにも、優秀生の質問に適切な指導を與へようとするにも、優秀生の讀むほどの參考書はすべて調査し、なほ其の上に教材を深く研究して置かねばならぬので、過度の勉學を餘儀なくせられる。又非常に熱心な教師は、生徒の個人指導に手あきの時間までも費やし、生徒のノートを一々丁寧に檢閲指導しようとするから、常にオド〳〵した氣持で暮らして居るので精神的に過勞する傾きがある。固より當の本人は日に〳〵グン〳〵伸びてゆく生徒に無上の喜びと樂しみを持つて居れば、そんなに過勞するものではない。又此の勞力は前述した本校の作文教授のやうに、生徒相互の學習を利用して緩和することも出來る。

（一二）教科書の使ひ方と優劣兒の關係はどうなるのか。　教科書を廢して、文部省の教授要目に依り、參考書を讀んで纒めさせる方が良いのであるが、各科教師は兎もすると義務學習の程度を高くする弊が起り易い。それで最も安全な方法は、最も程度の低い教科書を用ひて、義務學

習の教材となし、優秀生には特殊學習の參考資料を指示して、それ〳〵能力に適するやうに伸ばさせる。若し上述のやうな教科書がないならば、採用した教科書の程度を更に低めたものを教師が作製して義務學習のものとなし、教科書を餘裕者に用ひるやうにする。されど此の方は前者よりも教師の勞多く、生徒も學習に不便なことが多いやうである。

第四章　指導案の實際

指導案は、ダルトン式學習の實際を知るに、最も都合のよいものであるのみでなく、此の案の良否は、此の學習の成否に、多大の影響を及ぼすものである。此の意味に於て、此の學習を實施しようとする人達に、參考資料を提供するつもりでなるべく形式の遠つた指導案を、多く集めて見た。さて集めたものを、ズツト眺めて見ると、敲案讃嘆を叫ぶやうなものは殆んどなく、何となく、物足らぬ氣持がせんでもない。之れも國情を異にし、言語文字を同じくしない關係からでもあらう。兎に角、此の學習を採用する者は、之れ等の案を參考して、我が國の兒童生徒に適當したものを作り出さねばならぬ。

以下記載するところの指導案は、主として倫敦ストレツタム女子中學校で、實施したものから得たのであるが、著者は忠實に直譯したのではない。それ等の指導案を一つあて讀んで、著者の貧弱な頭に殘つたものを書き綴つたのである。そして後から讀み返して見て、自分の經驗を加へて自分にわかり易いやうに改めたから、原文にあることを省略したり、無いことを挿入したり、意味をアベコベにしたことは、少くなからうと思ふ。誠に原文に不忠實な仕方であるが、さうした方が、著者にも讀者にも分り易いと思つたからである。其のお含みでお讀みを願ひたい。

一　指導案に備ふべき項目

凡ての指導案は次に列擧した項目を備へねばならぬといふのではない。色々な指導案を讀んで見て、異つた項目を寄せ集めたのに過ぎない。實際立案に當つては、學年の高低と學科材料の難易に依て、何れの項目を選擇すればよいかが定つてくるので、何科には何々項目、何學年には何々項目を選ぶといふやうに型に嵌つたものではない。

(一)　名　　目。　○○科指導案　　○○學年　　自、月、日　至、月、日　　第、回(第、回契約)

第、回は四週間を一回として計算する。西洋では第、回契約と書いてあるのが多い。與へられた材料を定日までに、責任を以て學習の完成を契約するといふ意味である。

（二） 一般注意。 指導案全體にわたつての注意を書いて置く。

例へば、理科で、櫻の學習をする指導案ならば『實驗觀察用の材料は、理科實驗室に吊つてある採集函にあるから、一枝あて持つてゆきなさい。蓋を元の通りに、締めておくことを忘れぬやうにしなさい。』といつたやうなことを書くのである。

（三） 題 目。 學習材料の範圍と中心點を明らかにするやうな題名を書くことに注意する。

（四） 誘 導。 此の目的は、大體二つあると思ふ。學習動機の喚起を助けるのは、其の一である。之れを一讀する事によつて、學習者は研究して見たいといふ氣を唆られたならば、成功したものといはねばならぬ。故に、書きあらはし方に、苦心する必要がある。目的の二は、前との連絡を明らかにし、今月學習する材料の關係的地位を知らせて、學習の便に供するのである。斯のやうな目的のものであるから、平易な材料や學習態度の出來て居る學年には、殆んど必要のないものである一一一頁の國語指導案及び一八〇頁の算術指導案を參照せよ。

（五） 週に配當。 一ケ月に四週間あるから、一ケ月に學習し終はる材料を、四週に配當するのである。されど、第一週に配當した材料は、必ずしも第一週中に仕上げねばならぬといふ、窮屈なも

のではない。ダルトン式學習の特徴の一つは、與へられた各科の材料を、一ケ月内に仕上げればよいのであるから、第一・二週には地理・歴史と理科の半分を仕上げて、國語や數學を第三週以下にまわしてもよい。そんな事は、學習者の自由に任してあるので、學習者は、自分に最も都合のよいやうに學習し得るのである。若し第一週に配當してあるものを、其の週に必ず仕上げねばならぬものとすれば、從來の時間割的學習と大差のないものになつて、學習の自由は甚しく制限せられる。固より學習に慣れない間は、週單位に學習せしめ、指導教授を小刻みにする方が、纏りがついてよいが、既に學習態度の出來あがつた者には、そんな必要はない。必要のないものを週わけにする理由は、之れだけの材料を學習するには、之れ位の時間を要するから、そのつもりで學習の進度を加減して、月末までに仕上がらぬやうな事のない爲めにするのである。

（六） 學習要項。 與へられた題目について、どんなことが重要な項目であるかは、學習し終へた後に始めてわかる事もある。故に構案法のやうに、すべてを生徒自らに發見させると徒に時間と勞力を要することが多いので、一定の時間に一定の課程を學習せねばならぬといふやうな、國家の規定に從はねばならぬ教育に於ては實行しにくいのである。それで教師は、學習要項と、それ

を調べるに必要な參考資料を示すことが多い。固より教材によつては、生徒に學習要項を工夫させることもある。

幾つかの要項をまとめて、其の學習に要する時間を示して、學習時間の配當を適當にし、學習の進行に齟齬を來さないやうに注意する。次に要項を高中低の三程度にわけて、優中劣各々の者が、力相當に學習し得るやうに工夫する。

（七）學習注意。　材料の性質により、學習の上に色々な注意が生れてくる。材料のうちには、學習の結果を記憶し、暗誦して置かねばならぬものもあり、一讀にとゞめてよいものもある。暗記しなくても、必要のある場合に、取り調べ得ればよいものもある。又多くの參考書を讀んで、まとめればよいものもあり、實驗觀察せねばならぬものもある。其の他默讀すべきものと、音讀すべきもの、口述にとゞめてよきものと、筆述させてもよきもの、單獨研究でよいものと、學級或は小團研究をする方がよいもの、頭の中にとゞめて置いてもよいものと、實演してもよいものがある。學習要項について、特に上述のやうな、學習上の注意をなす必要のあるものは、記入して置く。

（八）ノートに書く事項。　學習したことを、すべてノートに書く必要はない。そんなことをすると、朝から晩まで、ノートを書き續けにして居らねばならぬので、考へる時間、觀察、實驗する時間が少くなる。書物の引き寫しは、絶對に避けた方がよい。印刷術の進歩した世に、書物の引き寫しや拔書をさせて居ては、時間と勞力の無駄費ひになる。若しそんなことをする必要があるなら題目とか要目の下に、書名とページを記入しておいて、必要のあるときに、其の書物を見ればよい。

ノートは、書いた結果に、重きを置かずに、纒めては書き、書いては纒めるといふやうに、纒めることに重きを置く。言ひ換へると、學習した事柄を整理する過程を尊重し、整理の結果に重きを置く備忘を輕く見たい。備忘に重きを置き過ぎると、何でもかでも矢鱈にノートに書きとめて置いて、後からそれをつめ込んで、一時の間に合せをするやうになる。そんな學習の仕方は、二重の手數を要するのみでなく、思想が纒まりにくい。從來のやうに、教師に一々まとめる手傳をして貰つた學級教授と違つて自分でまとめねばならぬ。自由學習に於ては、ノートを備忘よりも整理の助けとなすことに重きをおきたい。此の意味に於て、學習に慣れない間は、ノートに書く事項を、指導案に於て指示する必要がある。

次に注意すべきことは、ノートの書き表はし方である。書き表はし方は、學科と材料の性質に依つて一樣ではないが、なるべく學習した事項を、整理するに最も都合のよい方法であつて欲しい。定義のやうなものは別として、出來るだけ文章を避けて、圖表・概括表・綱目法・繪畫・地圖・統計表等によつて表はす方が、簡潔明瞭であるから、思想整理の手段としては適當であると思ふ。此の意味に於て、指導案にはノートの書き表はし方を示し、或は工夫せしめるやうに指導して置くことがある。

（九）練習問題。　整理と復習を兼ねた練習問題を示しておく。生徒は此の問題に解答することによつて、學習したことを纏める助けとなり、纏まつて居る者は、復習することになるから、記憶を確實にする助けとなる。

（一〇）他科への分割。　連絡關係の密接な教材は一つの學科でなした仕事を分割して他の學科の仕事にするのである。例へば、歴史において足利尊氏論を書いて、文章も可なり能く出來て居るとすれば、作文として何時間分の仕事に當つて居るかを、國語の教師に見て貰つて、國語の課業として認めて貰ふのである。博物に於て寫生したものを、圖書の一部として認めて貰ふのも同じ

である。

其の他、ノートの提出期日、指導教授の時日と指導範圍、討議研究の時日と討議題を示して置くことを忘れてはならぬ。

二　指導案作製上の一般注意

指導案を作成する上に注意すべきことは、指導案に備ふべき項目を說明した時にも、多少述べて置いたが、更に改めて述べて見よう。多少重複する點もあるが、大切な事は反覆によつて、却て確實になるから省かずに述べる事にする。

（一）生徒は學習題材について、どんなことを痛切に要求して居るものかを看破らねばならぬ。換言すれば、生徒の心理的要求を知悉する事は最も大切である。大人にどれ程興味の強いものでも、心身の發達程度を異にして居る少青年には案外つまらなく感ずることもあり得る。

（二）如何なる點に着想し、如何なる結構を以て提示すれば、彼等の興味と思考を力强く捉へ得るかを考へて見る。換言すれば、何うしたら學習の動機を强く喚起し得るかを工夫する。

（三）學習の興味と思考を、最後まで繼續せしめる方法を研究する。

（四）教師自身が、生徒の心理を想察して、指導案の改良に苦心すべきであるが、同時に又指導

案に從つて學習した生徒の、指導案に對する希望や感想を遺憾なく述べさせたり、或はもつと具體的に、各科指導案中、學習上最も有効であつたものと、其理由を述べさせて、參考に資するがよい。

（五）指導案の最初に、學習の到達點を、明示することも有益なことがある。又教材が複雜困難で、最後の到達點に達するまでに、餘りに曲折して居るときは、それまでの途中を適當に小分けして、幾つかの里程標を示して置く。里程標の數の多寡は、學習に少からぬ影響を及ぼすものである。多すぎれば、考へる餘地を少くし、少なすぎれば、纏まりがつかなくなる。低學年で、まだ學習に習熟しない間は、材料を小さく切つて、週指導案にすることもあるが、なるべく早く、月指導案に導き入れるがよい。月指導案に依ると、週指導案よりも生徒は先き〳〵を見越して、學習の分量や難易や其の他あらゆる事情を考へて、學習時の割當を豫定せねばならぬ。遠い先きを考へて、仕事の順序方法を工夫するといふことは、誠に尊い生活訓練である。

（六）書き表はし方は、極めて明確で、要求點に對し曖昧な點が少しもないやうな、簡明有力な文であつて欲しい。

（七）學習事項が澤山あるときは、其の輕重を明らかにして置いて欲しい。

（八）高中低の三段に書きわけたときは、低程度は全生徒が仕上げる責任を負ふて居るもので、其の他は餘裕者がなすべき義務を持つて居るものである。どんな力の弱い生徒でも、各科の中で一科位は、中か高の程度をなす組に入るやうに、奬勵指導することは大切である。どの科もどの科も低組に屬してゐては、浮ぶ瀬がない。此のやうに各科について、三つの程度を設けて、各生徒をして、其のうちの何れかを選ばしめるやり方は、各個人の知力に適應した學習をなさしめ得る効果はあるが、實施上最も困難を感ずる點は、各生徒に優中劣のレッテルを貼りつけることから來る結果である。優中は別に懸念もないが、劣のレッテルを明らかに貼られた者は、好ましくない結果を持ち來しはすまいかといふ、心配がないでもない。固より自分が選んで貼つたもので、教師から貼りつけられたものでないから、幾分か心を慰める點もあるであらうが、劣のレッテルは矢張劣のレッテルに相違ないから、精神的に殺されはすまいかといふ懸念はある。知力は、人間としての優中劣を品等する唯一の標準であるとすれば、諦めもつくが、それが必ずしもさうでないから、心配なのである。生徒に此の道理、即ち知能の程度は、人間としての價値の程度でない

ことを說いて聞かすれば、分るは分るであらうが、希望に輝いて居る少青年の前途に、黑影を投じ、それが漸次に心に喰ひ入る憂は免れない。此の心配の雲を打ち拂ふために、あらゆる方面に多大の注意をせぬばならぬが、とりわけ全生徒が成し遂げる、責任を負ふて居る、低の程度を思ひ切つて引き下げる事である。『何はさておいても之れだけは常識として知つて居らねばならぬ』といふ最下程度の要求にとめて置く。さうとすると、知力の弱い生徒でも、比較的得意な學科は、中又は高程度を選び得るから、明らかに劣のレッテルを貼らずにすむ。高中低の選定は、生徒各自の自由選定に任ずるのを本體とする事はいふまでもない。敎師は常に生徒の長所を認めて、指導の有望を樂しみ、機會ある毎に生徒にも自らの長所を認めさせ生きさせてゆく事に努めねばならぬ。

（九） 指導案は型に塡つてはならぬ。材料の性質により精しく研究させねばならぬ事もあれば、大體の研究に止めてよい事もある。丁度、讀本の學習に精讀と多讀とあるやうに、或る材料は大意に止め、或る材料は通讀に止め、或る材料は、語句、文字の末迄も精細に研究せしめる。精密科學と言れる數學にても一々式と運算と答を要求しなくもよい事がある。概算に止めてよきもの、解法の着眼法に止めてよきものがある。斯して學習の質量を共に大ならしめる事は大切である。

（一〇） 指導案を謄寫板にするときは、文字が鮮明であつて欲しい。不鮮明な文字は、讀まないうちから暗い氣持となり、非常に疲れるものである。鮮明な文字は日本晴れのやうな氣持を誘發し、頭腦のハタラキも敏活となる。殊に數學問題の數字が不鮮明であると、x^2かx^3か判然しないので、本氣に思考計算する氣になれぬことが多い。『（附） 各科の指導案についての注意は、執筆者がそれ〴〵其の科の受持敎師であるから、同じやうなことが何度も〳〵重複して居る。讀者は自分の受持學科を主として讀まれること〻思ふから重複したことを省かずに置く。されど各科受持敎師が、各々獨特の見解のもとに獨特の經驗から割り出した注意であるから、自分の受持學科だけのを讀まずに、他の學科のも讀んで貰ひたい。啓發されることは少くないと思ふ。』

三 國語指導案について

ダルトン案に依る國語學習の目的は、國語敎授の目的と何等異つて居らぬ。即ち一定の期間に一定の材料を學習し、其の間に趣味を養ひ、話方や書方を修練するのである。正しい國語敎授は、作品の良否を鑑賞する力を養つてくれるから、情熱の高い青年期を有益に過させることが出來る。ダルトン案に依る國語學習は、個人的にも小團的にも、研究し得る仕組になつて居るので、矢繼早に發せられる敎師の問によつて、あはただしく學習

する從來の教授よりも、生徒は、シンミリ考へたり、味つたりする餘裕があり、又お互の意見を聞いて、力相應に啓發することも出來るから、文章の眞義に觸れて、味ふことも比較的出來易いので、作品の鑑賞力も進んでくる。

生徒は知識の寶庫を開くべく、自ら進んで圖書室に入るやうになれば、最早シメたものである。然るに從來の經驗によると、どれだけ圖書室を充實させても、生徒は容易に近づき親しまぬ。たゞに圖書室に入つて來ても、讀むものはお伽噺位のもので、ピカ〳〵した金文字や、美しい色彩の表紙を、眺めたゞけで通り過ぎる者が多い。從來の教授では、教師は參考書を讀んで、物知り顔に滔々と辯じ立てるのであるから、なるべく生徒に玉手箱を知られないやうに望んだものである。圖書室の利用されない第二の原因は、教科書に即して參考書を讀むやうに、指導しないからである。教科書を熟讀玩味し、敷衍附加するために、參考書を利用するといふ仕方でなくて、教科書は教科書、參考書は參考書といふやうに、其の間に唇齒輔車の關係をつけない學習であつたからである。此のやうな仕方の學習であるから、圖書室に備へてある讀み物は、勢ひ肩の凝らぬ娯樂的性質のものでなければ讀み手がないやうになるのである。第三の原因は、圖書の排列から來る

缺陷である。一年生と五年生は、知識や趣味の度に於て著しい違ひがあるから、圖書の排列も、少くとも高低學年の二部位には分けたいものである。現在の大抵の學校圖書室は、國語なら國語といふやうに何もかも一しよくたに排列してあるから、どれが自分達に適當なものか、一々讀み出して見ねば分らない。それで、伊勢物語と金文字で書いた表裝の美々しい書物が目についたから、多分太神宮樣の御話であらうと手にとつて見たら、何のことかサツパリ分らぬ六ケしい文章であつたと、話して居た一年生もあるといふ、滑稽も出來るのである。

以上の原因を取り除いて、生徒に讀書の趣味をさとらせ、自分から進んで參考書を讀むやうに導くには、ダルトン式學習に依る方が、最も安全な近道であると思ふ。此の學習では、指導案を中心にして、參考書を丁寧に指摘し、又從來の集中式圖書室を散在式に變更して、各科年級圖書室にするか、或は書架を高低學年に分けるやうにして居るから適切な圖書を容易に見つけ得る。

ストレツタム女子中學校では、一箇年の學習材料を九つに分ける。一ケ月分の學習を一單位にして居る。三ケ月を一學期とする。一學期間には、大抵沙翁劇一つと、やゝ程度の高い韻文及び散文若干と、少くとも小說一つを學習せしめる。日數の關係で、小說は生徒の隨意に任じ、低學

年は全く省くこともある。月指導案は、ダルトン式學習の羅針盤ともいふべきもので、之れが作製に多大の注意と工夫を費やさねばならぬ。

此の式の學習では、教科書だけであつた從來の學習よりも、讀書の範圍が廣くなり、量は增してくる。それで、此の學習に對して疑を懷いて居る人は、……此の式の學習は、從來の精讀に對して多讀の傾向が强い。而して精讀と多讀と、何れがまさつて居るかといふ問題は、今もなほ解決されずにのこされて居る云々と、暗に非難の口吻を漏らして居る。『讀書百遍意自ら通ず』といふこともあるが、簡單な教科書を何百遍も繰り返し卷き返し讀めば、一通りの意味は通ずるであらうが、それが即ち精讀であるとは速斷出來ないと思ふ。何となれば精讀といふからには、一回は一回と深さが增してくるものでなくては、然かいふことは出來ないからである。ダルトン式學習の多讀は、細心の注意を以て作成した、指導案に基いての多讀であつて、讀む度毎に自ら學習を深めてゆく多讀である。精讀の方便としての多讀である。優中劣各々に力相應な多讀である、多讀のための多讀でない。學習に即した多讀であつて、亂讀を避けるための多讀である。

指導案は、作文も、暗誦も、話方も、文法も、補充材料も、學習し得るやうに作製する。一ケ

月の學習材料を、週に配當した方がよい。之れは、此の學習に慣れない低學年の生徒が、毎日の學習の分量を適當に定めて、學習の進行と結果を良好にし、月末に仕上げ得る目安を立てるに少からぬ助けとなるからである。學習時間の經濟的使用に關しては、彼等が學習して居る實況に注意して、適切な指導を與へねばならぬ。國語の時間は、一週六回で、一回は四十分である。此の時間中に、指導教授も自由學習もなすのであるから其のつもりで國語の學習にかける時間を定める。指導案は生徒の力に適したものを作るべきはいふまでもないが、なるべく平易な文字語句を用ひ明確にして暗示に富んだ問を設け、生徒を引きつける力と吸ひ込む新鮮味があつて欲しい。

指導案は、高中低の三つに書きわけるのが普通であるが、學級の實力や教材の性質によつて、二つに分けることもある。低程度は、全生徒の成就すべきものであるから、劣等生が一ケ月内に、完成し得る程度と分量のものであらねばならぬ。低程度を完成して餘力ある者は、中及び高の程度に進んでゆく。中及び高の程度を學習する者は、學習したもの或は其の一部を、脚本に書き換へるやうな、種類の課業を歡迎する傾きがある。例へばシーザー劇を學習すると、カシアスが市民になした演述を、無韻詩で一幕物に作れといつたやうな課題を好む。何れの程度を學習するかは

生徒自身に選ばしめるのであるが、低學年の生徒は、まだ學習の性質を體得しないので、無暗に競爭して、高程度を選び、無理な學習をなす憂ひがある。それで、學習の如何なるものかを知るまでは、なるべく低程度を選ばせて、學習に十分慣れさせた方がよい。固より教師は生徒の特質に注意し、圖抜けて出來る生徒には、更に適當な參考書を讀むやうに、指導することは大切である。

各指導案には、(一) 指導的問題を與へて、一定の書物を讀むやうにしてあるが、理想をいへば、自分で自分の好む書物を選んで、自分で調べて、自分で味つたところをまとめればよいのであるけれども、餘りに自由讀みを許すと、材料の輕重を誤つたり、意味を正確につかみ得ないことが多い。此の困難を救ふには、どうしても指導的問題を與へて、學習せしめた方がよい。若し指導的問題を與へないならば、學習した結果を纒めて、ノートに書かするやうにするか、又は教師から暗示された目的に依つて學習するやうにすればよい。

(二) 高學年には、文學趣味に富んだ作品が少くないから、其の必要は殆んどないが、低學年には、それが少いから、補充材料として文學趣味の豐かなものを用ひたがよい。教科書だけでは物

足らぬ。

(三) 戯曲を解し味はつた後は、朗讀・朗詠させる。

(四) 讀んだことを基として、作文させることもよい。書き綴ることによつて、讀書を更に深め得るからである。文題は、なるべく發表慾を刺激するやうなものであつて欲しい。生徒の思想感情に觸れない文題は努めて避けねばならぬ。

(五) 學習したことを指導するために話さすこともあるが、又話方練習のために、話の筋書を書いてきて、それを見て話させることもある。話方練習は、自分獨りですることもあり、小團をつくつてすることもあり、先生の前ですることもある。兎に角、指導案の中に、口の練習をなす仕事を課する必要がある。目を主とする學習は、ともすると、口と耳の修練を忘れ勝ちになるから、機會ある毎に話方・暗誦・朗讀・朗詠をなさしめる必要がある。

(六) 毎週一回は、詩か劇の朗讀練習をするやうにして居る。其の方法は、之れ等の學習を完成した者が、寄り集まつたり、又は二・三人集つて練習するのである。教師はなるべく出席して、指導的注意を與へる。此の方法は、極めてよく進行して居るので、教師の手も可なり省ける。教師は更に

練習を要する生徒に氣づくと、特別に指導する。上級生と下級生は、別々に劇の會を設けて、毎週集會を催うし、朗讀又は劇を實演して居る。

（七）國語に論理的基礎を與へる意味に於て、文法は國語學習中大切なもの〻一つである。それで、指導案の中に文法學習を挿入する必要がある。文法教授に關しては、從來論爭が絶えないので、文法教科書の編纂の仕方もまち〳〵である。どちらかといへば、文法教授に反對の空氣は濃厚であるが、之れは文法の學習は無味乾燥で、勞力の多い割合に効果が擧がらないためである。若し文法を面白く有益に學習する方法があるなら、文法教授に反對する者も、恐らくなくなるであらう。ダルトン式學習に依る文法學習は、文法教授の可否問題に、解決の鍵を與へるものと信じて居る。教科書は、なるべく簡單で、要領を得たものがよい。皆々しい規則や繁雜な分類は文法學としての學的興味はあるであらうが、實用文法としては、術語の記憶に忙殺せられて、誠に興味の薄い効果の少いものである。

（八）指導案に示された仕事をすべて成し遂げて、なほ餘日を持つて居る者は、なるべく希臘の神話に親しませたがよい。神話は面白くもあり、又あらゆる文藝を解し味ふ上に、少からぬ助けとなるものであるから、なるべく讀むことを奬勵す。

四　國語指導案例集

○國語指導案例　第八年級

此の月は、キツプリング作の『勇敢なる船長』を讀みませう。之れはニューフアウンドランドの大突堤近くに住んで居た、勇敢な漁師達の生活を描いたものであつて、讀む者の心を躍らし、血を湧かさせるやうな面白い物語である。私は、皆さんは屹度此の物語は好きで、特にハーヴェーやダンや其の他の者共を愛せられることを信じてゐます。通讀して仕舞つたら、次の題材について、短いお話を書き綴りなさい。仕上がりましたら、私の手許までお出しなさい。私は批評添削してお返しします。

一　皆さんは、報知新聞の通信員であると假定しなさい。そしてハーヴェーとダンの冒險と、死んだ佛蘭西人の話を聞きつけたとしなさい。之れを新聞に掲載する通信文として纏めなさい。言ふまでもなく、新聞に載せる物語は、人の心を吸ひ込むやうな面白味と、引きつけるやうな書き振は、特に大切であることに注意しなさい。

二　皆さんは、一ヶ月滯在してゐた後、いよ〳〵安着丸に乗り込んだハーヴエーであると假定しなさい。そして、今迄經驗した面白かつたことや、恐ろしかつたことを、有りのまゝ詳しく手紙に書いて故郷のお母さんに、知らせてあげたいのです。いふまでもなく皆さんはハーヴエーになり切ることが出來れば、目に見えるやうな、生々した手紙を書くことが出來ます。

○國語指導案例　第八年級

此の月の讀み物は、スコツトの『ロツブ・ロイ』である。三週間で讀みあげて、四週目には『ロツブ・ロイ』の紹介文を書くのです。紹介文は、此の前に書いた通信文とは、趣きを異にしてゐる。皆さんは、『文藝評論』を見ると、此の種の文に接することが出來る。紹介文は讀者をして、此の書物を購讀しようかすまいかを決めさす、重大な任務を持つて居るものであるから、次の各項に注意して書きなさい。書きあげたら提出しなさい。

1　書名と著者名を省略せずに書くこと。

2　發行所と、定價と、ページ數を落さぬこと。　どれ位の大いさで、どれ位する書で、何處で

求められるかを知つて居ることは、購求する上に必要なことである。

3　書物の要點を、簡潔有力に書きあらはすこと。　書物の內容の價値を知つて居ることは、購讀を定める上に大切なことである。

4　最後に書物に對する自分の意見を附け加へておくこと。　意見はなるべく書物の美點と缺點をあげて、簡單な理由を附け加へ購讀の可否を定める參考に供する。

○國語指導案例（小學校）　第五年級

第一週

此の月の仕事は、物語詩（メラフト）の研究である。物語詩とは單純淺淵な詩で、人口に膾炙して居る出來事を、口調のよい生氣ある書振で綴つたものである。

次の子守歌を繰り返し口吟んでみよ。

『昔の王樣コール樣
陽氣で御座つたコール樣
ホントに陽氣な王樣ちや』

Old King Cole was a merry old soul,

And a merry old soul was he."

各行の音節（シラブル）と揚撃（アクセント）を數へて見よ。次にあげた三つの物語詩を讀んでみると、皆此の古い韻律で書いてある。此の古い韻律は、物語詩に普通なものである。

復讐（艦隊の物語詩）　テニスン作（子供の詩第三卷）

此の詩を讀む前に歴史室の書棚にある『チュードル時代の光景』を借つて來て讀め。其の一三

○　には、ウオーター・ラレーによつて物語られた、復讐の最後の戰の幕が面白く書いてある。ラレーは當時生存してゐた人であつて、此の物語の直話者である。テニスンは此の記事によつて、復讐を作つたのである。ラレーの物語を熟讀せよ。それから『復讐』を讀むと、作者が此の物語を詩化した手際には、感心させられるであらう。（以上は一日分の仕事）

（備　考）詩を讀むなら何時でも

1　直讀せよ。そして一篇の作中に含まれて居る大意を掴め。詩の音律又は拍節に觸れよ。分らぬ語句があつても、讀み飛ばしてゆけ。

2　精讀せよ。分らぬ語句があつたら、先づ考へて見よ。始めから何度も讀み直して考へて見よ。字書の助けを借つて考へて見よ。語句の裏に潜んで居る眞意を考へて見よ。字書で捜してわかつた語を書き出して記憶せよ。

3　再び直讀せよ。だん〳〵明らかに分つて來るので、ます〳〵面白く讀める。

4　味讀せよ。詩の韻律を伴奏として、詩の語句の暗示に導かれて、詩の天國に遊べ、そして歌へ、舞へ、歸れ。（以上は二日分の仕事）

復讐の乘組員の一人であると想像して、戰の狀況を記述せよ。（二日分仕比事）

（第二・三・四週は省略）

○國語指導案例（小學校—十歳兒）

第三週

一　綴　方

頭にハツキリと描かれて居ることは、最もよく綴り得るものである　頭に描き出されぬことを綴らうとあせつても、それは徒勞である。文を綴る上に、最も大切なことは、筆で綴る前に、頭

の中にハツキリした繪が、出來あがつて居らねばならぬことである。

愈々題材を選んだなら、外のことは一切打ち忘れて、題材に兩眼全心を凝集せよ。そして頭の中の繪に、形を與へ、色を着け、生氣躍動せしめよ。最初の印象は大切であるが、それに嚙りついてゐてはならぬ。自分が實際の場處に臨んで居るやうに、細かい點まで、ハツキリと浮び得るまで心眼を開いて凝視せよ。

次の題から好きなのを選んで綴れ。

1　忙しさうな停車場の光景

2　火焔の舌に嘗められて居る友の家

3　秋の或朝の或場所　（A及B組のみ）

（以下省略）

○國語指導案例　第三學年　（野村立案）

（○印のあるものは餘裕者のするもの）

教科書の第十二・第十三課　妹にさとす（吉田松陰）（自五二頁至六〇頁）

1　この手紙を出した頃の松陰はどんな境遇だつたでせうか。

2　この手紙は何時、どこから出したものですか。

3　この手紙で松陰が妹（芳子）に是非わかつて貰ひたいと思つたのは何の點でせうか。

4　何故この妹に、特にこんな手紙を書いたと思はれますか。

○5　松陰の宗教的信仰に對する意見を、この課でわかつた丈け、極く平易にお述べなさい。序に左の二項を調べて見なさい。

a　佛教の小乘といふのはどんなことですか。

b　同じく大乘の出世法といふのはどうですか。

（5はわかるだけでよろしい。分らぬことは指導教授のときに教へます。）

6　全課の文章、語句をみなよく解釋の出來る樣にしておいて下さい。

特に左の事項を記述して貰ひます。

a p.53『……御深切のことに候へば相果したく存じ候へども……』の候へども といふ語はどういふ事を言ひたいために用ひたのでせうか。

b p.54 『……それ故凡人は……。』とこゝに特に凡人としたのはどういふわけでせうか。

c p.57 『……觀音に賴みて福を求むるやうのことは、必ず〳〵無益に存じ候。』と書いたことに對して、『……不孝なる申分と御存じあるべきか……。』などゝ何故氣にしたのでせうか。

d 『のどけさよ賴なき身の神まうで』の解釋。

7 この手紙についての感想をお述べなさい。

8 短い候文を一つお作りなさい。

参考書

教科書の下欄事項……各自所有

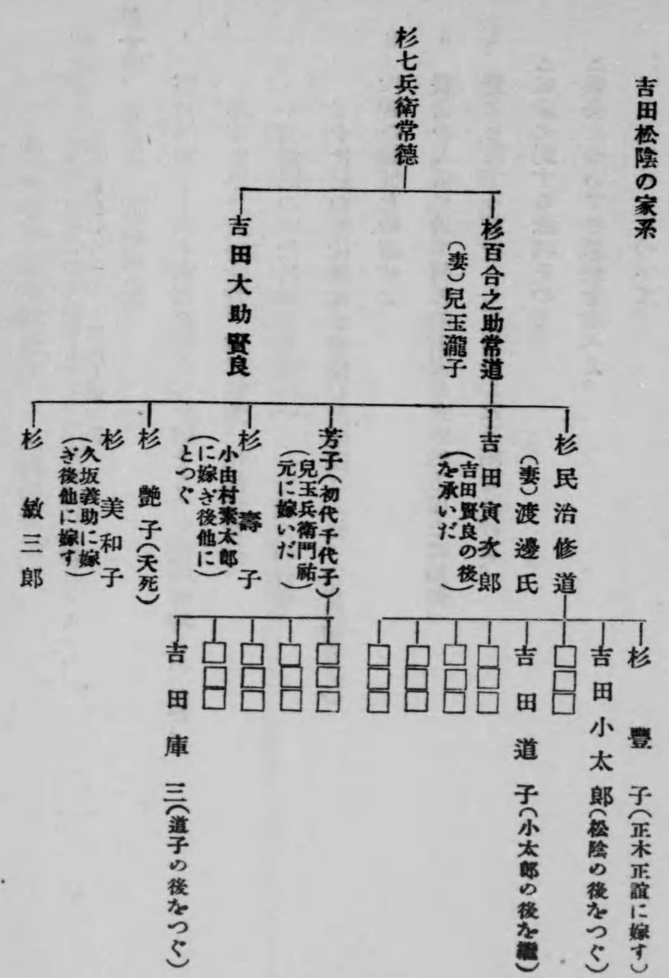
幕府瓦解史上巻 p.74 より p.89 まで圖書番號地歴室二二〇

吉田松陰 同 二五八

大日本全史下巻……p.809 同 三〇二

9 本課について更に自分で研究問題を選んで學習を深めなさい。

吉田松陰の家系



○第四學年國語指導案　（野村立案）

注意事項（問題中△印は餘裕あるものへ。□印は更に餘裕あるもの（。）指導教授は十一月二十八日第三限。

第十課、豐公論　（中村孝也）

1　語句解釋……本課に適合した例をもつて說明解釋をのぞむ。
　神算鬼略。大陸政策。海洋政策。模範的女性。
　十六世紀の時代精神が具體化せられた最大の偶像。
　二十世紀の時代精神が要望した崇麗な人格。（其他隨意に）

2　作者の論旨を略述せよ。

3　豐公の人格に於て男性的方面と女性的方面とは如何。

4　豐公を論ずる材料として共鳴した事柄をあげよ。

△此論に對する批判をのぞむ。

△豐公についての感想を述べよ。

□ジョセフィンについて。

□大政所への手紙について。

□其他自由の研究をせよ。

（參考書は隨意選擇せよ）

×　×　×　×

第十二課、山上の思索

1　左の項をわかりやすく說明せよ。

a　宇宙の眞相。

b　自己の全存在の根柢を脅かして殺到し來る自然の威力。

c　一度家庭と朋友の團樂をはなれ……自分の情調は直ちに混亂と迷惑とに陷らざるを得ない。

d　……自我の縮小を感ずる。

e　自己を自然の威力に融合させる。

2　要するに作者は山上に於てどんな思索をしたか。

× × × ×

第十四課、筆の氷

自由研究

× × × ×

第十五課、重盛諫言

1　字句の解釋。

2　重盛の忠孝觀について論ぜよ。

3　重盛の諫言を清盛はどんな氣持で聞いたゞらうか。

△清盛を論ぜよ。

△重盛が清盛邸へ乘込んだ時の樣子を想像せよ。

□當時の社會狀態を研究せよ。

□其他自由。

（參考書　高山樗牛全集三卷、其他日本歷史書）

○國語科指導案　第二學年　（野村立案）

第十八課　風鈴（大谷繞石）

（一）一通り讀めましたら、各自思ひ〳〵に題目を選んで、自由に研究して下さい。

（二）十一月二十一日(水)の國語のとき、學級の相互研究を致します。

○本文。嘗て或人の贈つてよこした半鐘形の支那渡來の鈴のあることを思ひ出して、これを風鈴に造つて座敷の廂に吊した。いゝ音を出す。

庭はこなひだ草拂りしたばかりだから、淸々としてゐる。まんべんなく打水する。それから行水を遣つて、廣袖の浴衣を着て、緣に出て、ぼんやりと庭を眺める。暮れるにはまだ早い。風鈴がちりゝん〳〵と涼しさうだ。

店の內はいつも打水に濕つた石敷、中央に場所の割合には大きな泉水、池には金魚が幾匹か尾を重さうに緩く振はせて泳いでゐる。岩の小島にはその島の幅の三倍も高さのある鐵製の鶴が立つてゐて、頭の頂點から高く水を噴き上げてゐる。白大理石の圓テーブルに對つて、雪白のエプロン掛けた小女の持つて來た氷水の堆い氷を、銀匙でさく〳〵とコップへ突き入れる。波に千鳥の模樣を青い硝子玉で、そ

の他は無色の硝子玉で造つた廂の淺い簾の外の吊葱から下つてゐる風鈴はちりゝん〳〵。

町中とはいへ、寺のことだから書院も天井が高い。土塀近くには鶯蹋・萩など植わつてゐるが、その廣い砂庭には、秋には或は眞つ黄に或は眞つ赤になる葉鶏頭がすい〳〵と立つてゐるだけ。本堂の蔭になつて日の光は當つてならぬ。その書院に、大方は飛白の單衣の若い男が七八人、勝手な處へ坐蒲團を持つていつて、それに胡床をかいて、ぢつと庭に見入つてゐるもの、立膝を兩手で抱へて眼を塞いでゐるもの、腹這になつて頬りに手帳に何か書きつけてゐるもの、その姿態は人さま〳〵だが、誰一人口をきかぬ。學生の俳句會でもあらうか。時折のそよ風に、塀際の鶯蹋・萩の葉が搖れ葉鶏頭の莖が動くと同時に軒に吊した風鈴がちりゝん〳〵。

いゝ月だと、更けた月を雨戸一枚繰つて眺める。空は水のやうだ。月は折から庭の青桐の木末に懸つてゐる。或一枚の廣葉の虫の喰つた穴が大小二つ判然と見える。近所は寂靜まつてゐる。この長旱に淵れもせぬ門川の淙々たる瀬音も、こゝ裏庭にゐては音が弱い。時折蜩に似た河鹿の朗かな聲が川の上手に聞える。無いやうだが葉を搖ぶるほどの風はあると見える。廂の風鈴も微かにちりゝん〳〵と鳴る。

○相互研究の狀況

（一）各自の研究題目を發表し、題目の選定の良否について意見を求める。斯うして學習の仕

方を研究するのである。

（二）研究題目に面白さうなものがあると、他の生徒は研究事項の發表を求める。贊成者が相當にあれば、其の生徒は發表し、他生の意見を求める。斯うしてお互に啓發せられつゝ學習を進めてゆく。

教師は以上の相互研究を聞いてゐて、時々求められるまゝに自分の意見を述べたり、適切な指導を挾んで、大體まとまりのつくやうに輔導してゆく。

○生徒の研究成績の例

（一）研究題目について

1　語句解釋。　　2　時節は何時頃か、それはどこで分るか。

3　風鈴の音をどんな所できいたのでせうか。　　4「飛白の單衣の男が二・三人……風鈴がちりゝん〳〵」までを想像した文を作つてみよ。

（以上はNK子）

1　文の批評。　　2　挿繪の批評。

3　時の想像。　　4　作者の想像。

5　文の一場面を和歌に。　（以上はＹＴ子）

1　難語句の讀方と意味を。　2　全文の大意と各段の大意を。

3　風鈴の鳴り方をきいての感じを。　4　作者の想像を。

5　「波に千鳥の模様を……ちりゝん〳〵」を繪に。　6　書院の光景の想像文。　（以上はＹＹ子）

三人の選定した研究題目を其のまゝ彼等のノートから寫して見たのである。別に優秀生のを引き抜いて出したのではない。澤山積んである彼等のノートから十冊だけ手當り次第に引き抜いて來て、其の中から引き寫したのである。あとの七人も大抵似寄つた研究題目を選んで居る。

（二）研究物について

1　難語句の讀方と意味を

（イ）吊葱＝つりしのぶ＝葱の釣つてあること。（ロ）躑躅＝テキチョウ＝つゝじ。

（ハ）長旱＝長い間のひでり。　（ニ）涼々＝水の流るゝ樣、水の音の形容。（ＹＹ子）

2　挿繪の批評

此の文にあまりふさわしくないと思ひます。文を讀んで得た私の想像と大へんかけはなれてゐるやうな氣

がしました。何處がさうであると、はつきり言ひませんが、挿繪の庭は大へんせゝこましく感じられ、變な讀んでみると、もつと〳〵ひろいものだらうと思ひました。風にゆられてゐる風鈴の有樣は、紙か何かで作つた輕いふわ〳〵したものゝやうに思はれて、あの氣持のよいちりゝん〳〵といふ音は出さうな感じがしません。

（ＹＴ子）

3　『いゝ月だと、……終まで』を想像して　（ＮＹ子）

高い音のひゞくのをはゞかる樣にそつと雨戸を一枚くつてえん側に立つた。

くまなく冴えた空に白銀の滿月に近い月がくつきりとかゝつてゐる、丁度青桐の木末に。廣い青桐の葉に蟲の食つた穴が二つはつきりと見えてゐる。四方の家は皆戸がしめられて音一つしない。やすらかに桃色の夢路をたどりつゝあるのであらう。たゞ月のみがその青白い光を下界のすみ〳〵まで浴せかけてゐる。一つ二つ小さな星が淡くまたゝいてゐる。じつと耳をすますと門川の瀨音がかすかにさら〳〵と耳に響く。時折河鹿が朗らかな聲を立てゝ川の上手で鳴いてゐる。感じない位のそよ風が廂の風鈴を思ひ出したやうにならして吹く。

チリヽン、チリヽン……

何と夏らしい心地のする夜であらう、涼しい音だ。弱く淋しくとだえがちにチリヽンとなるその音！

たゞ一人えん側にたゝずんで月にのぞむ私の心にさびしい悲しいひゞきをたゞよはせる風鈴の音。私は青

い月の光りを總身にあびてぢつと空を見つめたまゝ風鈴の音に耳をすました。（NY子）

4　作者の想像

四十を越したかこさぬ位の中肉中背の方で、額のまるい鼻ひげをちびつと生やした、目の細い笑みを含んだ、懐かしみのある方のやうに見えます。（YT子）

5　文のところ〳〵を歌に（數生のノートから、抜書したもの）

打水のかはかで暮るゝひろ庭に、風鈴の音のすゞしかりけり
風鈴の涼しき音にはけい頭の、青き莖ゆる初夏のひる
朗らかな河鹿の唄の心地よし、薄紫の夕やみにきく
氷もつ乙女の白きエプロンの、その白色の涼しかりけり
氷盛るガラスの皿にうつるかな、庭の緑の青き葉かげの

＊　＊　＊　＊

風鈴はちりん〳〵となきました　氷がほしいとなきました
風鈴はちりん〳〵となきました　行水したいとなきました
風鈴はちりん〳〵となきました　お月さま見えぬとなきました

＊　＊　＊　＊

緑葉の香りかすかな夏の午後
風鈴は暑いま夏に物思ひ
皮ざぶとんひや〳〵する夏坐敷

俳句といふものは、十七文字の短歌であるときいたので初めて作つてみたと前置して發表してゐる。

次にあげたのは、國語指導案として作製したものではない。

熊本縣立第一高等女學校の、大正十二年度の入學試驗問題で、妹尾良彦氏の立案したものである。入學試驗問題の目的は、文章の讀解力の檢定にあるが、指導案の目的は、讀解力の養成に在る。讀解力の檢定は、文章にブツつかつて、讀解力を活用（はたら）かせることによつて測定し得るのであるから、最も合理的方法を以て、活用（はたら）かした讀解力でなければ、其の眞價を測ることは出來ない。

而して讀解力の養成は、既得の讀解力を活用かすことに依つてなし得るのである。故に、既得の讀解力を合理的に活用かすことに依つて、眞の讀書力を養成し得るのである。斯のやうに考へて

見ると、入學試驗問題と學習指導案は、目的を異にして居るから、一見關係の薄いものゝやうに見えるが、其の根本に於て一致する點があるから、お互に參考となるものである。

なほ姉尾良彦著『入學試驗準備新國語の學習』を一讀せられたい。

○國語入學試驗問題　大正十二年三月　（妹尾立案）

（第一日國語）問題甲）

コロンブス

西暦一千四百九十二年八月三日の朝、今日はコロンブスが遠征隊出發の日なりとて、西班牙パロスの港は未明より人の山を築けり。熱湯の海ありと語る者、舟を呑む海獸ありと談ずる者、乘組員の運命をあはれむ者、コロンブスの暴擧をあざける者、口々に語り合へり。遠征の船は三人の小艦にして、乘組總數は一百二十人。船の次第に朝霧の中にかくれ行くを見て、數萬の見送隻は再び此の船を見ること能はざるべしと語れり。

パロスをシュツパンして七日目に亞米利加の北西岸に近きカナリヤ島に着し、こゝにて船體にシウゼンを加へ、九月六日更に西へ向つて航行せり。是より先はまだ航行せしことなき大洋なれ

ば、乘組の人々も次第に不安の念を生ぜり。かくて日數は重れども陸地の片影だにみとめ難く、朝の風を聞きては鳥の聲かと疑ひ、夕の雲を見ては陸の影かと疑へるも幾度なるを知らず。船員はシツバウの餘り、コロンブスを海に投じて歸國せんと謀るに至れり。コロンブスは獨り堅固なる決心を以て動かざること山の如く、船員もその勇氣に感じて命令に服せざるを得ざりき。

十月十一日河中に生ずる水草ナガれヨり、又果實の附きたる枝の波のまに〳〵浮べるを見たり。人々始めて陸地の近きを知り、其の夜は一同うれしさに眠ること能はず。十時頃はるかに一點の燈火をみとめしが、朝の二時頃「陸」「陸」「陸」と呼ぶ者あり。「何處ぞ」「すぐ其處に」といふ聲かまびすしく、先頭の一艦が發せる號砲に人々喜びて手の舞ひ足のふむ所を知らず。

明け行くまゝに見渡せば前面の一島、草木青々として花開き鳥さへづり、土人は驚きて、此の新來の客を眺めて立てり。船員皆歡喜してコロンブスの身邊を圍み爭ひてこれまでの不從順なりしツミをシヤせり。

（問題　甲）

「コロンブス」の文を讀んで次の問に答へよ。

點

(一) 未明より人の山を築けり のわけを書け。 5

(二) 見送人は何故に、再び此の船を見る能はざるべし と語つたか。 5

(三) 朝の風を何故に、鳥の聲か と疑つたか。 5

(四) 乘組員は何故に、コロンブスを海に投ぜん と謀つたか。 5

(五) コロンブスのえらい所は文中どこにあらはれて居るか。 10

(六) 次の表に月日及び日數を書き入れよ。(日數は略數でよろしい)。 10

年　月　日　パロス港發

月　日　カナリヤ島着　航海日數　日間

月　日　同　發　滯在日數　日間

月　日　陸地發見　航海日數　日間

(七) かりにコロンブスになつて陸地發見の時の心持を詳しく書いて見よ。 15

(八) 次を口語でわかり易く云ひかへよ。 10

1 次第に不安の念を生ぜり。

2 命令に服せざるを得ざりき。

3 手の舞ひ足のふむ所を知らず。

(九) 文中の次の語はどんな漢字か。

1 シュツバン　2 シウゼン

3 シツバウ　4 ナガれョる

5 ツミをシヤせり

(問題 乙) 上のうたを讀んで下の問に答へよ。

可愛いお下げの頭
靜かにうつむいて

(問一)全體は何を歌つたのか。 10

總計　日間　點

右の方にかたむいた、
左の方にかたむいた、
靜かな時
ひようきんな聲が
隣の子供ともめ合つて
「先生」
と呼んで立つ。
くす〳〵笑ふ聲。
ひとしきり曇をする音
そして又
うつむいた頭が
右……
左……

（問二）頭が左右するのは何のためか。

（問三）「先生」と呼んで立つのは誰か、何の爲にか。

（問四）くす〳〵笑ふのは誰か。

（第二日國語問題甲）次の文を讀んで後の問に答へよ。

三朝ばかり霜がつゞきました。今朝も前の板橋を白くして、井戸からも白い湯氣（　　）のあがるのが見えます。山も林も小川の水もこれからはまだ痩せるのみでございます。背戸（　　）の桐の葉は落ちつくして、槻の葉が昨日今日雨とみだれて居ります。腕程あつた里芋の莖もぐつたりと垂れて、畠のへりに植ゑられた豆菊ばかりが、今を盛りと榮えて居ます。朝日がパッとさして田圃（　　）の霜をてらしますと、あたりは薄靄（　　）につゝまれて、朝飯炊く（　　）煙が低く地をはつて見えます。學校ではそろ〳〵例の南の窓下がにぎはひませう。今夜にも木枯（　　）が大地をゆすつて冬の領にしてしまふかも知れませぬ。

（問）

（一）文中〜〜〜線の字の讀方を（　　）中に書け。若し知らずばどんな意味にとればよいかを書け。

（二）山や林が痩せる　とはどんな事をいふのか。

（三）雨とみだれる　何がどんなにして居ることか。

5　5　10　點

（四）腕程あつた　どんな意か、そしてこゝでは何をさして居るか。　5

（五）何故に南の窓下がにぎはふのか。　5

（六）冬の領にするとはどんな事か。　5

（七）作者の見て居る景色を略畫であらはせ。（略圖にして井戸、豆菊その他すべての物の位置を文字で示してもよろしい）　20

（八）自分の最も感じた所を詩か歌か俳句のやうなものに作りかへて見よ。　15

（九）次の二語、本文中に使つてあるやうな用ひ方で短話各一つづゝを作れ。　10

1　今を盛り。

2　例の。

（第二日國語問題乙）

次の文を讀んで後の問に答へよ。

主婦は老人にいたはりかしづく外、幼兒を育て上ぐる大任あり。男子は外に出でて不在勝のものなれば、幼兒は母の感化を受くること最も多し。『その母によりてその子を察せよ』と云へるが如く子供の行儀作法等につきては主婦たる人の責任最も重し。

（問一）つゞめればどんな事になるか。　10

（問二）『その母によつてその子を察せよ』例へばどんな事か。　10

作文科

（題）「××の問題」

（説明）一昨日から昨日にかけての試驗問題について思出すこと何でも書いてほしいのです。×の所には『讀方』とか『地理』とか自分の書きたい學科を入れなさい。そして幾題でも書けるだけお書きなさい。一科だけに限りません。

五　歴史指導案について

ダルトン式學習に於ける指導案の目的は、（一）一箇月に仕上げる學習の範圍を示すこと。（二）學習に必要な參考書を示すことである。一寸考へると題目や、要項や、參考書名や、問題を書きつらねたやうな無趣味な指導案は、生徒の學習興味を殺しはすまいかと懸念されるが、實施の經驗は、そのやうな心配は、杞憂に過ぎないことを教へてくれた。却て之れあるがために、學習の指針を得て、自らの努力によつて、學習し得たことに無

上の喜びを感じ、讀書の趣味を覺え、熱心に學習する傾向に導く。ただ一つ注意すべきことは、今までのやうに、教師が生徒に直接する機會は少くなるから、努めて個人的に、小團的に接觸し、指導を多くするやうに心がけねばならぬことである。

ダルトン式で歴史を學習するには、他の學科よりも特に圖書室の完備をはからねばならぬ。貧弱な圖書室では、此の科の學習は殊に困難である。それで、此の學習を採用しようとしても、圖書費の一件で、頓挫を來したり、お流れになつたりすることが多い。誠に惜しいことである。思ふに、從來は生徒一人について、一冊あての教科書を備へたものであるが、此の式の學習に依ると、生徒數の約三分の一の冊數を用意しておけばよい。殘りの三分の二の代金で、他の種類の參考書を買へば、そんなに費用をかけずに、一通りの設備は出來る。西洋では、小學校は勿論、中等學校でも、教科書は大抵學校で買つて、生徒に使用させて居る。我が國でも、教科書はすべて學校に備へることにしたい。學校に圖書費が十分でなければ、生徒から教科書代を納めさせる。そして教科書代の餘りで、參考書を買へばよい。何れも生徒が使用するのであるから、教科書代を納めさせることは、不合理でないと思ふ。圖書館が普及して居る土地では、圖書館と連絡をとり、學習參考書を買つて貰つて、學校で利用するやうにする。

指導案を立てるに當つて、注意することは、（1）一ケ年の學習細目を編製すること。（2）一ケ年を九つに區分すること。（3）一ケ月を單位として指導案を書き、學習の範圍と、一週間の仕事の分量を、明示すること。（4）能力の違つた生徒に適當するやうに、學習事項に、等級を附すること。

（一）一ケ年の課程の概要。　此の式の學習では、學習要項の選擇と、學習日數の配當は、生徒の能力に適應するやうに、特に注意せねばならぬ。此の意味に於て、參考書の選定は、非常に大切な役割を持つことになる。學習要項の選定が不適當であると、指導教授は全く生徒の質問で潰れてしまひ、個人又は小團指導は、繰り返し繰り返し同一質問に答へることになり、教師は根幹の指導よりも、枝葉のことに多大の勞力を徒費することゝなる。

（二）一ケ年の課程の區分。　一ケ年を九つに分けて、一學期に三つの指導案を書くことは、前にも述べて置いたが、一ケ年は九ケ月よりも多いときは、三つ以上書かねばならぬことはいふまでもない。學年始めの指導案には、一ケ年にどんなことを學習するのかの、大體を示す方がよい。

到達點を知らずに、旅行をするやうなやり方は、自學自習の禁物である。さればといつて、道々にある詳しいことを、くだくだしく詳說する必要はない。そんなことは、學習の進行と共にわかつてくる。學習事項の程度と分量は、其の科に配當せられて居る時間と、生徒の年齡能力によつて適當に定める。

（三）一ヶ月の課程の大要と區分。　低學年の生徒は、月指導案を見て、其の月に學習する材料の大要を攝むことが、困難であると思はれるなら、指導案の初めに、其の大要を略示しておく。次に一ヶ月の學習要項を週に配當する。之れは、生徒が自由學習時間割を立てたり、學習の進度を按排する便に供するのである。例へば、自由學習は、毎週四十分宛二回、一ヶ月合計八回とすれば、生徒は指導案に示された二週分を第一週に、殘りの二週分を第三週に學習することもあり、又第三週に四週分を仕上げるやうに、學習時間割を定める者もあらう。大した無理さへなければ何週に何科の學習を配當しても、それは生徒各自の自由に任しておく。要は、月末までに仕上げ得ればよいのである。

（四）指導案に示す重な仕事。　（1）讀む事　は學習中の重な仕事である。讀むといふ事の

うちに普通教科書と、或る選定した題材についての物語と、傳記が含まれて居る。其の他色々の參考書も含まれて居る。（2）記憶する事　學習事項の一部を、又時としては梗概を記憶せしめることは普通である。（3）記述する事　高學年の生徒は、學習したことに關係して、意見を述べたり因果關係を解剖させたり、比較評論させたり、性格概寫をさせたり、又劇に仕組んだり、想像的會話體に書かせたりさせる。固より以上に示したことは、いつでもやらせるといふ固定性を帶びたものではない。

參考書の示し方は、學年に依つて同一でない。概して低學年には、なるべく參考書の數を少くし、參考する箇處を明示する。參考書を多くすると、思想が纏まりにくい。箇處を明示しないと、あまり必要でもないところを能く讀んで、必要なところを疎かにする憂がある。高學年になると、參考書名だけを示すことあり、又適當な參考書を見つけさすこともある。自分で參考書の見當をつけて、自分で目次を調べて、自分の要求してゐる點を見つけることは、自學自習に大切な修練である。

六　歷史指導案例集

○歴史指導案例　自十月十四日　至十一月十八日　一九二一年

(注)歐洲及び英國に於ける、文藝復興と改革を取扱つたものである。生徒は約十二歳の女兒で、歴史は、一回四十分、毎週六回、約六ケ月間學習したのである。地理は、本學年度は學習せずに、來年度にまわしてある。

第一週

(一)　參考書について學習

1　ヘンリー八世と大宰相ウルジーを調べよ。

參考書は、「新自由」三二—三四頁、三七—四五頁。トムソンの初等英國史第四編、ブラウマンの第七卷第三章。(以上は低程度)

中及高……「チューードル時代」　二五—三六頁、八〇—九〇頁。

高……「ヘンリー七世からエリザベスまで」　一三—二九頁。

2　地理的發見と征服を調べよ。

(一)葡萄牙。(二)西班牙(コロンブスを含む)。(三)英國海員—カボット、ドレーク、ホ

ーキンス、ラレー等。參考書はマイヤーの中世及近世史二七五—二八九頁。「新自由」の二三—三二頁、一〇一—一〇七頁、一一三—一二〇頁。「歴史入門」の第五卷第二十一章、二十二章。同第四卷第一・二・三・四・六章。(以上は低程度)

中及高……「チューードル時代」の一四〇—一六七頁、一九四—二〇二頁。

高……「ヘンリー七世からエリザベスまで」　一六〇—一八七頁。

高……ブレスコットの「モンテツマ」の數章。

中及高……「著名の人々」の一二八—一三九頁。

中及高……「名高い英國人」一六九—一九三頁。

第二週

(一)　世界地圖を畫き、色別けに依つて、第十五・六世紀間に於ける、葡・西・英が發見し植民した地名と、發見日時を示せ。

(二)　ウルジーの功績の大要を記述し、次のことを明かにせよ。(1)何ぜ歐洲の事件に手を出したか。(2)ヘンリー八世のために、どんなことをしたか。(3)新文藝に對して、どんなこと

とをしたか。(4)何うして勢力を失墜したか。

(三) ヘンリー八世のことを、一名『萬能王』といふわけを說明せよ。

(第三・四週は略す)

○歷史指導案例　第五年下級、　十五歲兒、　第四月

(一) 題　目

1　亞米利加植民地の叛亂(一七六四―一七八三年)

2　英國の印度支配(一七七三―一七八五年)

(二) 亞米利加植民地の叛亂(一七六四―一七八三年)

1　一七六四年に於ける、亞米利加十三州の位置と領域を示す地圖を畫け。そして、出來るだけ詳しく次の特質を研究せよ。

(一)宗教。　(二)植民者の生業を、南部、中央、北部の地理的位置にわけて研究せよ。

2　植民地と母國の關係を、特に『舊植民地制度』又は『重商制度』の立場から研究せよ。母國が植民地に對する、權力や態度に注意せよ。舊植民地制度は、植民地住民をして、叛族

を翻へし獨立を企てずには、居れない性質のものであつたか。

3　一七六四―一七七六年の叛亂の直接原因及び根本原因を述べよ。

當時に於ける、英本國と植民地の關係に注意して調べて見よ。

(一) 特に課稅に關して植民地が本國に對して懷いてゐた憤怒の原因を分析せよ。

(二) 植民地間の結合に注意せよ。

(三) 本國に於ける黨派の分裂に注意せよ。特にピットとバークの態度に。

(四) 一七七六年の獨立宣言が、植民地及び本國に及ぼした影響に注意せよ。

4　一七七六―一七八〇年の叛亂の原因。

(一) 軍事行動の大體を研究して、植民地征服の困難に注意せよ。

(二) 英國にとつては、海上優越權の大切なことを研究せよ。海上優越權の消失は植民地を失ふことに、どれ位影響したか。

(三) 植民地に好意を有する佛國干涉は、時局に重大な關係を持つて居たことに注意せよ。

5　叛亂の結果。　一七八三年のヴエルサイユ條約。

（一）　英國が、亞米利加合衆國の獨立を餘儀なく承認したことに注意せよ。

英國の第一植民帝國（アメリカ合衆國）の目的。植民地の消失は英本國に如何なる損失を及ぼしたか。

叛亂を研究するとき、植民地軍の首要人物である、ジョージ・ワシントンやベンジヤミン・フランクリンに注意せよ。諸々が合衆國の忠臣であつたか。

參考書

（一）「ワーナー內びワルテン」の第二編　（二）「近世の世界」

（三）「ブラウマン」の第七編　（四）ウィリアムの「英帝國」（最もよろし）

（五）マツキーの「大英國物語」　（六）ヘンダーソンの「英國と政治史」

更に程度の高い參考書を讀まうとする者には

（一）シーレーの「英國膨脹史」　（二）ハリソンの「チヤタム」（英國政治家叢書）

（三）アンドルーの「植民時代」　（四）エガートンの「英國の起源と生長」

（五）一七一五—一八一五年の公文書

歷史指導案例　第五年級

第一週

先月學んだことは、希臘人は波斯亞人と戰つて、希臘から波斯亞人を驅逐したことであつた。皆さんはマラソンの戰や、サラミスの海戰のことを記憶して居るでせう。波斯亞戰爭が終り、波斯亞人は希臘人に勝つ見込がないと諦めたとき、希臘人は軍をおさめて凱旋した。皆さんが知つて居る通り、サラミス海戰の少し前に、アテネの町はペルシヤ人に燒き拂はれて仕舞つたので、凱旋したアテネ人は、再び市街を建て直さねばならなかつた。

スパルタ人は、アテネ人を嫉んでゐたので、アテネ人が市街を建て直すことを色々と妨げた。スパルタ人の常に懸念して居るのは、アテネ人は、希臘中で、一番有力な地位を占めはすまいかといふことである。然るにアテネ人は、着々と市街再興に成功した。スパルタ人の嫉妬は、終に兩國の平和を破り、長い殘忍な戰爭が續いた。今週は、此のことについて學ぶのである。『希臘物

語』の中にある『ペロポンネサス戰の開始』を讀め。此の戰爭は、スパルタ人の住んで居るペロポンネサスで行はれたから、此の名がついたのである。讀んで仕舞つたら次の問に答へよ。

1　ペロポンネサス戰で戰つた人達は誰か。

2　兩國が戰つた原因は。

3　ペリクリーズは、日蝕をどのやうに說明したか。（以上は二日分の仕事）

アテネの總大將ペリクリーズの死を讀んで仕舞つたら、次の問に答へよ。

1　ペリクリーズの死の原因。

2　ペリクリーズが、アテネ市に盡した事績について、何といはれたか。（以上は一日分の仕事）

今週中に讀む第三番目の書は、『伊太利に於ける希臘植民地』である。伊太利とシシリー島に、希臘の植民地があつた。書物の目次を見れば、ページがわかり、卷頭の地圖を見れば、位置がわかる。アテネ人は、一大遠征を試みて、シシリーの都邑を攻擊したことや、植民地の市民たちは、榮譽榮華に耽つて居たことを研究するのは、誠に興味のあることである。

次の問に答へなさい。

1　植民地の市民は、榮華愛好者であつたことを示す事例を述べよ。

2　アテネ艦隊の總指揮者は誰であつたか。

3　アルシバイオーディーズは、なぜ訴へられたか。（以上は一日分の課業）

（第二週以下は省略）

○歷史指導案例

此の月は、昔から今までの大天文家の事績を調べることによつて、天文學の歷史を研究して見よう。天文學は、恐らく最も古い科學で、他の科學の名が、まだ此の世にあらはれもしない昔に天文學といふ名だけは、早くから人に知られて居た。希臘の哲學者達も、天文學を學んで居た。

ノートの一頁を、一人の天文學者にあてゝ、名と、生存期間と、天文學界に貢獻した功績を記入せよ。斯のやうにして、希臘時代から始めて、現代に及べ。參考書は、『大天文家物語』。先づ目次を見て、それから本文を讀め。二人の天文學者を調べて、ノートに記入するのを一日分の仕事とせよ。最初の一人を調べて、其の下書が出來たら、私に見せて後、ノートに書きなさい。ノ

ートは出來るだけ奇麗に書いて、後から參照し易いやうにして置きたい。各天文家が發見したことを、一覽表なり、繪畫なりに、表はすやうに工夫して見よ。

○西洋歴史指導案例（自一月八日（月曜）至一月廿九日（月曜））　第三學年　（兼清立案）

一題目　西洋文明の淵源。（＊印のあるものは時間が餘つたら調べて見よ）

第一週

1 エジプト文明

a 何故エジプトは早く開けたのだらう　（國民西洋歴史）（自五頁至七頁）

b どんな文明を有つてゐたか

c ピラミッドとスフィンクスの繪を見よ（標本室）

2 バビロニヤ文明とエジプト文明の異同　（國、歴八頁）

a その發達の徑路に於て

b その種類に於て

3 ヘブライ人は如何なる宗教を有つて居たか（國、歴九頁　西洋通史上自二七頁至三二頁）

第二週

＊1 「西洋歴史講話上」三二頁「第五節イスラエル民族」の章を全部讀め。

＊2 「通俗世界全史」第一卷一頁より十頁に至る創世紀を讀め。

4 希臘民族の勃興

a ギリシア人が植民を盛にしたのは何故か

（國土。民族性。植民地。それは今から何年位前のことか。）

（イリヤッド、オディッセーの大要を讀め。）

（中等西洋歴史（村川堅固）自一〇頁至一二頁）（國、歴自一六頁至一八頁）

b スパルタの教育はどうだつたか　（國、歴自二一頁至二三頁）

c アレクサンドル大王東征の記事を讀め　（國、歴自五三頁至六一頁）

＊1 ギリシヤ及び附近の略圖を描き植民地の印をせよ。

＊2 「アテネの民主政治」（國、歴二三頁）を讀んで大要を書け。

5 アレクサンドル大王東征の結果は如何なる影響を齎したか　（國、歴自六二頁至六三頁）

6 ギリシヤの文化

a　文學と美術（その特徴及主なる文學、美術家）（國、歴自三八頁至四一頁）
（壁に貼付せる繪畫を見よ）
b　宗教（オリムピヤ大會の記事を讀め）　（國、歴自一八頁至二〇頁）

＊1　「國民西洋歴史」（自四二頁至四四頁）の史學と哲學を讀んで主なる哲學者をあげ。
＊2　希臘神話を讀め。

○常に地圖と年表を參照することを忘れるな。

七　地理指導案について

ダルトン式學習に關する過去一ケ年以上の經驗に依れば、良好な指導案は、此の學習を成功せしめる鍵であることを確めた。生徒は指導案を唯一の羅針盤として、地理學海を探檢するのである。必要に迫られて、參考書や地圖や標本を調べ、自力で彼岸に到達しようと努力して居る。教師は、生徒が自力でなし得ることを教へもせねば、生徒も亦教へられることを欲しもしない。

指導案を作製する上に、注意すべきことは三つある。（一）生徒は正科時間外に、學校及び家庭

に於て、地理學習のために、幾何の時間を割き得るかといふことを、正確に心得て居らねばならぬ。地圖や圖表等の作業を有する學科は、ともすると、生徒に過大の要求をなし勝ちのものであつて、其のために、基礎的修練に不足を來すことがある。（二）指導案は、極めて明確であつて、生徒は、學習の範圍と要項を、確實に知り得るものであらねばならぬ。生徒は、地理は讀んで記憶さへして居れば、事足るといふやうな、誤つた先入觀念を持つて居るから、指導案に於て、記憶の外に、調べること、統計すべきこと、畫くべきことなど、種々の方面のあることを悟らせるやうに注意する。（三）地理的理法のあることを知らせ、なるべく、此の理法に依つて、學習したことを組織統一して、斷片的知識に流れぬやうに注意する。

圖書室には、なるべく多種多樣の參考書を數多く備へて、學習に不足のないやうにして置く。

從來は、生徒に、教科書を一部あて持たせて、教師は參考書を調べてきて、得意に講演したものであるが、ダルトン式では、教師の調べた參考書のうち、生徒が自分で調べ得るものは、なるべく生徒に調べさせ、生徒の力に餘るものだけを、教師が調べて、指導するといふやり方である。

參考書は固より必要であるが、圖書室の書架の大部分を占めて居るものは、矢張教科書であつて、

教科書を本位にして參考書を設備する。參考書の大部分を占めて居るものは、旅行記、探檢記、叙述地理、各國民の生活狀態、人文地理、商業地理、地方誌、地名辭典、統計年鑑、正確な地圖、鐵道案內及び時間表、新聞雜誌等である。

一ケ年を三學期にわかち、一學期に三つの指導案を書く。一つの指導案は、大體一ケ月分にあたるが、各學期に長短があるので、一つの指導案に配當する日數は、必ずしも一定して居ない。日數を單位にして、指導案を書くといふよりも、寧ろ指導案を單位として、日數を割り當てるといふやうな場合もある。

學科の程度も高中低の三つに分けて、生徒各自の力に相當する程度をやらせることは、他の學科と同じである。指導教授も、高中低にわけてする。低だけした者には、中高の指導教授を傍聽させてもよい。十二歳から十七歳までの生徒を持つて居る學校であるから、指導案の形式も、從つて異つてくるのが普通であるが、三つの重要な學習事項は共通である。　(一)教科書の調査研究　(二)描圖及び記述作業　(三)復習。

低學年(十二—十四歳)には、『何書の何頁の何行から何頁何行まで』といふやうに、詳しく參考

書を示して、參考すべき部分を見つけるために、時間を空費せしめないやうに注意する。次に學習事項の輕重を示して、比較的重要でないものに、多大の勞力をかけぬやうに注意する。高學年(十五—十七歳)には、上述のやうなことは、なるべく生徒自身の考へに任しておく。此のやうなことは、此のやうな書物を見ればよからうといふ見當をつけ、參考すべき章節は、目次によつて見つけてゆくといふことは、自學上大切なことである。何時までも獨り立ちをさせないやうな指導は、極力避けねばならぬ。

ノートに書いたり、描いたりすると、仕事の結果は、直に目に見えるから、十分に調べもせずに、又調べたことを纒めもせずに、競うて澤山書きたがる傾きがある。澤山書いて居ないと、人に劣つて居るやうな氣がすると見える。之れが、參考書の引き寫しをすることにもなるのである。指導案を立てる時には、この弊に陷ゐらせぬやうに、十分注意を拂はねばならぬ。又個人指導や、小團指導や、指導教授のときも、徒に分量を澤山書いても、無益であることを感ぜしめねばならぬ。口でいふだけでは駄目である。なるほどと、現實に痛感せしめる工夫をせねばならぬ。そして書く前に、能く調べて、纒めて、間違ひないといふ自信のある結果を書かないと、結局何の役にも

立たぬといふことを自識せしめ、之れが實行に努力させるやうに導かねばならぬ。記述すべき種類と、其のあらはし方は、學年と材料の如何によつて同じではないが、なるべく變化があつて、しかも有効な方法を採り、愉快に記述し得るやうに注意する。記述は、學習した事項を整理統一するに必要な作業であつて、又高學年にとつては、論文作製の材料ともなるものであるから、之れ等の目的に添ふやうに、書くべき事と、其の書きあらはし方に、工夫を凝らさせることが大切である。作業としては、地圖・圖表等は觀察を緻密にし、思考を正確ならしめるに大切なものである。

生徒各自には、必ず地圖を持たせておく。そして、指導教授のときも、自由學習のときも、常に携帶せしめる。携帶地圖の外に、教授用大地圖、略地圖、雨量と植物分布地圖、人口地圖などを備へて地圖を讀む練習の助けとする。地理を學習するときは、常に地圖を離さぬやうに指導奬勵し、指導案には、時々描圖練習を課する。地圖は、主として自然地理を讀む上に大切であつて、統計は主として人文地理を讀む上に大切であることを忘れず、一方に偏しないやうに注意する。

大抵の生徒は、學習したことを、地圖や圖表の形で、書きあらはすことを、非常に喜ぶものである。

自由學習は、此のやうな書きあらはし方を工夫するに都合がよい。指導案には、時々學習の結果の表現法について、參考資料を指摘する。生徒は指摘された參考資料を調べて、それに啓發せられて書き表はし方を工夫する。材料の性質により、教師の指導を受けた後に、書きあらはしてよいものは、其のことを指導案に書いておく。

指導案の一部を割いて練習問題に當て、學習したことを整理復習せしめる。又學期末の指導案には、其の學期間に學習した要領を、整理復習し得るやうな問題を附け加へる。學期の最初の指導案には、前學期との連絡を失はぬやうに注意する。練習問題の選び方は、何頁から何頁までを復習せよとか、之れ〳〵の題目について調べよ、といつたやうな單調な書きあらはし方は、なるべく避ける。程度の違つた問題を選んで、能力の異つて居る生徒に適するやうに注意する。解答の仕方も、地圖・圖表・概括表・文章等色々の仕方であらはすやうに工夫する。優秀生に、特に復習させる必要がないと認めたときは、此の時間を彼等の隨意に任させてよい。

指導案にも、指導教授にも何等かの形で、學習の考査をするやうに工夫する。考査は、其の月或は其の學期に學習したことについて、適切な問題を選んで行ふ。適切な問題とは、此の式の學

習精神に一致して居る問題といふ意味である。從來のやうな、單に學習した實質的結果の考査に偏した問題でなく、學習の過程をも檢し得るやうな問題を選ぶのである。換言すれば、如何に多くを知つて居るかを檢べ得ると共に、如何に多くを知り得るかを檢べ得る問題も選ぶのである。學習を適當に檢査することが出來れば、學習の改良進歩をはかる上に、有益な資料を得るのであるが、不適當な考査法を以て檢定した結果で、學習の良否を云々するのは、不正な尺で測定されるやうなもので、たまつたものではない。

低學年の指導には、要項を週に配當しておく。かうしておくと、生徒は、毎日毎週の進程がよくわかるので、仕事の分量を定めてゆく上に都合がよい。次に注意すべきことは、調べることゝ書くことの關係である。低學年では、書くことは、なるべく調べたことの要點を、整理復習するやうな問題を出し、高學年は應用問題に重きをおく。指導案に使用する文字語句は、平易で意味の明確なものを選び、謄寫版の文字は、ハツキリして居ないと、判讀するために心勞し、學習の進行を妨げる。特に重要な事項は、『注意して……せよ』と書いて置けば、大抵の場合は結果がよい。新しい指導案を渡したときは、學級全體で讀んで見る方がよい。生徒は時々教師の要求して

居ることゝは、全く違つた方面を考へて居るものであるから、要所々々をきいて見てもよい。新しい參考書を示したときは、解題するのもよい。指導案に對する生徒の疑問も、解決しておく。斯うして指導案に一點の疑もないやうにしてから、學習にとりかゝらせる。

八　地理指導案例集

○地理指導案例　第五年下級

拾五歳女生徒—英國本島を一箇年で學習する其の一部。

一　題　目　北部イングランドと南部スコットランド。

1　次の書物を讀め

(一)　モーレー・デヴィス著　一八三—二二七頁

(二)　ハーバートソン著の初等の巻　六三—七三頁

(三)　ハーバートソン著の高等の巻　一二八—一三二頁

(四)　人間と其の市場　一一九—一二一頁、一三四—一三五頁、一三九—一四三頁

一四六―一四八頁

(五) 圖書室にある旅行案内、及旅行記

2 北部イングランドの研究

(一) 地　勢 (山脈、平野、重要な入江二つ) (イ)湖水地域。(ロ)ヨークシーヤ沼澤地。(ハ)深山地域の記事を讀め。

(二) 炭礦と工業 工業は或地方に限られて居る理由如何。

(三) 農業地域 ペニン山脈の東部及び西部(ヨーク及びホルダネス谷、ビツカーリング谷)。丘陵に於ける牧羊。

(四) 都會地 マンチエスター。ニューカツスル。ヨーク。カーライル。リヴアプール。ハル。

(五) 交　通 ロンドン北西線。東海岸線。中央線。横斷線。

3 スコツトランド 三大地形に注意せよ。詳細に南部高地を研究せよ。

南部高地

(一) 地　勢 (歴史的由緒に注意せよ)。チエヴイ・チエース(オツターバーン戰を歌つた俗謠)。

(二) 生業と工業 (高地・平地・谷間に於ける)。

(三) 交　通 三大幹線(カーライルからスコツトランドに至る)及び海岸平地・河流谿谷の交通價値。東海岸線の價値に注意せよ。

4 ノートに書くべきこと

(一) ペニン山脈の構成を示す斷面圖。

(二) カーライル、ヨーク、ニューカツスル、リヴアプール及びハルの位置の重要なことを示す略圖。

各都布について重要なことをまとめよ。

(三) 北部イングランドで、一番好きな土地の景色を叙述せよ。

(四) 炭礦地、工業地、原料生産地、集散都市及び輸出港について、學習したことを表にせよ。

（五）フオース灣とクライド河口を結びつけた地點から、北緯五十三度までの地圖を描き、重な鐵道幹線を記入せよ。

（六）次のものにつき、知つて居ることを略記せよ。

ストランラー。アボツツフオード。ガラシールス。ホーキツク。

中程度……纖維植物の棉、大麻、黃麻、絹絲を研究せよ。

衣服材料として大切な動物である、羊、山羊、淡褐色ラマ、ラマ、アルパカについて研究せよ。

高程度……棉、羊毛、鐵工業について更に深く研究せよ。

（中及び高の程度に取りかゝる者は、前以て教師に相談せよ）

○地理指導案例　第三年級

一　參考書

1　南西亞細亞のモンスーン雨季。

2　印度の生活。

3　……其の他の印度、印度支那、東印度。

第一週

A　雨季。其の原因と雨量。

「舊世界」第六章を讀め、次の問に答へよ。

1　南西亞細亞で、冬季一番寒い地方は何處か。冬季に吹く風の方向は？　其の風は乾燥・濕潤の何れか。レー著二五頁にある亞細亞地圖に、十二月の降雨狀況を示せ。二〇頁にある地圖を見て風の方向を記入せよ。

2　何ぜ中央亞細亞は、夏季になると、暑熱が劇烈堪え難いやうになるのか。何ぜ風は海から陸に向つて吹くのか。其の風が、何故に雨をもたらすのか。レー著二五頁にある亞細亞地圖に、七月の雨と風を記入せよ。（二一頁參照）

3　モンスーン風とは、何んな風か（六九頁參照）。降雨の原因は？（六九頁、七〇頁參照）。

4　雨量の測定、圖表をひけ、雨量計の各部分をあらはせ。

某場處に於ける一箇年の雨量は何うして測定するか。

印度の降雨……土地の高さと雨量の關係に注意せよ。略圖を畫いて、夏と冬に於ける風の方向を記入せよ。

第二週

B　印度の北部及び西部の山地。

1　土地の高さが、氣候と住民の生活に及ぼす影響。地圖について、ベルチスタン、アフガニスタン、パミール、カシミル、タリナベースン、チベットを見つけよ。

以上の各地の位置、氣候及び住民について概括的記述をなせ。

2　ガンヂス平野　氣候と產物と住民の生活を研究せよ。

重な都會名を記憶せよ。耕作培養されて居る重なものを研究せよ。特に次のものに注意せよ。……デルハイ、ラクノー、コーボア、アグラ、アラハバット、ベナレス、パトナ、カルカツタ。以上の中から二・三を選んで學習したことを圖表にあらはせ。

3　インダス平野　氣候を調べよ。灌漑に注意せよ。カラチ湖ペショワ湖の位置を調べよ。

パンヂャブの生產物を概括せよ。

（以下第三週第四週は同形式につき省略）

○地理指導案例　第三年級

高……高程度　中……中程度　低……低程度

題目	蒼世界（高・中・低）	レーノルド著（高・中・低）	パーキンソン著（高・中・低）	ラムブラー著（高・中）	記述地理學（高・中）	人間の家庭（高）
亞細亞の降雨	第四章	三〇—三四頁				
印度の氣候	九二—九三	九八	二〇七—二一一			
北印度の山地			八三—九八 二三五—二三四	三〇—三四	一二三—一三〇	
ガンヂスの雨	九八—一〇〇	一〇一—一〇四	二〇三	三七—三八 四二—四四		
インダス平野		九九—一〇一	二二四 二二四—二二七	四六	一二五—一八九	六〇—七二
デツカン	一〇〇	一〇四—一〇八	一九一—一九七	四八—四九		
セイロン	一〇一	一〇八—一一一	二二八—二四二	五一		
ブルマ・印度支那		一一二—一一五	一六〇—一七〇	五三—六二	一八九—二三〇	一二六—一三五
マレー半島						
東印度		一二八—一三一	一五一—一五九		一八九—二三〇	一五一—一六一

補充書（高程度に限る）

1　世界各地覗き（印度の部）、

2　マツキンダー著印度……印度教（六一—一一）、佛教（二一—三六）、カルカツタ（三六—四六）ベナレス（五一—六一）、ボムベー（六八）、

3　バーキンソン著・我が印度帝國（一七一）、印度旅行（一八五）、美しい建築（二一五）、印度の住民（二四三）、

練習題　（低は一問、中は二問、高は三問とも答へる）

1　中央亞細亞は人口稀薄であるが、ガンヂス平野は稠密である理由（高）。

2　地圖を挿入して、印度の生産狀態を記述せよ（高・中）。

3　セイロン島の生産物について略述せよ（低）。

4　英國が南西印度及び印度を所領した經過と、それらの位置と重要なわけを、概括的に記述せよ。

○地理指導案例　第三年級　秋學期第二月　一九二一年

十一月十二日までに完結せよ。今月はアフリカの中で興味の多い、二つの土地について學習するのである。（1）埃及　（2）スーダン。

第一週　は十月二十二日始め

一　埃　及

二七—三二頁まで讀め。之れだけがよく分れば、約五分三の課業を成し終へたことになる。困難なのは、定期的永續性を持つて居る、洪水の理由である。能く考へて見て、何うしても分らねば、私のところへ來なさい。次の問のうち何れか一つに答へよ。

（一）ナイル河の船航は何ぜ困難ですか。

（二）ナイル河に洪水のある理由を詳しく述べよ。

ナイル河の講義がある。皆樣のわからぬ點の助けとなると思ふ。能く考へて分らぬ點を明かにしておきなさい。

第二週　十月二十九日始め　埃及の續き

三二—三七頁を讀め。今週調べる中で、最も興味深いものは、埃及の住民と、カイロー市とピ

ラミツドの三つである。アフリカとアビシニアに住む有角類を出來るだけ澤山調べて見よ。調べ方のわからぬ者は、私に相談に來なさい。

（一）ナイル河の地圖を畫き、會流する河と、大瀦と、沿岸の都邑を記入せよ。

（二）三八頁にある問題のうち、どれでも自分の好きなものに答へよ。

（第三・四週は省略）

○地理指導案例（小校學）

第一週

先月は歐洲中の高部地方を學習したが、今月は和蘭・白耳義のやうな低部地方を調べて見る。バーマー氏著、『歐羅巴洲』の九二頁にある海洋征服の章を讀め。そこには、和蘭が低い土地を安全に獲得するために、海と戰つたことが書いてある。次の章には、低い土地の獲得と、其の土地に施された仕事のことが載つて居る。八八―八九頁を讀んで、都會について興味ある事柄を調べて見よ。

之等のことは教科書にもあるから讀んで見よ。

第二週

今週は和蘭に關して、出來るだけ澤山の書物を讀んで、其の中から拔萃して、それを纏めて、ノートに書いて貰ひませう。

地理の作文として、『和蘭の風景』について綴つて見よ。

和蘭に關する必要な參考書は掲示板に書いてある。

第四週（第三週省略）

今週は地圖を描く練習をする。スカンヂナヴィアとネザーランドと佛蘭西と瑞西の輪廓圖を、同一の縮尺で描き、厚紙に張りつけて、別々に切り離せ。此のやうに切つた地圖を、くつゝけたり離したりして見ると、各國の外形や位置關係が直ぐのみ込める。前に指摘した參考書を續けて讀んで、歐洲西部地方の地理を拔き書きし、それをまとめて見よ。

○地理指導案例（自五月十四日至六月九日）第二學年（兼清立案）

（△印は餘裕者のみする）

（「五」まで出來たら、一旦ノートを提出せよ）

一　アジアの地勢

1　パミール高原はどんな所か(九九―一〇二頁)。

2　そこから派出して居る主なる山脈は何々か(特にその方向に注意せよ)。

3　アジアの水系はどうなつてゐるか。

△是等を地圖で現はして見よ。

二　黃河と揚子江を比較せよ(特にその人文との關係を考察すること)。(自一九頁至二一頁)今から約五千年も前に、漢民族が黃河流域に西方から移つて來て國を建て文明を築いたこと、そして漸次南方に發達していつたことを顧るとき、更に興味ある考が湧いて來るであらう。

黃土とは何か。

△古來支那に『南船北馬』といふ語がある。これから支那の地勢、氣候、交通、產業、文明の程度などを想像して見ると面白い。時間があつたら自分の考へをノートに書いて欲しい。

三　支那の氣候はどうか(二一頁の氣溫、雨量分布圖をよく注意せよ)。

季節風とは何だらう。　△我國の氣候と比較して見よ。

四　1　支那の住民は約三億三千萬あり(四億三千餘萬とする統計もある、調査が困難なのだ)其民族の主なるものは何々か。

2　人口の密度はどの邊が大であるか。その理由はどうか。(地圖をよく參照して都會の分布に注意せよ)。

3　支那の風俗は地方によつて異なるが大體のことは二七―二九頁を讀めば分る。

△支那國民性については『世界地理集成上卷』一二三―一二四頁にある。誰も研究する時間をもたない時は指導教授のとき私が說明する。

備考　支那人中海外在留者は約七百萬人ある。商業に從事する者も多いが所謂出稼である。その大部分はシャム、馬來諸島、印度、海峽殖民地に。アメリカには約三十萬(是等の地方を地圖で見出して置け)我國に在留する外國人中最も多きは支那人にして約二萬、支那に在留する外國人は約三十五萬にして、日本人はその半數に近し。

五　支那の教育と宗教について、二九頁を讀め。

（六　支那の産業（三一頁以後に書いてある。處誌の所も豫め讀んで置くと非常に都合がよい。）

第三週

I　農業

1　農業地は主として何處に在るか。

2　多く産する物は何々か、それは各々どの邊を主産地とするか。

3　茶と生絲の産額について我國と比較して見よ。

4　棉花はどの位産するか。

5　農産物は支那の需要を充すに足るであらうか。若し餘るとすればどこに何を出すか。不足ならばどこから何を輸入するか。

（農産物の統計は『國民年鑑』、二八四―二八七頁及、六〇四頁にある）

II　牧畜業　その主なる種類。外國に輸出する主なるもの。（統計が必要なら前のと同じところにある）。

III　鑛業

1　鑛産物の主なるものは何々か。その主産地はどこか。

第四週

2　我國に供給して居るものは何々か、それはどこからどこにもつて來るのか。

3　鑛物採掘は何故振はないのか。

△支那の鑛山事業には外國が非常に多く關係して居る。採掘權を有するもの、資本を投じて居るもの、單獨に經營するもの、支那と合辦で經營するもの等種々ある。我國が關係して居るものについては『時事年鑑』九六八頁にある。一寸見るだけでもいゝと思ふ。

IV　工業

1　主なる工業の種類及工業地。將來有望なものは？　日本が考へねばならぬ事柄は？

△機械工業は極めて不振の狀態にあるが、その理由は何だらう。

（手工工業と機械工業の得失、支那勞働者などについて考察して見よ）。

○産業に關する諸統計はダイアグラムで表はすことを試みよ。

九　數學指導案について

數學は精密科學であるから、特に順序を追ふて、一歩〳〵とゆつくり確かり進んでゆかねばならぬ。それで月指導案に配當する材料も、心理的にも論

理的にも前後脈絡があり、數學全體として、明瞭正確に筋が通つて居ることは、最も大切である。此の意味に於て、先づ數學全體としての系統案を作製せねばならぬ。此の案を基礎にして、學年・學期・月に材料を配當する。月指導案には（一）教科書或は參考書について、學習すべき章節を示し問題を示す。（二）月の材料を週に配當する。之れは學習の進度を明らかにするためであつて、第一週に配當した材料を第一週に、第二週のを第二週にといふやうに、週を追ふて學習を仕上げてゆくことを、要求するのではない。（三）指導案を立てることに習熟しないうちは、つい長たらしく書くやうになるものであるが、數學の指導案は、一から十まで說明することをなるべく避けねばならぬ。教科書や參考書の本文の要點に氣づくやうに、又は思考の絲口を見つけ得るやうに、暗示を與へるのが、上々の指導案である。指導案は、何處までも指導案であつて、教授案ではない。固より教科書や參考書の材料の選び方や排列の仕方や、書きあらはし方が拙劣なときは、詳細に解說する必要のあることは勿論である。（四）指導案には、既習材料との連絡關係を明かにすることに注意する。此の意味に於て、本月の學習に關係ある既習事項は、なるべく適當の方法を以て復習するやうに仕向ける。又未習材料と密接な關係のあるものは、暗示することもある。

要するに、斷片的知識をさけて、知識の有機的統一をはかることは、指導案に依る學習に於ては、特に大切である。（五）高中低の三程度に書きわける。低程度は、次々の材料を學習する上に、必要不可缺の材料であつて、全生徒は學習せねばならぬ責任を負ふて居るものである。之れを仕上げないうちは、次月の材料の學習に移ることを許されない。中及び高は、同一材料を深く研究するので、決して次月に學習する領域に侵入しない。

十　數學指導案例集

○算術指導案例

地理で天體のことを學習したから、數學でもそれに連絡して、天體に關することを學習するといつたやうな仕組である。其の連絡は、本質的のもので、各學科の特質を破壞しないものか何うかは、材料が少いので判斷がつきかねる。

第一週

此の月は地理で、天體のことを學習したから、皆さんは、太陽や月や星や地球について、出來

るだけ澤山なことを知りたいでせう。

1　地球から太陽までの距離は、約九千三百萬哩で、金星までは、約二百三十萬哩である。金星は太陽よりもどれだけ地球に近いか。

2　地球は太陽を一周するに壹箇年、水星は八十八日かゝる。さうすると地球が一周する間に、水星は幾周することになるか。

3　水星の大さは地球の十七分の一であるとすれば、水星をどれだけ合せたら地球と同體積となるか。

4　土星は太陽を一周するに、二十九年半かゝる。地球が一周するよりも、どれだけ長くかゝるか。

5　地球は、一時間につき約六萬八千哩の速さで、太陽の周圍を公轉して居る。一日二十四時間に、どれほど公轉することになるか。

6　太陽と地球の距りは九千三百萬哩で、光は此の間を八秒時で地球に達する。光の速さはどれだけか。

第二週

1　火星の一ケ年は、地球の六百八十六日にあたる。地球の何ケ年になるか。

2　金星の一ケ年は、地球の二百二十四日にあたる。地球の一ケ年のどれほどになるか。

3　前週に地球の公轉の速さを示したが、一秒時にどれほどの速さであつたか。

4　次の遊星のうち、どれが一番大きい直徑を持つて居るか。

海王星	三五、〇〇〇哩	土　星	七〇、〇〇〇哩
木　星	八五、〇〇〇哩	金　星	七、七〇〇哩
水　星	三、〇〇〇哩		

(一)　土星の直徑は金星よりも、どれほど大であるか。

(二)　金星の直徑は水星よりも、どれほど大であるか。

(三)　太陽の直徑(八六五、〇〇〇哩)は、水星の直徑の何倍に當るか。

第三週

5　私の方へ、練習題を貰ひに來なさい。

1　地球が地軸で、完全に一廻轉するに要する時間を、恒星日といふ。一ヶ年の恒星日は三六六・二四日で、普通日は三六五・二四日である。此の二つの日の差は、十年、六十五年、三十九年に各々どれほどの日數、時數、分數、秒數になるか。

2　若し或時計が、恒星日をあらはすものとすれば、一ヶ年に二十四時間だけ普通日よりも進むことになる。此の時計の一日は、普通日の何分にあたるか。又何秒にあたるか。

3　オリオン星群の中に狼星がある。狼星の南方にキャノバス星がある。アールゴー星群の中で、一番よく輝く星である。(希臘の神話に、ヂエーソンがアールゴーといふ名の船に乘つて、金毛勳章を搜しに行つた話がある。アールゴーといふ星の名は、其の船の名からつけたものである。)若しキャノバス星の光の强さは、太陽の光の强さに一萬倍し、狼星の光の强さは太陽の光の强さに四十倍であるとしたならば、キャノバス星の强さは狼星の何倍に當るか。

4　『北斗七星の天文學』に依ると、大熊星を研究するに最もよい月は、午後九時に觀察するなら、一月から七月までゞある。若し十一時に觀察するならば一ヶ月早く研究することが出來る。若し一時と三時に觀察しやうとすれば、何月から何月の間が最もよいか。

5　練習課題を貰ひに來なさい。

第四週

1　地球と太陽の距離の、百五倍の遠方にある遊星と、太陽の距離は何程であるか。

2　太陽の光が、其の遊星に達するに、十四時間かゝつたとすれば、一秒間の光の速さは、何程であるか。

3　土星の一ヶ年は二萬三千日でありとすれば、地球の一ヶ年の日數の何倍にあたるか。

4　若し牡牛宮(黃道帶の第二宮)は、九月から十二月末まで、夕方東方の天空に輝いて居るとすれば、幾日間見えるわけか。

5　牡牛宮は、一月から五月までは、晩に天空高く輝いて居る。それからは毎晩少しづゝ西方に傾いて、終に消えて見えなくなる。消失するまでに幾日間かゝるか。

6　若し太陽に一番近い水星が、太陽から三千六百萬哩隔たつて居るとすれば、地球と太陽の隔りに比べて何程近いか。

光が水星から地球に達するまでに、約四分間かゝる。一分間の速さはどれほどか。

7　火星の觀察の記錄中で一番古いのは紀元前二七二年である。今から何年前にあたるか。

○算術指導案例（小學校）　第五年級

第一週

此の月は、主として第四年級の時に學習した、算術の復習をして見よう。復習は既に習つたことを更に確實にし、忘れないやうにするために、大切なものである。先づ皆さんは、今迄に、どんなことを學習したかを、調べて見よう。皆さんは、分數と、單純小數と、長乘除法の（因數を用ひずに、十二以上の大數を用ひて乘除すること）學習を終へたわけである。それで、先づマクドガル著『算術指南』第五卷二頁の乘除の例題をして見なさい。分らぬことは私にきゝなさい。練習題A及びBの各々のうちから、少くとも三題を選んでして見よ（以上は二日分の仕事）。次に『新撰算術』第五卷の練習題五をして見よ（三日分の仕事）。練習題をして仕舞つたら、直に提出せよ。

（第二・三・四週省略）

○算術指導案例（小學校）　第三年級（一〇—一一歳）

第一週

第一日　1　$\frac{31067 \times 26653}{3285 - 2999}$

2　62里18町11間3尺＋9里6町＋132里16町9間＋54里13町8間

3　ベースボールの帽子は一個五十錢する。今一組十一人の組、十九組の帽子を買つたとすれば、何程支拂へばよいか。

4　貳錢銅貨、十三萬八千七百十五枚の金高はいくらか。

第三日　算術書第一卷の練習題、五一の二番と、四番と、六番。

第四日　同書、同卷同題の八番と、十番と、十二番と、十四番。

第五日　右同、五二の七番と、九番と、十三番。

（第二・三・四週略）

○算術指導案例（小學校）　第五年級　三月

一　學　習

1　教科書の三二――三三頁の小數の乘除を學習せよ。

2　三五頁にある第一圖を畫き、傍に書き示してある通りのことをなせ。

3　三六頁の四番を讀んで、問題を作れ。

4　三九頁にある物價表を完成せよ。

5　四三頁の例に依つて比の意味を學べ。歸一法と分數法を研究せよ。

二　練習題（筆答）

1　三二頁十番のａｂｃ

2　三三頁の５６９

3　三七頁の３４５６

4　四〇頁の１２３

5　四六頁の５６７

三　指導講義

三月十日（金）の午前九時半から、第五年級に對して、「比の用法」についての講義がある。希望の者は他の年級生徒でも、聽講してよい。

○幾何指導案例（一一歳）　第二年級　一月二十八日

第三週

一　復習問題を二題選んだが、出來るか知らん？

1　一人の男が、或地點から塔の尖頭の角度を測つたら、三十度あつた。其の地點から三百尺近づいて測つたら、六十度あつた。塔の高さはどれほどあるか。

2　一人の男が、Ｏ點に立つて居て、周圍にある次の物の角度を測つた。

教會	四七度	城	一一五度	山	一九〇度
旗竿	二八〇度	小屋	三二〇度	枯草積	二四五度

圖表を畫いて之れ等の方角を示せ。

二　次のは、求積の面白い問題である。必要があつたら、圖を畫いて考へよ。綺麗に、正しく、書け。

1 周圍に路を持つて居る美しい芝生の庭園がある。庭園は五十五尺に四十尺あつて、路幅は五尺ある。此の庭園の面積はどれほどあるか。

2 百三十五尺に五十尺の長方形の芝生の庭園があつて、幅三尺の路が、長い側の兩方について居る。路と芝生の面積を見出せ。

3 庭園の面積が三百平方尺ある。幅が十五尺ありとすれば、長さは何程あるか。

4 次のものゝ表面積を測れ。

a 試驗室　b 小さな折疊食卓　c 大食卓

（右の問題は、全生徒は仕上げねばならぬ。）

三 中程度　右の問題を仕上げた者は、次のをしなさい。

1 一尺平方と一平方尺は、どんなに違つて居るか。

2 一尺八すと一尺五すの長方形の地積に、一個$\frac{3}{4}$寸平方の芝生を敷きつめるには、どれほど要るか。

3 $7\frac{3}{4}$寸平方の紙片から、$4\frac{1}{2}$すに$3\frac{1}{2}$すの長方形を切りとれば、幾平方寸殘るか。

四 高程度　中程度の問題を仕上げたら、次のをしなさい。

1 一卷の壁紙は、長さ十二ヤード、幅二十一インチある。一卷の壁紙の面積を見出せ。縦十七呎半、横十三呎半、高さ十二呎半の四周の壁を張るに、幾卷要るか。但し窓の面積は十七ヤード三分二平方で、全體に要した紙の九分一は、張損つて棄てた。

2 十五呎に二十二呎ある室の、高さ二呎ある四周の腰板にヴニスを塗るには、どれほどかかるか。但しヴニスの代價は、一平方呎につき五錢である。

○代數指導案例（一五—一七歳）

教料書　ホール、ナイト共著學校代數（マクミリアン出版）

第四週（第一、二、三週は同じ形であるから省略）、

第三十五章三二九—三三四節。調和級數及び調和中項。等差中項、等比中項、及び調和中項。

例題　三十五

低……一、三、四、六、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一八、二〇、二五、二六、三二、

中……二七、三〇、三四、三六、

高……二八、二九、三三、三七、

範　例　三十五

四　2、$1\frac{1}{2}$、1なる級數の第十一項を見出せ。

一二　$\frac{1}{x+y}$と$\frac{1}{x+y}$の調和中項を見出せ。

二九　若し$\frac{a+b}{2}$.b.$\frac{b+c}{2}$が調和級數なるときは、a b cは等比級數をなす。

三四　若しa b c dが等比級數ならば、$(b-c)^2=ac+bd-2ad$であることを證明せよ。

○算術指導案例

教科書　チグネル、バターソン共著の算術書(オクスフォード版)

第一週

教科書、第十八章二三一—二三二、單利。

例　題　第十八章其ノ一

低……七、一三、二〇、二五、

中……二六、二九、

高……三三、

範　例　第十八章其ノ一のうちで、

二〇　六萬七千圓を、年利率二分七厘五毛で、六月十二日から翌年一月四日まで預けた利息を見出せ。

二六　年利率二分の、次の預金通帳の、年末に於ける、利子を計算せよ。

	(預入)	(支拂)
一月　一日—	七四七・六〇圓	—
二月　三日—	四五〇・〇〇	—
三月　十五日—	—	五二三・四〇圓
五月　三十日—	四七五・〇〇	—
六月　十九日—	—	四二一・〇〇
八月二十四日—	二〇〇・〇〇	—
九月　十二日—	—	三五四・〇〇